

年報

青森県立美術館

令和3年度

青森県立美術館の沿革

1990年 3月	美術館の設置について検討を開始することを表明
1991年 1月	美術館、音楽・演劇ホール等の複合文化ゾーンである「総合芸術パーク」の検討開始
1996年 2月	「総合芸術パーク」の建設場所を、三内丸山遺跡に隣接した移転予定の総合運動公園跡地に決定 「総合芸術パーク」の核となる美術館を先行し整備することが決定
1999年度	美術館設計競技を実施、最優秀者に青木淳氏
2000年度	建築基本設計
2001年度	建築実施設計
2002年度	美術館建築工事着工
2003年度	別棟で建築予定だったアトリエとレジデンスを休止、同じく別棟で建築予定だったレストランとミュージアムショップを美術館本体に組み込む等見直しを行う
2005年 9月20日	美術館竣工
2006年 3月17日	「運営諮問会議」設置
2006年 4月 1日	青森県立美術館開館準備室設置
2006年10月17日	「青森県立美術館条例」制定
2006年 6月13日	開館プレス発表開催
2006年 7月13日	開館（館長 三村 申吾）
2007年 7月24日	博物館法に基づく博物館相当施設登録（青森県教育委員会告示第11号）
2007年 9月13日	「県民のための美術館づくり懇話会」設置
2008年 7月19日	あおもり犬屋外連絡通路開通
2008年 7月20日	青森県立美術館2周年記念シンポジウム開催
2009年 1月 1日	館長 鷹山 ひばり 就任
2010年 5月 7日	入館者 150万人達成
2010年 7月 8日	あおもり犬えさ皿完成
2011年 7月11日	入館者 200万人達成
2011年 7月13日	開館5周年
2012年11月14日	入館者 250万人達成
2013年11月14日	入館者 300万人達成
2015年 4月 1日	館長 杉本 康雄 就任
2016年 3月	入館者 350万人達成
2016年 3月19日	「青森県立美術館アドバイザーボード」設置
2016年 7月13日	開館10周年
2016年12月23日	八角堂リニューアル 《Miss Forest / 森の子》完成
2018年 5月25日	入館者 400万人達成
2021年 7月13日	開館15周年

企画展

富野由悠季の世界：ロボットアニメの革新者

開催概要

2021年3月6日（土）－2021年5月9日（日）

開催日数：62日

開館時間：9:30 - 17:00（最終入場 16:30）

休館日：3月22日（月）、4月12日（月）

会場：青森県立美術館 B1F、B2F 展示室

主催：富野由悠季の世界展青森実行委員会（青森朝日放送、青森県観光連盟、青森県立美術館）

企画協力：神戸新聞社

特別協力：サンライズ、東北新社、手塚プロダクション、日本アニメーション、オフィス アイ

協力：青い森鉄道、JR 東日本青森商業開発

後援：東奥日報社、陸奥新報社、デーリー東北新聞社、青森ケーブルテレビ、エフエム青森

観覧料：一般 1,500円（1,300円）

高大生 1,000円（800円）

中学生以下 無料

※（ ）は前売券及び20名以上の団体料金

※心身に障がいのある方と付添者1名は無料

総入場者数：16,553人

有料入場者数：14,092人

関連行事

(1) トーク「めぐりあい JAXA 的ガンダム論」

日時：4月17日（土）14:00 - 15:00

会場：ワークショップ A

講師：度會英教（宇宙航空研究開発機構）、澤隆志（キュレーター）

(2) 街中連携イベント：富野由悠季監督映画作品上映会

会期中に県内の映画館と連携し、シネマディクト（青森市）と八戸フォーラム（八戸市）にて富野監督作品の特集上映会を行った。

(3) 対談「富野由悠季×樋口真嗣：ロボットアニメの過去、現在、そして未来」

日時：4月25日（日）14:00 - 15:30

会場：シアター

講師：富野由悠季、樋口真嗣（映画監督）

※感染症対策のため当初の3月6日開催から延期。首都圏の緊急事態宣言が解除されなかったため、無観客での収録、配信となった。

(4) 劇場版『Gのレコンギスタ I・II』特別上映会

日時：5月5日（水・祝）13:30 - 17:00

会場：シアター

※感染症対策のため定員を絞って開催した。

展覧会カタログ

総ページ数：416頁

サイズ：257 × 182mm

編集：天本伸一郎

執筆：山口洋三（福岡市美術館）、小林公（兵庫県立美術館）、岡本弘毅（兵庫県立美術館）、川西由里（島根県立石見美術館）、工藤健志（青森県立美術館）、若松基（富山県水墨美術館）、村上敬（静岡県立美術館）、藤津亮太

デザイン：植松久典

編集協力：西崎尚吾

発行年：2019年6月22日

発行：株式会社キネマ旬報社

印刷・製本：シナノ印刷株式会社



ポスター



展示風景

事業概要

当初は2020年4月18日（土）－6月21日（日）の会期で開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、1年延期となった。

演出家、富野由悠季（1941－）は、それまでの「勧善懲悪」「単純明快」を常とするロボットアニメに「確固たる世界観」と「深いドラマ」を取り入れ、その構造を大きく変革させた。本展は、大きな社会現象となった『機動戦士ガンダム』（1979年）をはじめ、「ガンダム」シリーズの他、『伝説巨神イデオン』（1980年）、『戦闘メカザブングル』（1982年）、『聖戦士ダンバイン』（1983年）、劇場版『Gのレコンギスタ』（第3部2021年夏公開予定 / 全5部作）などで総監督を務め、国内外のアニメーションのみならず、現代文化に対しても多大な影響を与えてきた。そうした富野の仕事の約3,000点に及ぶ作品、資料で回顧、検証する初の展覧会であった。

本展は全国6館の共同企画で青森が最終会場となったため、MS「リ・ガズィ」のダミーバルーンの原寸大胸像や、世界的インダストリアルデザイナーであるシド・ミードによる『∀ガンダム』のデザインスケッチのパネル展示、玩具・模型の充実した展示、さらに展示の最後にエンディングコーナーを追加し、JAXAや現代作家によるインスタレーションを設置するなど、美術館の個性的空間を活かしつつ、巡回館最大規模で開催し、独自性を強く打ち出した。

期間中はコロナ禍（第4波）ということもあり、予定していた関連イベントも中止や日程変更などが重なり、また積極的な広報、集客活動も控えていたため、観覧者数の目標値は達成できなかったが、県内のみならず県外からも多くの愛好家が訪れ、最終的には16,000人を超える来館者があった。

アニメや漫画の展覧会は近年激増しているが、テレビや映画館、漫画本では味わえない展覧会ならではの体験をいかに提供していくか。美術館にとっては新しいメディアであるアニメや漫画の展示方法はまだ確立の途上にあるが、「空間」を活用した新しい展示の手法も提示できたのではないかと考えている。

展示テーマ：旅立ちと帰還、対立と和解、生と死、破滅と再生

第1部：宇宙（そら）へあこがれて

1章：富野由悠季を形作ったもの

少年時代のスケッチやメモや、虫プロダクションに入社し、演出を担当した『鉄腕アトム』や、フリーとなって「コンテ千本切りの富野」と称されていたころの絵コンテや資料（『アルプスの少女ハイジ』など）などの初期資料を紹介する。

2章：それでも生きていかねばならない

紹介作品：海のトリトン / 勇者ライディーン / 無敵超人ザンボット3

第2部：人は変わっていくのか？

1章：君は生き残ることができるか — 機動戦士ガンダム

2章：コスモスに君と — 伝説巨神イデオン

第3部：空と大地の間に逞しく

1章：命をかけて生きてます — 活劇とエンターテインメント

紹介作品：無敵鋼人ダイターン3 / 戦闘メカザブングル / OVERMAN キングゲイナー

2章：歴史もの、名作もの、時代もの — 人間ドラマはジャンルを超えて

紹介作品：ラ・セーヌの星 / しあわせの王子 / 闇夜の時代劇・正体を見る

第4部：魂の安息の地は何処に？

1章：ファンタジー — バイストン・ウェル・ストーリー

紹介作品：聖戦士ダンバイン / ガーゼィの翼 / リーンの翼

2章：スペースオペラ — ペンタゴナ・ワールド

紹介作品：重戦機エルガイム

第5部：刻の涙、流れゆくその先へ

1章：シャアの「逆襲」は成ったか？ — 『ガンダム』のシリーズ化と“ニュータイプ”の結末

紹介作品：機動戦士Zガンダム / 機動戦士ガンダムZZ / 機動戦士ガンダム 逆襲のシャア

2章：家族と戦争

紹介作品：機動戦士ガンダムF91 / 機動戦士Vガンダム / ブレンパワード

第6部：大地への帰還

1章：刻は未来に進むのか？ — 『∀ガンダム』

紹介作品：∀ガンダム / リング・オブ・ガンダム

2章：君の目で確かめろ！ — 『ガンダムGのレコンギスタ』

紹介作品：ガンダムGのレコンギスタ

掲載記事

掲載記事は新聞記事を主として記載している。

朝日新聞

2021年3月3日
展覧会スケジュール

2021年3月17日
展覧会スケジュール

2021年3月28日
「ガンダム」監督の富野さん活動紹介
県美で企画展

デーリー東北

2020年3月21日
アニメ・ガンダム監督「富野由悠季の世界」
変革者55年間の足跡

2021年3月6日
原画、映像で活動たどる 県立美術館きょう
開幕 富野由悠季の世界展

2021年3月12日
青森県美で企画展 富野由悠季監督に聞く
近未来に絶望しないで

2021年3月30日
富野由悠季の世界展広告

東奥日報社

2020年3月19日
富野展公式図録 優秀カタログ賞
19年美連協大賞

2020年3月19日
アニメ文化に大きな影響「富野由悠季」初の
企画展

2020年6月22日
展覧会新会期決定

2021年2月9日
来月6日開幕「富野由悠季展」 絵コンテな
ど3千点 県美

2021年3月6日
絵コンテなど3000点ずらり ガンダム監督
富野さん県美で企画展

函館新聞

2021年3月11日
展覧会情報

北鹿新聞

2021年3月25日
展覧会情報

2021年4月1日
イベント散歩 富野由悠季の世界展 紹介

毎日新聞

2020年3月8日
「ガンダム」富野さん企画展 資料3000点
「シン・ゴジラ」樋口監督と対談も

2020年3月28日
開催延期

陸奥新報

2020年3月6日
ガンダム県美に立つ!! 生みの親企画展「富
野由悠季の世界」来月開幕

2020年3月27日
催事延期・中止

2021年3月4日
開催告知

2021年3月31日
富野由悠季の世界展広告

企画展

大・タイガー立石展 — トラック、トラベル、トラップ、トランス

開催概要

2021年7月20日（火）－2021年8月31日（火）

※感染症拡大防止のため当初予定の9月5日より5日間前倒しで終了

開催日数：41日

開館時間：9:30 - 17:00（最終入場 16:30）

休館日：7月26日（月）、8月23日（月）

会場：青森県立美術館 企画展示室

主催：大・タイガー立石展青森実行委員会（青森県立美術館、青森放送、青森県観光連盟）、読売新聞社、美術館連絡協議会

協賛：ライオン、DNP 大日本印刷、損保ジャパン

特別協力：ANOMALY

協力：青い森鉄道、JR 東日本青森商業開発

後援：青森ケーブルテレビ、東奥日報社、エフエム青森、デーリー東北新聞社、陸奥新報社、青森県教育委員会

観覧料：一般 1,500円（1,300円）

高大生 1,000円（800円）

中学生以下 無料

※（ ）はWebチケット料金及び20名以上の団体料金

※心身に障がいのある方と付添者1名は無料

総入場者数：7,549人

有料入場者数：4,773人

展覧会カタログ

総ページ数：250頁

サイズ：2977 × 210mm

構成：工藤健志（青森県立美術館）、滝口明子（うらわ美術館）、

平野到（埼玉県立近代美術館）、牧野裕二（高松市美術館）

編集：菊池真央（埼玉県立近代美術館）、庄子真汀（千葉市美術館）、森啓輔（千葉市美術館）、藁科英也（千葉市美術館）

翻訳：小川紀久子

アートディレクション：藤本敏行（ライブアートブックス）

デザイン・制作：藤本敏行（ライブアートブックス）、中川貴雄（ライブアートブックス）

発行年：2021年4月10日

発行：千葉市美術館、青森県立美術館、高松市美術館、埼玉県立近代美術館、うらわ美術館

印刷・製本：ライブアートブックス



ポスター



展示風景

絵画、彫刻、漫画、絵本、イラストなどジャンルを縦横無尽に横断しながら独創的な表現活動を続けたタイガー立石の生誕80年を記念する大回顧展。本展は千葉市美術館、高松市美術館、埼玉県立近代美術館、うらわ美術館との共同企画であった。

これまでのような美術に軸足を置いて構成された回顧展とは異なり、漫画、絵本はもとより、これまで割愛されることの多かった商業イラストやデザインの仕事まで網羅。活動の幅をより広く、そして様々な表現領域の垣根を取り払い、タイガー立石という作家の個性や特質、そして表現としての先駆性を明らかにすることを目指した。青森会場では「タイガー」をペンネームとした多彩かつ独創的な立石作品の特徴を「トラベル」(観光)、「トラップ」(仕掛け)、「トランス」(変容)と、「トラ」を無理矢理にもじった切り口でまず紹介。その上で年代順に「足跡」(トラック)を振り返っていく構成とした。導入部の展示では作品をできるだけ客観的に捉えられるよう配置し、続く活動の歩みを紹介するコーナーからは逆に立石の脳内に入り込み、その迷宮を旅するような

空間になるよう意図。さらに土壁、土床の展示室を「混沌」的に、ホワイトキューブを「秩序」的に作品を配置することで、展示としても1本調子にならないよう配慮した。そして最後の展示室では明治・大正・昭和をテーマにした「大河画」3点を再び外部化。このように、森羅万象を描き続けた立石の多種多様な表現を、没入と客観の視点、攪乱と秩序の思考、その相互運動によって立石の活動の本質へと迫っていくような展示構成とした。

一方、8月には県内の新型コロナウイルス感染者数が月別で過去最多となり、予定していた関連イベントは一切開催できず、県では「感染症緊急パッケージ」を実施、県有施設の一斉休館に伴い展示も8月31日で打ち切りとなってしまった。会期も41日間と短くなったが、コロナ禍にもかかわらず平均184人/日の入館者があったことで一定の成果は出せたのではないかと考えている。

また通販を含めてカタログとグッズの売り上げが好評で、タイガー立石の潜在的な人気の高さがうかがえた。

出品作品

出品作品の項は、出品番号、作家・作品名、制作年、材質技法、寸法（高さ×縦×横、cm）、所蔵先の順に記した。

絵画・他

1 香春岳 1957（昭和32）年 油彩、キャンバス 40.7×47.0 田川市美術館	9 哀愁列車 1964/1988（昭和39/63）年 油彩、キャンバス 72.7×91.0 高松市美術館	17 大農村 1966（昭和41）年 油彩、キャンバス 60.5×73.0 個人蔵（田川市美術館寄託）	25 タイガー・ゲルニカ 1970（昭和45）年 鉛筆、紙 24.0×45.0 ANOMALY
2 共同社会 1963/1993（昭和38/平成5）年 ミクストメディア 270.0×540.0 青森県立美術館	10 東京パロック 1963-64（昭和38-39）年 油彩、キャンバス 89.4×145.5 高松市美術館	18 アラモのスフィンクス 1966（昭和41）年 油彩、キャンバス 130.3×162.0 東京都現代美術館	26 「タイガー立石 アレクサンドル・イオラス 画廊」ポスター下絵 1972（昭和47）年 鉛筆・色鉛筆、紙 87.5×66.5 埼玉県立近代美術館
3 ハン 1963（昭和38）年 グワッシュ、紙 35.0×25.0 千葉市美術館（サトウ画廊コレクション）	11 紅虎超特急 1964（昭和39）年 油彩、キャンバス 130.3×162.0 広島市現代美術館	19 大停電'66 1966（昭和41）年 油彩、キャンバス 130.3×162.0 福岡市美術館	27 「タイガー立石 アレクサンドル・イオラス 画廊」ポスター 1972（昭和47）年 リトグラフ、紙 82.3×58.9 埼玉県立近代美術館 田川市美術館
4 フン 1963（昭和38）年 グワッシュ、紙 64.4×44.3 青森県立美術館	12 昭和二十一年筑豊之図 1965（昭和40）年11月 油彩、キャンバス 38.0×45.5 ANOMALY	20 ピカソのオブジェ 1968（昭和43）年 石膏（着色） 28.0×34.0×18.0 千葉市美術館	28 エットレ・ソットサス/原画：タイガー立石 祝祭としての惑星：室内楽を聴くための筏 1972（昭和47）年 リトグラフ、紙 53.0×41.6 埼玉県立近代美術館
5 立石紘一のような 1964（昭和39）年 グワッシュ、紙 106.8×246.8 高松市美術館	13 強行着陸 1965（昭和40）年11月 油彩、キャンバス 53.0×65.0 田川市美術館	21 約束の時間 1970（昭和45）年 油彩、キャンバス 167.9×120.0 豊田市美術館	29 エットレ・ソットサス/原画：タイガー立石 祝祭としての惑星：巨大プロジェクト、イラ ワジ川とジャングルを望むパノラマ道路 1972（昭和47）年 リトグラフ、紙 53.0×42.0 個人蔵
6 パネル・キャンペーン 積算文明とは何であるか 1964（昭和39）年 グワッシュ、紙 21.0×90.5 ANOMALY	14 明治百年 1965（昭和40）年 油彩、キャンバス 130.3×162.0 青森県立美術館	22 はじめに革命あり 1970（昭和45）年 油彩、キャンバス 166.0×120.0 高松市美術館	30 エットレ・ソットサス/原画：タイガー立石 祝祭としての惑星：静止状態のウォーキング・ シティ 1972（昭和47）年 リトグラフ、紙 44.5×42.0 個人蔵
7 ネオン絵画 富士山 1964/2009（昭和39/平成21）年 ネオン、木、スチール、アクリル 194.0×296.0 個人蔵（青森県立美術館寄託）	15 大停電計画 1965（昭和40）年 コラージュ・油彩、板 R48.5 刈谷市美術館	23 タイガー・ゲルニカ 1970（昭和45）年 グワッシュ、板 13.8×32.0 ANOMALY	31 エットレ・ソットサス/原画：タイガー立石 祝祭としての惑星：ワルツ、タンゴ、ロック、 チャチャの音楽を提供する巨大なディスベン サー 1972（昭和47）年 リトグラフ、紙 56.3×41.6 埼玉県立近代美術館
8 汝、多くの他者たち 1964（昭和39）年 油彩、キャンバス 112.0×162.0 千葉市美術館	16 荒野の用心棒 1966（昭和41）年 油彩、キャンバス 130.3×162.0 国立国際美術館	24 タイガー・ゲルニカ 1970（昭和45）年 グワッシュ、板 13.8×32.0 ANOMALY	

32	エツトレ・ソットサス／原画：タイガー立石 祝祭としての惑星：香、LSD、マリファナ、 阿片、笑気ガスのディスペンサー 1972（昭和47）年 リトグラフ、紙 49.8 × 41.5 埼玉県立近代美術館	39	エツトレ・ソットサス／原画：タイガー立石 インドの想い出：ティー・ポット 1972-73（昭和47-48）年 リトグラフ、紙 51.0 × 41.6 埼玉県立近代美術館	48	The Entered Landscape 1974（昭和49）年1月 鉛筆・色鉛筆、紙 29.0 × 38.5 個人蔵	57	（無題） 1975（昭和50）年 鉛筆、紙 69.5 × 50.0 ANOMALY
33	エツトレ・ソットサス／原画：タイガー立石 祝祭としての惑星：星をみるためのスタジアム 1972（昭和47）年 リトグラフ、紙 54.5 × 42.0 埼玉県立近代美術館	40	エツトレ・ソットサス／原画：タイガー立石 インドの想い出：ティー・ポット 1972-73（昭和47-48）年 リトグラフ、紙 51.0 × 41.6 個人蔵	49	（無題） 1974（昭和49）年 鉛筆、紙 50.0 × 69.5 埼玉県立近代美術館	58	（無題） 1975（昭和50）年 鉛筆、紙 69.4 × 50.5 ANOMALY
34	エツトレ・ソットサス／原画：タイガー立石 祝祭としての惑星：巨大コンサートを開くた めのスタジアム 1972（昭和47）年 リトグラフ、紙 53.5 × 41.5 埼玉県立近代美術館	41	Changing 1973（昭和48）年 鉛筆・色鉛筆・水彩、紙 40.0 × 30.0 個人蔵	50	Moon's Satisfaction 1974（昭和49）年 鉛筆・色鉛筆、紙 37.5 × 66.5 埼玉県立近代美術館	59	（無題） 1975（昭和50）年 鉛筆・色鉛筆、紙 69.5 × 50.3 ANOMALY
35	エツトレ・ソットサス／原画：タイガー立石 祝祭としての惑星：瞑想にふけるための建物 1972（昭和47）年 リトグラフ、紙 56.5 × 46.3 埼玉県立近代美術館	42	A Point 1973（昭和48）年 シルクスクリーン、紙 76.0 × 57.0 うらわ美術館、埼玉県立近代美術館	51	Mad Moon 1975（昭和50）年 油彩、キャンバス 165.7 × 120.0 板橋区立美術館	60	『ラウル・バルビエリ&ジョルジオ・マリア ネッリ建築事務所』ポスター下絵 1975（昭和50）年 鉛筆・色鉛筆、紙 69.5 × 50.0 埼玉県立近代美術館
36	エツトレ・ソットサス／原画：タイガー立石 祝祭としての惑星：エロティックなダンスの ための寺院 1972（昭和47）年 リトグラフ、紙 50.0 × 42.0 個人蔵	43	I Feel, Therefore I Exist 1973（昭和48）年 シルクスクリーン、紙 76.0 × 57.0 うらわ美術館、埼玉県立近代美術館	52	輪のミステリー 1975（昭和50）年 油彩、キャンバス 100.0 × 79.2 板橋区立美術館	61	『ラウル・バルビエリ&ジョルジオ・マリア ネッリ建築事務所』ポスター 1975（昭和50）年 オフセット、紙 81.3 × 60.0 埼玉県立近代美術館
37	エツトレ・ソットサス／原画：タイガー立石 インドの想い出：ぶどうの入ったフルーツ・ ボール 1972-73（昭和47-48）年 リトグラフ、紙 52.0 × 41.6 埼玉県立近代美術館	44	Planets Blossom 1973（昭和48）年 シルクスクリーン、紙 76.0 × 57.0 うらわ美術館、埼玉県立近代美術館	53	Wiper in Jungle 1975（昭和50）年 油彩、キャンバス 166.0 × 120.0 ANOMALY	62	『ダルミネ社 1977年』カレンダー下絵 1976（昭和51）年 色鉛筆・鉛筆・インク・水彩、紙 （一部、画面に貼り付け） 2枚組、各43.0 × 39.0 埼玉県立近代美術館
38	エツトレ・ソットサス／原画：タイガー立石 インドの想い出：ティー・ポット 1972-73（昭和47-48）年 リトグラフ、紙 53.0 × 41.6 埼玉県立近代美術館	45	Cubic Worlds 1973（昭和48）年 シルクスクリーン、紙 76.0 × 57.0 うらわ美術館、埼玉県立近代美術館	54	レモン・ムーン 1975（昭和50）年 油彩、キャンバス 100.0 × 80.0 ANOMALY	63	Green Monster 1976-77（昭和51-52）年 油彩、キャンバス 66.0 × 120.0 田川市美術館
		46	Mirano Torino Superway 1974（昭和49）年 シルクスクリーン、紙 57.0 × 76.0 うらわ美術館、埼玉県立近代美術館	55	Consciousness About Humanbody 1975（昭和50）年 油彩、キャンバス 166.0 × 120.0 ANOMALY	64	Spider's Myth 1978（昭和53）年 リトグラフ、紙 37.5 × 36.5 埼玉県立近代美術館
		47	The Organic Whole 1974（昭和49）年 シルクスクリーン、紙 76.0 × 57.0 うらわ美術館、埼玉県立近代美術館	56	Corn City 1975（昭和50）年10月 鉛筆・色鉛筆、紙 55.0 × 42.0 個人蔵	65	The Machine 1978（昭和53）年 リトグラフ、紙 37.5 × 36.6 埼玉県立近代美術館

66 Coral Moon 1978 (昭和 53) 年 シルクスクリーン、紙 46.1 × 34.3 うらわ美術館、埼玉県立近代美術館	75 Pisa 1979 (昭和 54) 年 シルクスクリーン、紙 46.0 × 34.0 うらわ美術館、埼玉県立近代美術館	82 自作封筒：Tiger Tateishi, Super Multi Dimension 1970 年代 (昭和 45-54 年) 印刷物 57.0 × 43.8 埼玉県立近代美術館	90 ミクロ富士 1984 (昭和 59) 年 油彩、キャンバス 112.0 × 162.0 森美術館
67 リッキー・ジアンコ『アルチンボルド』レコード・ジャケット原画 a) 下絵 b) 宣伝用印刷物 1978 (昭和 53) 年 a) 水彩・鉛筆、紙 b) リトグラフ、紙 a) 33.8 × 47.0 b) 50.0 × 35.3 埼玉県立近代美術館	76 アレクサンドロ・メンディーニ著『家事の風景』挿画下絵 a) 八角形のコーヒー&ティーカップ・セット デザイン：カルロ・アレッシィ 1935-37 年 b) 円筒形のコーヒー&ティーカップ・セット デザイン：カルロ・アレッシィ 1945 年 c) 《実用性のないオブジェ 負のトポロジーのための花器》企画：サルバドール・ダリ 1973 年 d) コーヒーメーカー案、企画：アレッシィ社とアレクサンドロ・メンディーニ 1979 年 1979 (昭和 54) 年 鉛筆・インク、トレーシングペーパー a) 28.5 × 36.3 b) 33.5 × 51.0 c) 36.4 × 50.7 d) 36.4 × 57.0 埼玉県立近代美術館	83 アレッシィ社の T シャツ下絵 a) アッキーレ・カスティリオーニ：「バッテリー駆動式の調味料ディスペンサー」 b) リヒャルト・ザッパー：「スパゲッティを食べるためのベルリンのフォーク。ポストモダンの小物付」 c) エットレ・ソットサス：「ピンクのパン」 d) アレクサンドロ・メンディーニ：「人型のコーヒーメーカー」 1981 (昭和 56) 年 鉛筆・インク、トレーシングペーパー a) 42.5 × 36.5 b) 34.5 × 58.0 c) 37.0 × 31.0 d) 43.0 × 33.5 埼玉県立近代美術館	91 歴史の卵 1985 (昭和 60) 年 グワッシュ、ボード (紙) 22.3 × 22.0 (34.0 × 25.5) ANOMALY
68 Cabbage Moon 1979 (昭和 54) 年 シルクスクリーン、紙 46.0 × 34.0 うらわ美術館、埼玉県立近代美術館	77 ファブリ社『世界の発見』挿画下絵：新しい知識 1979 (昭和 54) 年 ペン・鉛筆・色鉛筆、トレーシングペーパー・紙 27.7 × 36.5 ANOMALY	84 The Moon Grows to the Moon 1981 (昭和 56) 年 シルクスクリーン、紙 83.0 × 65.0 うらわ美術館、埼玉県立近代美術館	92 平安のモンスター 1985 (昭和 60) 年 グワッシュ、ボード (紙) 29.8 × 23.5 (38.0 × 27.0) ANOMALY
69 Big Diamond 1979 (昭和 54) 年 シルクスクリーン、紙 46.0 × 34.0 うらわ美術館、ANOMALY	78 ファブリ社『世界の発見』挿画下絵：山地 1979 (昭和 54) 年頃 ペン・鉛筆・色鉛筆、トレーシングペーパー・紙 41.6 × 58.4 ANOMALY	85 鬼瓦 1983 (昭和 58) 年 グワッシュ、ボード (紙) 23.2 × 23.7 (26.6 × 38.0) ANOMALY	93 ある軍縮会議 1986 (昭和 61) 年 8 月 30 日 グワッシュ、紙 35.0 × 49.5 ANOMALY
70 Beautiful Moon 1979 (昭和 54) 年 シルクスクリーン、紙 46.0 × 34.0 うらわ美術館、埼玉県立近代美術館	79 ファブリ社『世界の発見』挿画下絵：(都市と農村) 1979 (昭和 54) 年頃 ペン・鉛筆・色鉛筆、トレーシングペーパー・紙 35.5 × 50.5 ANOMALY	86 時の列車 1984 (昭和 59) 年 3 月 6 日 グワッシュ、ボード (紙) 25.7 × 21.9 (35.0 × 25.9) ANOMALY	94 Last Dance 1986 (昭和 61) 年 シルクスクリーン、紙 34.0 × 46.0 田川市美術館
71 Peacock Moon 1979 (昭和 54) 年 シルクスクリーン、紙 46.0 × 34.0 うらわ美術館、埼玉県立近代美術館	80 ファブリ社『世界の発見』挿画下絵：大地の本 1979 (昭和 54) 年頃 鉛筆・色鉛筆、トレーシングペーパー 47.5 × 62.5 ANOMALY	87 列島変身 1984 (昭和 59) 年 3 月 23 日 グワッシュ、ボード (紙) 27.8 × 20.1 (33.0 × 25.7) ANOMALY	95 The Residents "The Eyeball Show (Live in Japan)" レコード・ジャケット原画 1986 (昭和 61) 年 インク・水彩、ボード (紙) 39.0 × 76.1 個人蔵
72 Moon's Satisfaction 1979 (昭和 54) 年 シルクスクリーン、紙 46.0 × 34.0 うらわ美術館、埼玉県立近代美術館	81 ファブリ社・教科書副読本の挿画下絵：コミュニケーションの理解 1979 (昭和 54) 年頃 ペン・鉛筆・色鉛筆、トレーシングペーパー・紙 40.5 × 60.0 ANOMALY	88 都市 1984 (昭和 59) 年 4 月 27 日 グワッシュ、ボード (紙) 22.8 × 16.4 (25.8 × 18.9) ANOMALY	96 海溝回路 1987 (昭和 62) 年 鉛筆・色鉛筆・銀箔、和紙 (楮染) 90.0 × 33.0 (133.5 × 47.0) ANOMALY
73 Time Elevator 1979 (昭和 54) 年 シルクスクリーン、紙 46.0 × 34.0 うらわ美術館、埼玉県立近代美術館	82 ファブリ社『世界の発見』挿画下絵：富士爆発 1984 (昭和 59) 年 グワッシュ、ボード (紙) 23.2 × 16.7 (27.7 × 21.4) ANOMALY	89 富士爆発 1984 (昭和 59) 年 グワッシュ、ボード (紙) 23.2 × 16.7 (27.7 × 21.4) ANOMALY	97 海底遭難 1987 (昭和 62) 年 鉛筆・色鉛筆・金箔、和紙 (土佐雁皮草木染) 89.5 × 33.0 (151.5 × 44.0) ANOMALY
74 The First Suggestion 1979 (昭和 54) 年 シルクスクリーン、紙 46.0 × 34.0 うらわ美術館、埼玉県立近代美術館			98 拡大月 1987 (昭和 62) 年 鉛筆・色鉛筆・金箔、クラフト紙 74.0 × 52.5 (144.0 × 65.0) 個人蔵

99 蜜柑月 1987 (昭和 62) 年 鉛筆・色鉛筆・金箔、和紙 (土佐雁皮草木染) 75.3 × 53.0 (143.5 × 65.0) ANOMALY	108 太公望城 1989 (昭和 64/平成元) 年 油彩、キャンバス 31.8 × 41.2 ANOMALY	117 大正伍萬浪漫 1990 (平成 2) 年 油彩、キャンバス 227.3 × 357.6 田川市美術館	126 瓢箪と龍虎 1992 (平成 4) 年 油彩、キャンバス 145.5 × 268.2 ANOMALY
100 造形月 1987 (昭和 62) 年 鉛筆・色鉛筆・金銀混箔、クラフト紙 74.5 × 53.0 (145.5 × 64.8) 個人蔵	109 百虎奇行 1989 (昭和 64/平成元) 年 油彩、キャンバス 89.4 × 145.5 田川市美術館	118 車内富士 (下絵) 1991 (平成 3) 年 鉛筆・色鉛筆、紙 32.5 × 45.0 個人蔵	127 水の巻 1992 (平成 4) 年 鉛筆・金箔、紙 37.0 × 891.0 (6 巻) 豊田市美術館
101 精虫社会 1987 (昭和 62) 年 鉛筆・色鉛筆・銀箔、和紙 (土佐雁皮草木染) 82.0 × 53.0 (146.0 × 64.7) ANOMALY	110 《昭和素敵大敵》下絵 1990 (平成 2) 年 鉛筆・色鉛筆・コラージュ、紙 26.2 × 84.0 ANOMALY	119 車内富士 1991 (平成 3) 年 油彩、キャンバス 227.3 × 162.0 高松市美術館	128 富士の DNA 1992 (平成 4) 年 油彩、キャンバス 145.5 × 268.2 ANOMALY
102 情報の海 I 1989 (昭和 64/平成元) 年 油彩、キャンバス 89.4 × 130.3 ANOMALY	111 昭和素敵大敵 1990 (平成 2) 年 油彩、キャンバス 227.3 × 715.2 田川市美術館	120 借景亭 1992 (平成 4) 年 油彩、キャンバス 227.3 × 162.0 豊田市美術館	129 再制作《ネオン絵画 富士山》のための ドローイング 1992 (平成 4) 年 鉛筆・色鉛筆、紙 各 29.7 × 42.0 田川市美術館
103 遠望装置 1989 (昭和 64/平成元) 年 油彩、キャンバス 22.0 × 16.0 個人蔵	112 《明治青雲高雲》下絵 1 1990 (平成 2) 年 鉛筆・色鉛筆、紙 25.5 × 42.0 ANOMALY	121 壱富士 1992 (平成 4) 年 油彩、キャンバス 65.2 × 100.0 泉 和浩氏蔵	130 仮想《虎祭》現実 1993 (平成 5) 年 油彩、キャンバス 65.2 × 100.0 泉 和浩氏蔵
104 封函虎 1989 (昭和 64/平成元) 年 油彩、キャンバス 22.0 × 27.0 千葉市美術館 (サトウ画廊コレクション)	113 《明治青雲高雲》下絵 2 1990 (平成 2) 年 鉛筆・色鉛筆、紙 26.2 × 83.9 ANOMALY	122 七転八虎富士 1992 (平成 4) 年 油彩、キャンバス 65.2 × 100.0 ANOMALY	131 大地球運河 1994 (平成 6) 年 油彩、キャンバス 145.5 × 268.2 ANOMALY
105 椰子と階段 1989 (昭和 64/平成元) 年 油彩、キャンバス 31.0 × 40.0 千葉市美術館 (サトウ画廊コレクション)	114 《明治青雲高雲》下絵 3 1990 (平成 2) 年 鉛筆・色鉛筆・コラージュ、紙 25.4 × 79.7 ANOMALY	123 松虎富士 1992 (平成 4) 年 油彩、キャンバス 65.2 × 100.0 ANOMALY	132 情報守護神 1994 (平成 6) 年 油彩、キャンバス 145.5 × 268.2 ANOMALY
106 案山子のある風景 1989 (昭和 64/平成元) 年 油彩、キャンバス 65.0 × 75.0 ANOMALY	115 明治青雲高雲 1990 (平成 2) 年 油彩、キャンバス 227.3 × 715.2 田川市美術館	124 雄鶏楼と富士 1992 (平成 4) 年 油彩、キャンバス 194.0 × 130.0 ANOMALY	133 音雷鎮走査 1994 (平成 6) 年 油彩、キャンバス 145.5 × 268.2 ANOMALY
107 母型装置 1989 (昭和 64/平成元) 年 油彩、キャンバス 50.0 × 60.7 ANOMALY	116 《大正伍萬浪漫》下絵 1990 (平成 2) 年 鉛筆・色鉛筆、紙 25.3 × 39.7 ANOMALY	125 香春岳対サント・ピクトワール山 1992 (平成 4) 年 油彩、キャンバス 65.2 × 100.0 田川市美術館	134 FIORE 1995 (平成 7) 年 陶 52.0 × 38.0 × 63.0 田川市美術館

135
CÉZANNE
1995 (平成 7) 年
陶
53.0 × 43.0 × 36.0
個人蔵 (青森県立美術館寄託)

136
DE CHIRICO
1996 (平成 8) 年
陶
50.0 × 42.0 × 39.0
個人蔵 (青森県立美術館寄託)

137
GAUGUIN
1996 (平成 8) 年
陶
55.0 × 33.0 × 34.0
個人蔵 (青森県立美術館寄託)

138
HOPPER
1996 (平成 8) 年
陶
51.0 × 34.0 × 38.0
個人蔵 (青森県立美術館寄託)

139
MIRÓ
1996 (平成 8) 年
陶
58.0 × 36.0 × 32.0
個人蔵 (青森県立美術館寄託)

140
PICASSO
1996 (平成 8) 年
陶
60.0 × 39.0 × 30.0
個人蔵 (青森県立美術館寄託)

141
RIVERA
1996 (平成 8) 年
陶
58.0 × 40.0 × 37.0
個人蔵 (青森県立美術館寄託)

142
RYUSEI
1996 (平成 8) 年
陶
52.0 × 43.0 × 31.0
個人蔵 (青森県立美術館寄託)

143
TARO
1996 (平成 8) 年
陶
53.0 × 43.0 × 40.0
個人蔵 (青森県立美術館寄託)

144
VINCENT
1996 (平成 8) 年
陶
55.0 × 40.0 × 40.0
個人蔵 (青森県立美術館寄託)

145
METAFISICA
1996 (平成 8) 年
陶
55.0 × 40.0 × 40.0
個人蔵 (青森県立美術館寄託)

146
POTATO
1996 (平成 8) 年
陶
55.0 × 40.0 × 40.0
個人蔵 (青森県立美術館寄託)

147
3J
1996 (平成 8) 年
鉛筆・水彩、紙
各 37.0 × 26.0 (3点組)
青森県立美術館

148
税関吏ルソー
1998 (平成 10) 年
油彩、キャンバス
162.3 × 112.0
田川市美術館

149
キャベツハウス
1998 (平成 10) 年
油彩、キャンバス
194.0 × 130.3
ANOMALY

150
アンデスの汽車
1997-98 (平成 9-10) 年
油彩、キャンバス
194.0 × 130.3
東京ステーションギャラリー

漫画作品 (原画 / Illustration)

151
保安官と 41 人のならず者
1960 年代 (昭和 35-44 年)
インク・修正液、紙
各 27.3 × 39.4 (7点組)
ANOMALY

152
ノアノア ゴーゴー
1964 (昭和 39) 年 12 月
インク、紙
27.2 × 39.7、27.4 × 39.3、27.4 × 39.3、
27.3 × 39.3、27.4 × 39.3、27.4 × 39.8、
27.4 × 39.7、27.5 × 39.7、27.4 × 39.6
ANOMALY

153
スクラップスティック・ゾーン
1966 (昭和 41) 年
インク・スクリーントーン、紙
各 32.6 × 23.6 (3点組)
ANOMALY

154
コンニャロ商会 No.5 機械対生物
1967 (昭和 42) 年
インク、紙
36.4 × 32.2
ANOMALY

155
コンニャロ商会 No.16 ケンカ両成敗
1967 (昭和 42) 年
インク、紙
39.5 × 32.3
ANOMALY

156
コンニャロ商会 No.24 第 1 回 コンニャロ
オート・ショー
1967 (昭和 42) 年
インク、紙
39.5 × 32.0
ANOMALY

157
コンニャロ商会 No.25 水虫ニャロメ
1967 (昭和 42) 年
インク、紙
36.4 × 32.1
ANOMALY

158
コンニャロ商会 No.45 コンニャロ・クイズ
1968 (昭和 43) 年
インク、紙
36.1 × 31.8
ANOMALY

159
コンニャロ商会 No.47
1968 (昭和 43) 年
インク、紙
36.2 × 31.8
ANOMALY

160
[Tiger Tateishi] 扉原画
1968 (昭和 43) 年
インク・コラージュ、紙
39.3 × 27.2
ANOMALY

161
[Tiger Tateishi] p.15 原画
1968 (昭和 43) 年
インク・コラージュ、紙
39.3 × 27.2
ANOMALY

162
エンドレス・タイガー
1968 (昭和 43) 年
インク・コラージュ、紙
39.3 × 27.2
ANOMALY

163
タイガー！タイガー！
1968 (昭和 43) 年
乾式コピー、紙
27.3 × 19.8
ANOMALY

164
我瞑想於竹林
1968 (昭和 43) 年
インク・コラージュ、紙
39.4 × 27.2
ANOMALY

165
幕間
1968 (昭和 43) 年
インク・コラージュ、紙
36.2 × 30.9
ANOMALY

166
ピラミッドにて
1968 (昭和 43) 年
インク・コラージュ、紙
35.8 × 26.0
ANOMALY

167
げんこつ vs. げんこつ
1968 (昭和 43) 年
インク・コラージュ、紙
39.3 × 27.2、39.2 × 27.2、39.2 × 27.2、
39.3 × 27.2
ANOMALY

168
キジー・アンド・ルーシー
1970 (昭和 45) 年
インク、紙
48.2 × 36.4、48.4 × 36.4
ANOMALY

169
水上歩行術
1982 (昭和 57) 年
インク、紙
45.1 × 32.8
ANOMALY

170 月面の生成 1982（昭和57）年 インク、紙 44.9 × 32.6 ANOMALY	179 帯世界 1982（昭和57）年 インク・修正液、紙 44.9 × 32.6 ANOMALY	187 『タイガー立石作品集 コンニャロ+デジタル 商会』タイトル原画 1983（昭和58）年 インク・スクリーン・紙 21.8 × 31.1 ANOMALY	195 銀河帝国戦士勝ちぬきデスマッチ 12 ネクラス vs. ネナシス 1984（昭和59）年 インク・スクリーン・紙 27.0 × 19.2 ANOMALY
171 酔っぱらった月—色鉛筆の夜 1982（昭和57）年 インク、紙 44.9 × 32.9 ANOMALY	180 音巻物 1982（昭和57）年 インク、紙 44.7 × 32.9、44.7 × 32.8 ANOMALY	188 『タイガー立石作品集 コンニャロ+デジタル 商会』p149.原画 1983（昭和58）年 インク、方眼紙 36.5 × 25.6 ANOMALY	196 銀河帝国戦士勝ちぬきデスマッチ 13 KGBs vs. CIAs 1984（昭和59）年 インク・スクリーン・紙 26.0 × 19.0 ANOMALY
172 海宇宙 1982（昭和57）年 インク・修正液、紙 44.9 × 32.6 ANOMALY	181 サンゴムーン—極楽色の夜 1982（昭和57）年 インク、紙 44.9 × 32.6 ANOMALY	189 カー・デザインは見かけじゃない 1983（昭和58）年 インク・スクリーン・紙 27.3 × 19.5、27.3 × 19.5、27.3 × 19.7、 27.3 × 19.7 ANOMALY	197 虎家族 No.1 1984（昭和59）年 インク、紙 各 28.0 × 19.7（2点組） ANOMALY
173 陰陽月—藍染の夜 1982（昭和57）年 インク、紙 44.9 × 32.8 ANOMALY	182 月が月になる 1982（昭和57）年 インク、紙 44.9 × 32.5 ANOMALY	190 コンニャロからデジタルへ 1983（昭和58）年 インク・色鉛筆・修正液・スクリーン・紙、 方眼紙 各 36.5 × 25.7（4点組） ANOMALY	198 虎家族 No.7 1984（昭和59）年 インク、紙 各 28.0 × 19.7（2点組） ANOMALY
174 観光術 1982（昭和57）年 インク・修正液、紙 各 44.9 × 32.6（2点組） ANOMALY	183 『タイガー立石作品集 コンニャロ+デジタル 商会』カバー（表表紙部分）原画 1983（昭和58）年 インク、紙 26.6 × 38.8 ANOMALY	191 銀河帝国戦士勝ちぬきデスマッチ 3 クロネコヤマトス vs. コヅツミローブス 1984（昭和59）年 インク・スクリーン・紙 29.1 × 22.5 ANOMALY	199 虎家族 No.8 1984（昭和59）年 インク、紙 各 28.0 × 19.7（2点組） ANOMALY
175 熱い問答 1982（昭和57）年 インク、紙 44.9 × 32.8 ANOMALY	184 『タイガー立石作品集 コンニャロ+デジタル 商会』カバー（裏表紙部分）原画 1983（昭和58）年 インク、紙 26.6 × 38.8 ANOMALY	192 銀河帝国戦士勝ちぬきデスマッチ 7 ミサイルズ vs. 地对空海 1984（昭和59）年 インク・スクリーン・紙 29.3 × 22.4 ANOMALY	200 全然問答集 1 1986（昭和61）年 インク、紙 26.6 × 19.4 ANOMALY
176 メタモルフォーズ 1982（昭和57）年 インク、紙 45.0 × 32.8 ANOMALY	185 『タイガー立石作品集 コンニャロ+デジタル 商会』カバー（そで部分）原画（タイガー立 石 自画像） 1983（昭和58）年7月23日 インク・色鉛筆、方眼紙・トレーシングペー パー 30.7 × 20.4 ANOMALY	193 銀河帝国戦士勝ちぬきデスマッチ 9 骨なしチキンス vs. プリトーズ 1984（昭和59）年 インク・スクリーン・紙 27.3 × 19.7 ANOMALY	201 全然問答集 8 1987（昭和62）年 インク、紙 26.6 × 19.4 ANOMALY
177 風景かこみ術 1982（昭和57）年 インク、紙 44.9 × 32.9 ANOMALY	186 『タイガー立石作品集 コンニャロ+デジタル 商会』扉原画 1983（昭和58）年 インク、紙 26.6 × 38.8 ANOMALY	194 銀河帝国戦士勝ちぬきデスマッチ 10 ペプシス vs. ドリンカーズ 1984（昭和59）年 インク・スクリーン・紙 25.7 × 18.2 ANOMALY	202 全然問答集 9 1987（昭和62）年 インク、紙 26.6 × 19.3 ANOMALY
178 長城と日の出？ 1982（昭和57）年 インク、紙 44.8 × 32.8 ANOMALY			203 全然問答集 40 1988（昭和63）年 インク、紙 26.6 × 19.3 ANOMALY

204
全然問答集 47
1988 (昭和 63) 年
インク、紙
26.6 × 19.3
ANOMALY

205
全然問答集 52
1988 (昭和 63) 年
インク、紙
26.6 × 19.3
ANOMALY

絵本作品 (原画 / Illustration)

206
とらのゆめ
1984 (昭和 59) 年
アクリル、イラストボード
各 36.5 × 51.5 (18 点組)
個人蔵

207
さかさまさかさ
1986 (昭和 61) 年
アクリル、イラストボード
各 36.3 × 51.4 (21 点組のうち 4 点)
個人蔵

208
ぐにゃぐにゃ世界の冒険
1987 (昭和 62) 年
鉛筆・色鉛筆、ケント紙
各 37.7 × 52.9 (22 点組のうち 5 点)
個人蔵

209
すてきにへんな家
1988 (昭和 63) 年
グワッシュ、ケント紙
各 37.5 × 52.2 (22 点組のうち 4 点)
個人蔵

210
わるわるコンビ トとボンチョ
「コチョコチョ鳥のまき」
1992 (平成 4) 年
グワッシュ、ケント紙
51.5 × 37.5 (3 点)、59.5 × 41.5
個人蔵

211
顔の美術館
1994 (平成 6) 年
グワッシュ、ケント紙
各 38.0 × 51.5 (22 点組のうち 4 点)
個人蔵

212
ぼくの算数絵日記
1995 (平成 7) 年
グワッシュ、ケント紙
各 38.0 × 51.5 (22 点組のうち 4 点)
個人蔵

資料

M-01
タイトル不詳 (スケッチブックより)
1962 (昭和 37) 年
ペン・水彩、紙
各 25.0 × 35.5
田川市美術館

M-02
同人作品集「5」
1962 (昭和 37) 年
書籍
田川市美術館

M-03
積算文明展 (資料)
1964 (昭和 39) 年
湿式コピー (青焼)・他
田川市美術館、ANOMALY

M-04
観光芸術研究所「観光芸術研究所」設立ハガキ
1964 (昭和 39) 年
ハガキ (複製展示)
東京文化財研究所
(現代美術資料センター寄贈資料)

M-05
中村 宏《観光芸術多摩川展 (DAS KAPITAL)》
1964 (昭和 39) 年
8mm フィルム
作家蔵

M-06
平田 実《観光芸術研究所「路上歩行展」と
通勤者たち (東京駅～京橋界隈)》
1964 (昭和 39) 年
ゼラチン・シルバー・プリント (4 点)
東京ステーションギャラリー

M-07
観光芸術研究所「明治大学和泉校舎第 14 回
和泉祭」ポスター
1964 (昭和 39) 年
リトグラフ、紙
39.0 × 43.0
埼玉県立近代美術館

M-08
『Tiger Tateishi』
1968 (昭和 43) 年
書籍
ANOMALY

M-09
『Tiger Tateishi』 出版告知物
c.1968 (昭和 43) 年頃
シルクスクリーン、紙
27.0 × 39.0
ANOMALY

M-10
『タイガー・立石漫画集 No.2 (WANTED!)』
1968 (昭和 43) 年 9 月
書籍
ANOMALY

M-11
『プレクサス』no.16
1968 (昭和 43) 年 9 月
雑誌、Edition Planète (パリ) 刊
ANOMALY

M-12
フェルナンダ・ビヴァーノ、エットレ・ソツ
トサス編『ピアネータ・フレスコ』no. 2-3
1968 (昭和 43) 年
雑誌 (ミラノ)
埼玉県立近代美術館資料閲覧室

M-13
『プレクサス』no.28
1969 (昭和 44) 年 10 月
雑誌、Edition Planète (パリ) 刊
ANOMALY

M-14
『プレクサス』no.29
1969 (昭和 44) 年 11 月
雑誌、Edition Planète (パリ) 刊
ANOMALY

M-15
漫画のためのアイデアノート
1969-76 (昭和 44-51) 年
鉛筆・インク・色鉛筆、乾式コピー・他
ANOMALY

M-16
アラン・アルドリッジ編『ザ・ビートルズ・
イラストレイテッド・リリックス 2』
1972 (昭和 47) 年
書籍、Macdonald (ロンドン) 刊
ANOMALY

M-17
アレクサンドル・イオラス画廊
『TIGER TATEISHI』カタログ
1972 (昭和 47) 年
図録
埼玉県立近代美術館資料閲覧室

M-18
『カザベラ』no.365
1972 (昭和 47) 年 5 月
雑誌 (ミラノ)
埼玉県立近代美術館資料閲覧室

M-19
エミリオ・アンバース編『イタリア:ニュー・
ドメスティック・ランドスケープ』
1972 (昭和 47) 年
書籍 (ニューヨーク)
埼玉県立近代美術館資料閲覧室

M-20
パオロ・フォサッティ著『イタリアのデザイ
ン 1945-1972』
1972 (昭和 47) 年
書籍 (トリノ)
埼玉県立近代美術館資料閲覧室

M-21
『イン - デザインの論点とイメージ』no.8
1972 (昭和 47) 年 11-12 月
雑誌 (ミラノ)
埼玉県立近代美術館資料閲覧室

M-22
アイデアノート
1973-77 (昭和 48-52) 年
ノート (複製展示)

M-23
『カザベラ』no. 406
1975 (昭和 50) 年 10 月
雑誌 (ミラノ)
埼玉県立近代美術館資料閲覧室

M-24
『ダルミネ社 1977 年』カレンダー
1976 (昭和 51) 年
オフセット、紙
67.0 × 47.0
埼玉県立近代美術館

M-25
リッキー・ジアンコ『アルテンボルド』レコー
ド・ジャケット
1978 (昭和 53) 年
LP レコード (イタリア)
埼玉県立近代美術館

M-26
アレクサンドロ・メンディーニ著『家事の風
景』/原画:タイガー立石
1979 (昭和 54) 年
書籍 (ミラノ)
埼玉県立近代美術館資料閲覧室

M-27
『ドムス』no.602
1980 (昭和 55) 年 1 月
雑誌 (ミラノ)
埼玉県立近代美術館資料閲覧室

M-28 アレッシィ社のTシャツ a) アッキーレ・カスティリオーニ：「バッテリー駆動式の調味料ディスペンサー」 b) エットレ・ソットサス：「ピンクのパン」 c) ブルーノ・ムナーリ：「シンメトリカルなオイルとビネガーの容器」 1981（昭和56）年 Tシャツにプリント 各 65.0 × 63.0 埼玉県立近代美術館	M-37 「虎家族」のためのアイデアノート 1984（昭和59）年 鉛筆、ノート・他 ANOMALY	赤い覚醒 1964（昭和39）年 変 1963（昭和38）年	タイガー・ポップ 1966（昭和41）年
M-29 「モード」no.39 1981（昭和56）年5月 雑誌（ミラノ） 埼玉県立近代美術館資料閲覧室	M-38 「タイガー立石のデジタル世界」のための試作本 1985（昭和60）年頃 色鉛筆、乾式コピー・他 29.8 × 21.3 × 1.5 ANOMALY	一般性一般 1963（昭和38）年 人質 1963（昭和38）年 四つの標的のある形而上的絵画 1964（昭和39）年	3. 1969-1982年 ミラノの虎 レモンムーン —アイデアノートより 1975（昭和50）年3月7日 鉛筆・色鉛筆、紙 オーガニックエネルギー —アイデアノートより 1973（昭和48）年11月 鉛筆、紙
M-30 「遊境漫画術 虎の巻」のための試作本 1982（昭和57）年1月1日 乾式コピー・他 42.0 × 30.0 × 2.0 ANOMALY	M-39 「タイガー立石のデジタル世界 思索ナンセンス選集 8」 1985（昭和60）年9月 書籍、思索社 ANOMALY	飛 1964（昭和39）年 美学的テロリズムの擁護 1964（昭和39）年	アイデアノートより 1975（昭和50）年6月11日 鉛筆、紙 アイデアノートより 1974（昭和49）年10月4日 鉛筆・色鉛筆、紙
M-31 「遊境漫画術 虎の巻」のための試作本 c.1982（昭和57）年頃 乾式コピー・他 42.0 × 30.0 × 1.0 ANOMALY	M-40 スケッチブック 1986（昭和61）年12月-1987（昭和62）年 鉛筆・色鉛筆、スケッチブック ANOMALY	懇勸無礼號 1964（昭和39）年 同 1964（昭和39）年	キャバツムーン —アイデアノートより 1974（昭和49）年 鉛筆・色鉛筆、紙
M-32 「虎の巻 アララ仙人のおかしな世界」のための試作本 1982（昭和57）年 色鉛筆、乾式コピー・他 25.6 × 18.0 × 2.0 ANOMALY	M-41 映像展示《水の巻》／制作・中川陽介 2021（令和3）年 動画	1粒で300メートル 1964（昭和39）年 全体絵画 1964（昭和39）年 DE-ART（である） 1964（昭和39）年	アイデアノートより 1974（昭和49）年10月 鉛筆・色鉛筆、紙 アイデアノートより 1974（昭和49）年10月7日 鉛筆・色鉛筆、紙
M-33 「虎の巻 アララ仙人のおかしな世界」 1982（昭和57）年8月 書籍、工作舎 ANOMALY	参考図版 1. Prologue 田川～大地の記憶 田川にて c.1954（昭和29）年頃 写真 個人蔵		アイデアノートより 1974（昭和49）年10月5日 鉛筆・色鉛筆、紙
M-34 「絵本アイデア とらのゆめ」（デジタルコミックのためのアイデアノートより） 1982-83（昭和57-58）年 鉛筆・色鉛筆・マーカーペン、ノート・他 ANOMALY	2. 1961-1969年 虎は世界を駆けめぐる～絵画から漫画へ 習作《地上労働体》 1963（昭和38）年 糞 1963（昭和38）年 ネオン絵画《富士山》1/20 模型 1964/1988（昭和39/63）年 水彩、紙 20.0 × 30.0 個人蔵		アイデアノートより 1975（昭和50）年6月 鉛筆・色鉛筆、紙
M-35 「虎の巻」 1983（昭和58）年8月 書籍、思索社 ANOMALY	観光芸術研究所《観光芸術多摩川展パノラマ図》 1964（昭和39）年 ペン・鉛筆、紙 36.4 × 25.7 東京文化財研究所 （現代美術資料センター寄贈資料）		アイデアノートより 1972（昭和47）年頃 ミラノの自宅 （ミラノ中央駅前サングレゴリオ通り） パリのアレクサンドル・イオラス画廊での個展にて 1976（昭和51）年
M-36 「タイガー立石作品集 コンニャロ+デジタル商会」 1983（昭和58）年8月 書籍、筑摩書房 ANOMALY	七転八虎 1966（昭和41）年 前庭の柏樹 1966（昭和41）年 双虎 1966（昭和41）年 達磨安心 1966（昭和41）年 天地の階 1966（昭和41）年		You Get Many, Many Yourselves 1969（昭和44）年 油彩・キャンバス 166.0 × 120.0 個人蔵

Motel 1969 (昭和 44) 年 油彩・キャンバス 166.0 × 120.0 個人蔵	Mao's Dimension 1970 (昭和 45) 年 油彩・キャンバス 166.0 × 120.0 個人蔵	A Point 1971 (昭和 46) 年 油彩・キャンバス 166.0 × 120.0	The Entered Landscape 1973 (昭和 48) 年 油彩・キャンバス 166.0 × 120.0 個人蔵
Providence 1969 (昭和 44) 年頃 油彩・キャンバス 166.0 × 120.0	Mao's Ecstasy 1970 (昭和 45) 年 油彩・キャンバス 166.0 × 120.0 個人蔵	I Feel, Therefore I Exist 1971 (昭和 46) 年 油彩・キャンバス 166.0 × 120.0	Rose Moon 1973 (昭和 48) 年 油彩・キャンバス 166.0 × 120.0 個人蔵
Paper Sex 1969 (昭和 44) 年 油彩・キャンバス 166.0 × 120.0 個人蔵	Sunrise 1970 (昭和 45) 年 油彩・キャンバス 166.0 × 120.0 個人蔵	Night and Day 1971 (昭和 46) 年 油彩・キャンバス 53.0 × 68.0 個人蔵	The Star of Moebius 1973 (昭和 48) 年 油彩・キャンバス 166.0 × 120.0
The Moon Grows to the Moon 1969 (昭和 44) 年 油彩・キャンバス 166.0 × 120.0 個人蔵	Traps 1970 (昭和 45) 年 油彩・キャンバス 166.0 × 120.0 個人蔵	The Organic Whole / The Sun's Garden 1971 (昭和 46) 年 油彩・キャンバス 166.0 × 120.0 M+ (ホンコン)	Room 1973 (昭和 48) 年 油彩・キャンバス 166.0 × 120.0 個人蔵
Tiger! Tiger! 1969-70 (昭和 44-45) 年 油彩・キャンバス 166.0 × 120.0 個人蔵	Dimension Cutters 1970 (昭和 45) 年 油彩・キャンバス 166.0 × 120.0 個人蔵	Disappearing Town 1972 (昭和 47) 年 油彩・キャンバス 166.0 × 120.0 個人蔵	Under Construction 1973 (昭和 48) 年 油彩・キャンバス 166.0 × 120.0 パリ市立近代美術館
Tiger Land 1970 (昭和 45) 年 油彩・キャンバス 不詳	Planets Blossom 1970 (昭和 45) 年 油彩・キャンバス 166.0 × 120.0	The Machine 1972 (昭和 47) 年 油彩・キャンバス 166.0 × 120.0 個人蔵	Time Elevator 1973 (昭和 48) 年 油彩・キャンバス 166.0 × 120.0
A Man Disappeared 1970 (昭和 45) 年 油彩・キャンバス 166.0 × 120.0 ナヴィリオ画廊 (ミラノ)	Sea 1970 (昭和 45) 年 油彩・キャンバス 166.0 × 120.0 個人蔵	Milano Torino Superway 1973 (昭和 48) 年 油彩・キャンバス 120.0 × 166.0	Night and Day 1974 (昭和 49) 年 油彩・キャンバス 166.0 × 120.0
The Crystal World 1970 (昭和 45) 年 油彩・キャンバス 166.0 × 120.0 個人蔵	A Drop 1971 (昭和 46) 年 油彩・キャンバス 166.0 × 120.0 個人蔵	Visitors from Another Dimension 1973 (昭和 48) 年 油彩・キャンバス 166.0 × 120.0 個人蔵	Beautiful Moon 1974 (昭和 49) 年 油彩・キャンバス 166.0 × 120.0
A Certain Myth 1970 (昭和 45) 年 油彩・キャンバス 166.0 × 120.0 個人蔵	An Apple 1971 (昭和 46) 年 油彩・キャンバス 166.0 × 120.0 オリベッティ本社	Changing 1973 (昭和 48) 年 油彩・キャンバス 166.0 × 120.0 個人蔵	Coral Moon 1974 (昭和 49) 年 油彩・キャンバス 166.0 × 120.0
Collection 1970 (昭和 45) 年 油彩・キャンバス 166.0 × 120.0 個人蔵	Mr. and Mrs. Gravity 1971 (昭和 46) 年 油彩・キャンバス 166.0 × 120.0 個人蔵	Landscape that Occurred 1973 (昭和 48) 年 油彩・キャンバス 166.0 × 120.0	Spiral Moon 1974 (昭和 49) 年 油彩・キャンバス 166.0 × 120.0
Smile 1970 (昭和 45) 年 油彩・キャンバス 166.0 × 120.0 個人蔵	Something Else from Somewhere 1971 (昭和 46) 年 油彩・キャンバス 166.0 × 120.0 個人蔵	Dream Tunnel 1973 (昭和 48) 年 油彩・キャンバス 166.0 × 120.0	Big Necklace 1974 (昭和 49) 年 油彩・キャンバス 166.0 × 120.0 個人蔵
		Orange Moon 1973 (昭和 48) 年 油彩・キャンバス 166.0 × 120.0	My Rose Heaven 1974 (昭和 49) 年 油彩・キャンバス 166.0 × 120.0 個人蔵

Last Dance 1974 (昭和 49) 年 油彩・キャンバス 166.0 × 120.0 個人蔵	Mysterious Moon 1975 (昭和 50) 年 油彩・キャンバス 166.0 × 120.0 個人蔵	Snow on Jungle 1975 (昭和 50) 年 油彩・キャンバス 166.0 × 120.0 個人蔵	アイデアノートより 1975 (昭和 50) 年 鉛筆・色鉛筆・コラージュ、紙 B5 サイズ
Numerous Moons 1974 (昭和 49) 年 油彩・キャンバス 166.0 × 120.0 個人蔵	Sponge World 1975 (昭和 50) 年 油彩・キャンバス 166.0 × 120.0 個人蔵	Cabbage Moon 1975 (昭和 50) 年 油彩・キャンバス 166.0 × 120.0 個人蔵	アイデアノートより 1975 (昭和 50) 年 鉛筆・色鉛筆、紙 B5 サイズ
Night Sea 1974 (昭和 49) 年 油彩・キャンバス 166.0 × 120.0 個人蔵	Fruit City 1975 (昭和 50) 年 油彩・キャンバス 166.0 × 120.0 個人蔵	Color Paper Moon 1976 (昭和 51) 年 油彩・キャンバス 166.0 × 120.0 個人蔵	アイデアノートより 1975 (昭和 50) 年 鉛筆・色鉛筆・コラージュ、紙 B5 サイズ
Grape Moon 1974 (昭和 49) 年 油彩・キャンバス 166.0 × 120.0 個人蔵	Melon Moon 1975 (昭和 50) 年 油彩・キャンバス 166.0 × 120.0 個人蔵	The Balls 1976 (昭和 51) 年 油彩・キャンバス 166.0 × 120.0 個人蔵	アイデアノートより 1976 (昭和 51) 年 鉛筆・色鉛筆、紙 B5 サイズ
Colored Moon 1974 (昭和 49) 年 油彩・キャンバス 166.0 × 120.0	The Divided Moon 1975 (昭和 50) 年 油彩・キャンバス 166.0 × 120.0 個人蔵	Houses 1977 (昭和 52) 年 油彩・キャンバス 166.0 × 120.0 個人蔵	アイデアノートより 1976 (昭和 51) 年 鉛筆・色鉛筆・コラージュ、紙 B5 サイズ
Biscuit Moon 1974 (昭和 49) 年 油彩・キャンバス 166.0 × 120.0 個人蔵	Surface of a Dream 1975 (昭和 50) 年 油彩・キャンバス 100.0 × 80.0 個人蔵	A House 1978 (昭和 53) 年 油彩・キャンバス 166.0 × 120.0 個人蔵	アイデアノートより 1976/77 (昭和 51/52) 年 鉛筆・色鉛筆・コラージュ、紙 B5 サイズ
Biscuit Moon 1974 (昭和 49) 年 油彩・キャンバス 166.0 × 120.0 個人蔵	The Crystallized Love 1975 (昭和 50) 年 油彩・キャンバス 100.0 × 80.0 個人蔵	アイデアノートより 1973 (昭和 48) 年 鉛筆・コラージュ、紙 B5 サイズ	4. Interlude 漫画と絵本の仕事
Big Diamond 1974 (昭和 49) 年 油彩・キャンバス 166.0 × 120.0	The Joyful Moon 1975 (昭和 50) 年 油彩・キャンバス 166.0 × 120.0 個人蔵	アイデアノートより 1974 (昭和 49) 年 鉛筆・ペン、紙 B5 サイズ	「自動車野郎」 1967 (昭和 42) 年 2 月 雑誌
Peacock Moon 1974 (昭和 49) 年 油彩・キャンバス 166.0 × 120.0	Sunflower City 1975 (昭和 50) 年 油彩・キャンバス 166.0 × 120.0 個人蔵	アイデアノートより 1974 (昭和 49) 年 鉛筆・コラージュ、紙 B5 サイズ	「タイガー立石作品集 コンニャロ+デジタル 商会」より「コンニャロからデジタルへ」掲 載ページ 1983 (昭和 58) 年 8 月 書籍、筑摩書房 ANOMALY
Moon Tapestry 1975 (昭和 50) 年 油彩・キャンバス 166.0 × 120.0 個人蔵	The First Suggestion 1975 (昭和 50) 年 油彩・キャンバス 166.0 × 120.0	アイデアノートより 1974 (昭和 49) 年 鉛筆、紙 B5 サイズ	「ブレクサス」no.29 のための原画 1969 (昭和 44) 年頃 インク、紙 39.8 × 32.2 ANOMALY
Metamorphosis of Pisa 1975 (昭和 50) 年 油彩・キャンバス 166.0 × 120.0	Corn City 1975 (昭和 50) 年 油彩・キャンバス 166.0 × 120.0 個人蔵	アイデアノートより 1975 (昭和 50) 年 鉛筆・色鉛筆・コラージュ、紙 B5 サイズ	「とらのゆめ」 1984 (昭和 59) 年 11 月 雑誌 25.9 × 19.2 個人蔵
Moon's Satisfaction 1975 (昭和 50) 年 油彩・キャンバス 166.0 × 120.0		アイデアノートより 1975 (昭和 50) 年 鉛筆・色鉛筆、紙 B5 サイズ	「さかさまかさか」 1986 (昭和 61) 年 8 月 雑誌 25.0 × 19.2 うらわ美術館

『ぐにゃぐにゃ世界の冒険』

1987（昭和62）年11月

雑誌

25.0 × 19.2

個人蔵

『すてきにへんな家』

1988（昭和63）年9月

雑誌

25.0 × 19.2

うらわ美術館

『顔の美術館』

1994（平成6）年1月

雑誌

25.0 × 19.2

うらわ美術館

『ぼくの算数絵日記』

1995（平成7）年1月

雑誌

25.0 × 19.2

個人蔵

『わるわるコンビ トトとボンチョ』

1996（平成8）年3月

書籍

26.0 × 21.2

うらわ美術館

5. 1982-1998年 再びの日本～ こっちにタイガー、あっちに大河亞

The Residents "The Eyeball Show (Live in Japan)" レコード・ジャケット

1986（昭和61）年

レコード・ジャケット

佐々木 光（撮影）『ポートレート』

1996（平成8）年

写真

大江戸復雑系（下絵）

1997（平成9）年7月

鉛筆・色鉛筆、紙

個人蔵

高梨 豊（撮影）『自宅アトリエにて』

1997（平成9）年9月27日

写真

個人蔵

掲載記事

掲載記事は新聞記事を主として記載している。

河北新報社

2021年6月17日
タイガー立石とは何者か 画家、漫画家、
絵本作家 多彩な顔

2021年6月29日
東北の美術館・博物館 7月

東奥日報社

2021年7月7日
タイガー立石とは何者か 県美20日から
過去最大の回顧展

2021年7月17日
金魚ねぶた 緑のトラに タイガー立石作品
モチーフ

2021年7月21日
「立石ワールド」一望 絵画など200点展示
県美できょうから

美術年鑑社

2021年3月21日
2021年4月～8月展覧会カレンダー

毎日新聞社

2021年6月29日
美術館ガイド

2021年7月21日
タイガー立石展「ユーモアある」 県立美術館

陸奥新報社

2021年7月13日
美術家故タイガー立石さん回顧展 初公開の
スケッチも

2021年7月17日
緑のトラねぶた登場 県美のタイガー立石展
とコラボ ねぶた村制作、100個展示へ

2021年12月23日
絵画、絵本、漫画、イラスト、陶芸…ジャン
ルまたいで活躍 さいたまの2美術館「大・
タイガー立石展」

読売新聞社

2021年7月21日
タイガー立石回顧展 県立美術館

2021年8月3日
タイガー立石展 上 絵画や彫刻、漫画
多彩な歩み

2021年8月4日
タイガー立石展 中 和製ポップアートの先駆

2021年8月5日
タイガー立石 下 「見る」「考える」面白さ
詰めて

2021年8月28日
タイガー立石展 今月31日に閉幕 県立美
術館

2022年1月1日
新春ガイド 2～4日「タイガーねぶた」を
入場者各日先着20人限定プレゼント

企画展

「東日本大震災 10年 あかし testaments」展

開催概要

2021年10月9日(土) - 2022年1月23日(日)

開催日数：96日

開館時間：9:30 - 17:00 (最終入場 16:30)

休館日：10月11日(月)、25日(月)、11月8日(月)、12月13日(月)、27日(月) - 31日(金)、1月1日(土)、11日(火)

会場：青森県立美術館 企画展示室

主催：あかし testaments 展青森実行委員会 (青森県立美術館、青森県観光連盟)

助成：(公財)花王芸術・科学財団、(公財)朝日新聞文化財団、青森県立美術館サポートシップ倶楽部特別会員

特別協力：サンライズ、東北新社、手塚プロダクション、日本アニメーション、オフィス アイ

協力：青い森鉄道、JR 東日本青森商業開発

後援：在日本大韓民国青森県地方本部、青森放送、青森テレビ、青森朝日放送、青森ケーブルテレビ、エフエム青森、東奥日報社、デーリー東北新聞社、陸奥新報社、河北新報社、読売新聞青森支局、朝日新聞青森総局、毎日新聞青森支局、産経新聞社青森支局、青森県教育委員会

観覧料：一般 1,500円 (1,300円)

高大生 1,000円 (800円)

中学生以下 無料

※ () は前売券及び20名以上の団体料金

※心身に障がいのある方と付添者1名は無料

総入場者数：6,246人

有料入場者数：4,381人

展覧会カタログ

総ページ数：244頁

B5変型判上製 丸背ホローバック綴じ 小口三方墨箔

監修：青森県立美術館

編集：インスクリプト (丸山哲郎)

テキスト：李静和 (成蹊大学)、倉石信乃 (明治大学)、八角聡仁 (近畿大学)、ユン・ヨイル (済州大学校)、高橋しげみ (青森県立美術館)

デザイン：須山悠里

発行者：丸山哲郎

発行所：インスクリプト

印刷・製本：株式会社アイワード

関連行事

(1) オープニングライブ&トーク

日時：10月9日(土) 13:30 - 16:00

会場：(ライブ) アレコホール、(トーク) シアター

参加者：41名

内容：港大尋ライブコンサート (開始前に田島千征によるパフォーマンス)

アーティスト+キュレーター クロストーク

(2) アーティスト・トーク：北島敬三

日時：11月21日(日) 14:00 - 15:30

会場：美術館内スタジオ

参加者：31名

内容：北島敬三及びキュレーターによるトークイベント

(3) ダンス+トーク：豊島重之

日時：12月19日(日) 13:30 - 15:30

会場：シアター

参加者：60名

内容：豊島重之が率いた劇団「モレキュラーシアター」と「ダンスバレエリセ豊島舞踏研究所」によるダンス公演及び演者、関係者によるトーク

(4) アーティスト・トーク：コ・スンウク

※オンラインイベント

収録日：12月23日(木)

内容：済州島のコ・スンウク氏とつないで、これまでの活動と本展の出品作についてお話をうかがった。またキュレーター、批評家、アーティスト総勢9名がディスカッサントとして参加し、コ氏の作品について意見交換をした。現在もweb上で視聴可能。

(5) 上映会+アーティスト・トーク：山城知佳子

日時：1月16日(日) 13:30 - 15:30

会場：シアター

参加者：20名

内容：山城知佳子映像作品「家族の表象」上映及びオンライントーク

(6) 高文連参加者対象学芸員特別解説ツアー

第42回青森県高等学校総合文化祭<東青・下北大会>美術部門に参加する高校生を対象に特別解説ツアーを実施した。

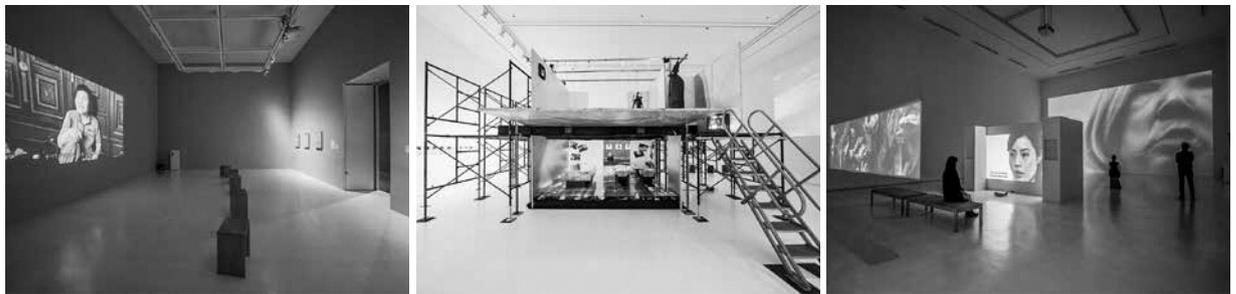
日時：11月14日(日) 10:00 - 11:00、14:00 - 15:00

会場：地下2階エントランス

参加者：12名



ポスター



展示風景

甚大な被害を及ぼした東日本大震災から2021年で10年。共同キュレーターとして、李静和と倉石信乃に参画していただき、4人のアーティストによるグループ展「東日本大震災10年 あかし testaments」を開催した。日本を代表する写真家・北島敬三、韓国・済州島出身で現代美術の最前線で活躍するコ・スンウク、沖縄出身で、今最も注目されているアーティストの一人・山城知佳子、そして八戸市出身で演劇・美術・批評など多方面で才能を発揮した豊島重之〔としま・しげゆき〕(故人)。4人のアーティストの写真や映像が展示室にともす「灯＝あかし＝証」を通じて、時間をもたらす風化や忘却の暗闇の中に、災厄をのりこえ、共に生きるための世界を照らし出すことを目指した。

東日本大震災が2011年に発生して以来、この甚大災害に対してさまざまな角度からアプローチする美術展が開催されてきた。10年という節目に開催された本展においては、時間の経過とともに広まってゆく「当事者」との隔たりの中で、いかにこの災害と向き合っていくか、という今後の継続的な課題に対して、済州島、沖縄、そして青森といった「地方」に根差したアーティストや「地方」を注視するアーティストの活動を繋げることで、大き

な歴史的文脈を見据えた一つの取り組みの形を提示することができた。

会期中、個々の参加作家に光をあてたトーク、パフォーマンス、ライブなどの催事は、多くの有識者の参加により、本展に対する貴重な評言をいただくことができた。これらの一部は、アーカイブとしてインターネット上で公開されているため、図録と共に、今後も東日本大震災という出来事に対するアートの可能性を考える上で、一つの参照点となるであろう。

当初、東京オリンピック後の新型コロナ感染状況しだいでは、予定の会期の開催が危ぶまれたものの、コロナ禍の谷間の時期にあたり会期を満了することはできた。とはいえ、県内外の旅行者の自由な往来には程遠い時期であり、豪雪にも悩まされ、集客には苦戦を強いられた。月一回程度のペースで実施したイベントも入場者数を制限しながらの開催となった。その中でも、八戸市美術館が開館した時期とも重なり、現代美術クラスターや美術界人の中には県内5館を周遊する人々も散見され、現代アートの企画で5館足並みを揃えたことが功を奏したと考えられる。

出品作品

- ・展覧会を構成する作家ごとに記載した。
- ・作品番号と展示の順序は必ずしも一致しない。
- ・各作品情報は、作品番号、作品・資料名、制作年、素材、サイズ（縦×横×奥行き cm / 映像作品の場合は尺）、所蔵、協力の順に記載した。
- ・所蔵に特に表記の無いものはすべて作家蔵。

■豊島重之

(演出家 / 1946-2019、青森県八戸市出身、演出家)

TS-KK 1

[種差] ポスター [テキスト: 豊島重之、写真: 北島敬三] (11 点)

2013

顔料印刷

103 × 73cm (各)

TS 1

《Legend of Ho》と《直下型演劇》のためのセノグラフィー (舞台装置) [再制作]

2000/2021

ミクスト・メディア

可変

TS 2.1

[資料] 《Legend of HO》(2000 年) コンセプトメモ

2000

フォトコピー

21.0 × 29.7cm

TS 2.2

[資料] 《直下型演劇》セノグラフィーマモ

2000

インク・紙

25.0 × 21.0cm

TS 2.3

[資料] 《Legend of HO》(2000 年) [Plage 1] に関するメモ

2000

インク・紙

21.0 × 15.0cm

TS 2.4

[資料] 《Legend of HO》(2000 年) [Plage 3] に関するメモ

2000

インク・紙

29.7 × 21.0cm

TS 2.5

[資料] 《Legend of HO》(2000 年) [Plage 4] に関するメモ

2000

インク・紙

25.7 × 18.3cm

TS 2.6

[資料] 《Legend of HO》(2000 年) 公演フライヤー

2000

オフセット印刷

29.7 × 21.0cm

TS 2.7

[資料] 《直下型演劇》(2002 年) 公演フライヤー

2002

オフセット印刷

29.7 × 21.0cm

TS 2.8

[資料] 《Legend of Ho》, 《直下型演劇》上演記録映像 [編集: 宮内昌慶、高沢利栄]

2021

ビデオ

27 分

27 min.

TS 2.9

[資料] 《Legend of Ho》上演記録写真 [撮影: 吉田亨]

2000

写真 (カラーボジフィルムからのスキャンングによる)

可変

TS 2.10

[資料] 《直下型演劇》上演記録写真 [撮影: 吉田亨]

2002

ゼラチン・シルバー・プリント

20.3 × 25.4cm

TS 3

《カルト・ポスタル プロジェクト》(107 点)

2005-2010

オフセット印刷

10 × 14.7cm (各! *内1 枚のみ 20 × 14.7cm)

協力 花田喜隆、佐々木遊、佐々木邦吉

TS 4

《a-cé-phale (無頭人)》

2004

テキスト・塩化ビニールパイプ

可変

協力 佐々木邦吉

TS 5

《豊島重之・声: モレキュラーシアター《マウスト》の音響設備構成による》[構成: 根本忍]

2021

サウンド・インスタレーション

可変

■北島敬三

(1954-、長野県出身東京都在住、写真家)

[PORTRAITS]

KK 1.1

#0772 TOSHIO YANO 20 JAN. 1988

1988 / 2021

顔料印刷

60 × 75cm

KK 1.2

#1943 TOSHIO YANO 1 SEP. 2007

2008 / 2021

顔料印刷

60 × 75cm

KK 1.3

#0911 CHITOSE SUGA 15 JUNE 1998

1998 / 2021

顔料印刷

60 × 75cm

KK 1.4

#1325 CHITOSE SUGA 15 JAN. 2000

2000 / 2021

顔料印刷

60 × 75cm

KK 1.5

#1928 CHITOSE SUGA 23 JULY 2007

2007 / 2021

顔料印刷

60 × 75cm

KK 1.6

#1968 CHITOSE SUGA 23 DEC. 2008

2008 / 2021

顔料印刷

60 × 75cm

KK 1.7

1783 HIROO KURUBE 11 NOV. 2004

2004 / 2021

顔料印刷

60 × 75cm

KK 1.8

#1908 HIROO KURUBE 14 JULY 2007

2007 / 2021

顔料印刷

60 × 75cm

KK 1.9

#1431 MAMORU SHIMOSHIGE 30

AUG. 2000

2000 / 2021

顔料印刷

60 × 75cm

KK 1.10

#1660 MAMORU SHIMOSHIGE 25

OCT. 2002

2002 / 2021

顔料印刷

60 × 75cm

KK 1.11

#1878 MAMORU SHIMOSHIGE 22

NOV.2005

2005 / 2021

顔料印刷

60 × 75cm

KK 1.12

#1813 KEIKO IZUMI 29 MAY 2004

2004 / 2021

顔料印刷

60 × 75cm

KK 1.13

#1924 KEIKO IZUMI 20 JULY 2007

2007 / 2021

顔料印刷

60 × 75cm

KK 1.14

#0159 TAKASHI KOSHIKAWA 20 JAN.

1994

1994 / 2021

顔料印刷

60 × 75cm

KK 1.15

#0657 TAKASHI KOSHIKAWA 2 JUNE

1997

1997 / 2021

顔料印刷

60 × 75cm

KK 1.16

#1788 TAKASHI KOSHIKAWA 12 NOV.

2004

2004 / 2021

顔料印刷

60 × 75cm

KK 1.17

#1938 TAKASHI KOSHIKAWA 6 AUG.

2007

2007 / 2021

顔料印刷

60 × 75cm

KK 1.18

#0839 AZUSA KAIMORI 10 FEB.1998

1998 / 2021

顔料印刷

60 × 75cm

KK 1.19 #0942 AZUSA KAIMORI 6 JULY 1998 1998 / 2021 顔料印刷 60 × 75cm	KK 1.29 #1927 YOSHITOKI IZUMI 21 JULY 2007 2007 / 2021 顔料印刷 60 × 75cm	KK 2.5 岩手県山田町 2011年4月18日 2011 / 2021 顔料印刷 90 × 111.5 cm	KK 2.16 福島県南相馬市 2013年10月18日 2013 / 2021 顔料印刷 110 × 136.5cm
KK 1.20 #1225 AZUSA KAIMORI 4 AUG. 1999 1999 / 2021 顔料印刷 60 × 75cm	KK 1.30 #0055 MAKOTO SHIMIZU 17 DEC. 1992 1992 / 2021 顔料印刷 60 × 75cm	KK 2.6 岩手県山田町 2011年10月21日 2011 / 2021 顔料印刷 90 × 111.5 cm	KK 2.17 青森県外ヶ浜町 2011年7月10日 2011 / 2021 顔料印刷 110 × 136.5cm
KK 1.21 #1925 AZUSA KAIMORI 6 DEC. 2008 2008 / 2021 顔料印刷 60 × 75cm	KK 1.31 #0141 MAKOTO SHIMIZU 21 JULY 1993 1993 / 2021 顔料印刷 60 × 75cm	KK 2.7 宮城県石巻市 2011年10月13日 2011 / 2021 顔料印刷 90 × 111.5 cm	KK 2.18 青森県青森市 2014年12月2日 2014 / 2021 顔料印刷 110 × 136.5cm
KK-1.22 #0115 HIROTO IKEDA 3 JULY 1993 1993 / 2021 顔料印刷 60 × 75cm	KK 1.32 #0194 MAKOTO SHIMIZU 23 FEB. 1994 1994 / 2021 顔料印刷 60 × 75cm	KK 2.8 福島県楡葉町 2012年10月2日 2012 / 2021 顔料印刷 90 × 111.5 cm	KK 2.19 岩手県釜石市 2012年1月27日 2012 / 2021 顔料印刷 110 × 136.5cm
KK 1.23 #1823 HIROTO IKEDA 23 DEC. 2004 2004 / 2021 顔料印刷 60 × 75cm	KK 1.33 #1930 MAKOTO SHIMIZU 25 JULY 2007 2007 / 2021 顔料印刷 60 × 75cm	KK 2.9 北海道利尻町 2010年6月21日 2010 / 2021 顔料印刷 90 × 111.5 cm	KK 2.20 鹿児島県奄美市 2018年5月25日 2018 / 2021 顔料印刷 90 × 111.5 cm
KK 1.24 #1944 HIROTO IKEDA 21 NOV. 2007 2007 / 2021 顔料印刷 60 × 75cm	KK 1.34 #1950 MAKOTO SHIMIZU 3 DEC. 2008 2008 / 2021 顔料印刷 60 × 75cm	KK 2.10 北海道室蘭市 2009年5月8日 2009 / 2021 顔料印刷 90 × 111.5 cm	KK 2.21 鹿児島県奄美市 2018年5月22日 2018 / 2021 顔料印刷 90 × 111.5 cm
KK 1.25 #0862 YUKIKO MIYAMOTO 21 FEB. 1998 1998 / 2021 顔料印刷 60 × 75cm	[UNTITLED RECORDS]	KK 2.11 北海道釧路市 2010年6月16日 2010 / 2021 顔料印刷 90 × 111.5 cm	KK 2.22 沖縄県うるま市 2013年5月16日 2013 / 2021 顔料印刷 90 × 111.5 cm
KK 1.26 #0931 SATSUKI NOZU 20 JUNE 1998 1998 / 2021 顔料印刷 60 × 75cm	KK 2.1 長崎県長崎市 2014年2月17日 2014 / 2021 顔料印刷 90 × 111.5 cm	KK 2.12 北海道網走市 2020年2月7日 2020 / 2021 顔料印刷 90 × 111.5cm	KK 2.23 宮城県気仙沼市 2013年9月28日 2013 / 2021 顔料印刷 90 × 111.5cm
KK 1.27 #1954 YUKO TOMITA 10 DEC. 2008 2008 / 2021 顔料印刷 60 × 75cm	KK 2.2 沖縄県沖縄市 2007年5月14日 2007 / 2021 顔料印刷 90 × 111.5 cm	KK 2.13 北海道音威子府村 2010年6月23日 2010 / 2021 顔料印刷 90 × 111.5 cm	KK 2.24 岩手県田野畑村 2011年7月7日 2011 / 2021 顔料印刷 90 × 111.5cm
KK 1.28 #0733 TSUKASA HASEGAWA 22 SEP. 1997 1997 / 2021 顔料印刷 60 × 75cm	KK 2.3 広島県広島市 1999年6月25日 1999 / 2021 顔料印刷 90 × 111.5 cm	KK 2.14 福島県飯舘村 2011年10月13日 2011 / 2021 顔料印刷 110 × 136.5cm	KK 2.25 静岡県川根本町 2016年4月14日 2016 / 2021 顔料印刷 90 × 111.5cm
	KK 2.4 東京都新宿区 2002年12月26日 2002 / 2021 顔料印刷 90 × 111.5 cm	KK 2.15 岩手県大船渡市 2011年10月7日 2011 / 2021 顔料印刷 110 × 136.5cm	KK 2.26 新潟県胎内市 2014年12月14日 2014 / 2021 顔料印刷 90 × 111.5 cm

KK 2.27
北海道千歳市 2018年11月19日
2018 / 2021
顔料印刷
90 × 111.5 cm

KK 2.28
長野県須坂市 2018年1月9日
2018 / 2021
顔料印刷
90 × 111.5 cm

KK 2.29
青森県つがる市 2014年12月16日
2014 / 2021
顔料印刷
90 × 111.5 cm

■コ・スンウク 고승욱

(1968-、韓国済州島出身・在住、美術家)

KS 1
《クマの葬式》
2008
ビデオ
5分50秒

KS 2
《提案—東豆川上牌洞共同墓地の公園化計画》
2007
テキスト、写真
可変

KS 3
《睡を歌う歌》
2008
ビデオ
14分9秒

KS 4.1
《石の蠟燭 7》
2010
顔料印刷
60 × 90cm

KS 4.2
《石の蠟燭 11》
2013
顔料印刷
60 × 90cm

KS 4.3
《石の蠟燭 17》
2013
顔料印刷
60 × 90cm

KS 5.1
《口ごもり 1》
2015
顔料印刷
71 × 130cm

KS 5.2
《口ごもり 2》
2015
顔料印刷
71 × 130cm

KS 6.1
《△の風景—拓影 1》
2016
顔料印刷
36 × 60.5cm

KS 6.2
《△の風景—拓影 2》
2016
顔料印刷
36 × 60.5cm

KS 6.3
《△の風景—拓影 3》
2016
顔料印刷
36 × 60.5cm

KS 6.4
《△の風景—拓影 4》
2016
顔料印刷
36 × 60.5cm

KS 7
《未知の肖像》
2018
ビデオ
16分59秒

KS 8
《未知の肖像》(ドローイング6点)
2018
鉛筆・紙
57 × 47cm

KS 9
《白碑と百碑》(ドローイングブック)
2021
鉛筆・トレーシングペーパー
37.5 × 42.5cm

KS 10
《畑と牛》
2021
ビデオ
12分11秒

■山城知佳子

(1976-、沖縄県出身・在住、映像作家・美術家)

YC 1
《日本への旅》(「オキナワ TOURIST」より)
2004
ビデオ
6分
Courtesy of Yumiko Chiba Associates

YC 2
《バーチャル継承》(記録写真より)
2008
デジタル写真
可変
Courtesy of Yumiko Chiba Associates

YC 3
《あなたの声は私の喉を通った》
2009
ビデオ
7分
Courtesy of Yumiko Chiba Associates

YC 4
《沈む声、紅い息》
2010
ビデオ
5分55秒
Courtesy of Yumiko Chiba Associates

YC 5.1
《覚えているか？ 俺たちは珊瑚から生まれてきたんだ》(6点)
[[リフレーミング]より]
2021
ラムダプリント
28.1 × 50cm (各)
Courtesy of Yumiko Chiba Associates

YC 5.2
《覚えているか？ 俺たちは珊瑚から生まれてきたんだ》
[[リフレーミング]より]
2021
ビデオ
14分33秒
Courtesy of Yumiko Chiba Associates

掲載記事

掲載記事は新聞記事を主として記載している。

朝日新聞社

2021年11月30日
震災10年 記憶の共有へ

河北新報

2021年12月29日
東北の美術館・博物館
あかし testaments 展情報

クリスチャン新聞

2022年1月23日
クリスチャン新聞 あかし testaments 展情報

デーリー東北

2021年10月22日
きょうのメモ あかし展紹介

2021年12月12日
故豊島さん イベント ダンスやトーク19日、
県立美術館で

2021年12月16日
青森県広報 「東日本大震災から10年
あかし testaments 展」

東奥日報・デーリー東北・ 陸奥新報

2021年9月16日
広報あおもりけん あかし展広告

2021年12月16日
広報あおもりけん あかし展広告

東奥日報社

2021年10月6日
「見えなくなったもの」の声
「東日本大震災10年 あかし」展

2021年10月9日
東日本大震災10年 あかし 記憶・教訓
次世代に きょうから県美

2021年11月12日
鷲田めるろのあおもりアート探訪
「あかし展」確実な希望に

2021年12月3日 金曜日
展覧会ガイド 12月

2021年12月8日
ケンピ企画展「東日本大震災10年 あかし
testaments」ダンス+トーク 豊島重之 19
日、午後1時半から県美シアターで

2021年12月16日
東日本大震災10年 あかし testaments 展
高橋しげみ 上

2021年12月17日
東日本大震災10年 あかし testaments 展
高橋しげみ 下

2021年12月16日
青森県広報 「東日本大震災から10年
あかし testaments 展」

図書新聞

2022年1月22日
art/exhibition 逆井聡人「繋ぐこと、繋がる
こと、その<証=あかし=灯>」

函館新聞社

2021年10月26日
道南ネット 暮らしアクセス あかし
testaments 展紹介

毎日新聞

2021年9月7日
美術館ガイド 9月

陸奥新報社

2021年9月28日
震災10年テーマに作品 アーティスト4人
100点展示

2021年10月9日
震災の記憶つなぐ4人の100作品展示
きょうから県美で企画展

2021年12月16日
青森県広報 「東日本大震災から10年
あかし testaments 展」

2022年1月13日
暮らしとイベント情報 あかし testaments 展
情報

令和3年度コレクション展

Permanent Exhibition 2021

通年展示

展示室 F、G：奈良美智

2021-1, 2021-2：「家」をめぐって

青森県出身の美術家・奈良美智は、挑むような目つきの女の子の絵や、ユーモラスでどこか哀しげな犬の立体作品などで、これまで世界中の多くの人の心をとらえてきた。

青森県立美術館では、開館前の1998年から奈良美智作品の収集を始め、現在、その数は170点を超えている。

奈良の絵には初期の頃から「家」のモチーフがよく現れる。キャンヴァス画やドローイング（素描）に描かれるとんがり屋根の一軒家。2000年代以降、展示空間の一部として奈良がデザインしてきた素朴な小屋も、どこか家のイメージと重なる。それらは幼い頃の大切な思い出が詰まった故郷・弘前の家のようにもあり、また郷里から離れて過ごす時間の中で奈良が見つけた新たな安住の場としての「家」でもある。

本コーナーでは、「家」のモチーフに注目した作品や作家からの寄託作品などを展示する。

2021-3：北のまほろばに行く

国内外で活躍する青森県出身の美術作家・奈良美智は、挑むような目つきの女の子の絵や、ユーモラスでありながらどこか哀しげな犬の立体作品などで、これまで若い世代を中心に、多くの人の心をとらえてきた。

青森県立美術館では、開館前の1998年から奈良美智作品の収集を始め、現在、その数は170点を超えている。

2020年3月からは、絵画やドローイング、ブロンズなど、作家からの寄託作品24点があらたに加わった。その多くは、北海道白老町にある集落、飛生（とびう）での滞りと同地のコミュニティとの交わりから生まれた近年の作品である。飛生に集う子どもたちの姿を、現地で見つけた木の枝から作った木炭でデッサンした「トビウ・キッズ」シリーズや、アイヌ民族の聖地・アフルバルにインスパイアされたドローイングなど、白老という地の歴史や自然、そして人々の暮らしに触れながら制作されたものである。

また、創造の営みにおいて音楽と深い関りを持ち続けてきた奈良は、2015年から福島県の猪苗代湖畔で開催されてきた、音楽とアートのフェスティバル「オハラ☆ブレイク」に継続的に参加している。本展では2019年、フェスティバルで行われた、野外でのライブドローイングのシリーズ「北のまほろばに行く」

も展示する。

本コーナーでは、記憶の古層を探るように、北へと向かう奈良の旅の中から生まれた作品の数々を紹介する。

アレコホール：マルク・シャガールによるバレエ「アレコ」の舞台背景画

青森県立美術館の中心には、縦・横21m、高さ19m、四層吹き抜けの大空間が設けられている。アレコホールと呼ばれるこの大きなホールには、20世紀を代表する画家、マルク・シャガール（1887-1985）によるバレエ「アレコ」の背景画が展示される。青森県は1994年に、全4作品から成るバレエ「アレコ」の舞台背景画中、第1幕、第2幕、第4幕を収集した。これらの背景画は、帝政ロシア（現ベラルーシ）のユダヤ人の家庭に生まれたシャガールが、第二次世界大戦中、ナチス・ドイツの迫害から逃れるため亡命していたアメリカで「バレエ・シアター（現アメリカン・バレエ・シアター）」の依頼で制作したものである。大画面の中に「色彩の魔術師」と呼ばれるシャガールの本領が遺憾無く発揮された舞台美術の傑作である。

残る第3幕の背景画《ある夏の午後後の麦畑》は、アメリカのフィラデルフィア美術館に収蔵され、西側エントランスに展示されていたが、同館改修工事に伴い、2017年4月から4年間の長期借用が認められることになった。青森県立美術館での「アレコ」背景画全4作品の展示は、2006年の開館記念で開催された「シャガール『アレコ』とアメリカ亡命時代」展以来である。背景画全4作品が揃ったこの貴重な機会に、あらためてシャガールの舞台美術作品の魅力を広く伝えた第3幕は、2021年4月に2年間の借用期間延長が認められ、現在も当館に展示されている。

アレコ特別鑑賞プログラム

高さ約20メートルの大ホールに展示された「アレコ」背景画に舞台用の照明をあて、音楽とともにバレエのステージを彷彿とさせる演出を加えながら、作品制作の背景、バレエのストーリーなどをナレーションで紹介する約15分間の鑑賞プログラムを、開館中、定時で上映した。

上映時間：① 10:30 - ② 12:00 - ③ 13:30 - ④ 15:00 -

コレクション展 2021-1:特集「鬼が来た」

2021年3月6日(土) - 5月9日(日)

日本人の文化に奥深く根付いている異形の存在、「鬼」。疫病や災害、巨大な悪の象徴として恐れられる一方で、「鬼」は権力にまつろわぬ者たちの変容した姿としても歴史の中に残されてきた。また、常識を超えた才能をもち、理想に向けて一心不乱に進み続ける求道者を畏怖とともに表現する言葉としても使われ、長部日出雄は『鬼が来た』という題名で棟方志功の評伝を書いている。

令和3年度最初のコレクション展はこの「鬼」をテーマに、棟方志功の作品の他、成田亨が日本のさまざまなモンスターを描いた一連の作品と鬼の彫刻、田澤茂が鬼や魍魎、津軽の民俗などをテーマに描いた作品、馬場のぼるが描いた愛すべき鬼たちなどを展示する。

展示室 H 成田亨：怪獣デザインの美学

成田亨(1929-2002)は、「ウルトラマン」、「ウルトラセブン」という初期ウルトラシリーズのヒーロー、怪獣、宇宙人、メカをデザインし、日本の戦後文化に大きな影響を与えた彫刻家兼特撮美術監督である。

成田は神戸市に生まれ、直後に青森県へ移った。旧制青森中学(現青森高等学校)在学中に画家・阿部合成と出会い、絵を描く技術よりも「本質的な感動」を大切にすることを、さらに彫刻家的小坂圭二から対象物の構造や組み立て方、ムーブマンを重視する方法論を学んだ後、武蔵野美術学校(現武蔵野美術大学)西洋画科へと進学。当初は油彩画を専攻していましたが、「地面から立ち上がるようなデッサンを求める」(成田)ため3年次に彫刻科へ転科。具象性を維持しつつもフォルムを自在に変容させ、動的かつ緊張感ある構成を作り上げていくという成田芸術の基礎がここで形づくられていった。

武蔵野美術学校研究科に在籍していた1954年、成田は人手の足りなかった「ゴジラ」の製作に参加、そこで円谷英二と出会い、以降特撮美術の仕事も数多く手がけるようになる。

1965年、東宝撮影所で円谷英二と再会し、「怪獣のデザインはすべて自分がやる」という条件のもと「ウルトラQ」の2クールから制作に参加、以降「ウルトラマン」、「ウルトラセブン」までのシリーズに登場するヒーロー、怪獣、宇宙人、メカニック等のデザインを手がけます。放映に際し、「これまででないヒーローの形を」という脚本家・金城哲夫の依頼を受けた成田は、ウルトラマンのデザインを純粋化という「秩序」のもとに構築し、対する怪獣のデザインには変形や合成といった「混沌」の要素を盛り込んでいく。

美術家としての高い感性によってデザインされたヒーロー、怪獣は、モダンアートの成果をはじめ、文化遺産や自然界に存在する動植物を引用して生み出される形のおもしろさが特徴である。誰もが見覚えのあるモチーフを引用しつつ、そこから「フォルムの意外性」を打ち出していくというその一貫した手法からは成田の揺らぐことのない芸術的信念が読みとれるだろう。

特別出品：大森記詩《Training Day -Patchwork Super Robot》

2020年

展示室 I 棟方志功に宿る鬼 構成：棟方志功記念館

生まれたばかりの頃、あまりの泣き声の大きさに「鬼でも生まれたのではないかと近所で噂されたという棟方志功。作家の長部日出雄が『鬼が来た』というタイトルで評伝を描くなど、棟方は周囲の人からも鬼というイメージを持たれることが多かったようであるが、自身も著書や発言のなかで、「鬼」という言葉をよく用いており、同郷の版画家・関野準一郎(1914-1988)に対して自身の仕事ぶりについて語った言葉に次のようなものがある。

何かこう、棟方の臍(へそ)(ヒチョコと津軽弁で言って)の後にある何か描かせているので、神……神とも言えない、仏でもない、ウウ……まア神でも仏でもなんでもいい、ヒチョコの後ろに居る鬼、そんなものがじっとしていなくて描かせる……(関野準一郎『版画を築いた人々 自伝的日本近代版画史』1976年、美術出版社、42頁)

自分の中には鬼がいて、じっとしておらず描かせるというのである。棟方が制作に打ち込んでいる時の勢いや集中力はすさまじく、その姿は超人的とも思える。特に、筆致が直に画面に表れる倭画においては、制作中の溢れるエネルギーがそのまま伝わってくるかのようである。

また、棟方は新しい板画の表現を生み出す才能の持ち主でもあった。代表作《二菩薩釈迦十大弟子》では白い面と黒い面との対比を美しく描き出したが、1941年の《門舞頌》では、白と黒の対比の美しさはもちろん、衣服に文様を彫りこんで白で抜くという、肉筆画では考えられない板画ならではの装飾性の面白さを引き出した。

1960年代には、大きな手と鋭い指先の人物を多く描くようになる。これは故郷・青森を題材にした作品に共通している特徴で、青森を苦しめている災害や貧困への嘆きと、その悲惨な状況が改善するようにとの強い思いの表れかもしれない。

本コーナーでは「体の中の鬼がじっとしていない」という棟方のエネルギー溢れる作品を展示する。

展示室 J 寺山修司：ジャパン・アヴァンギャルド

寺山修司(弘前市出身/1935-83)は県立青森高等学校時代、「俳句」によって表現活動をはじめ、早稲田大学進学後は「短歌」の世界へ、その後凄まじいスピードでラジオ、テレビ、映画、そして競馬やスポーツ評論の世界を駆け抜けていったマルチアーティストである。1967年には「演劇実験室◎天井棧敷」を立ち上げ、人々の旧来的な価値観に揺さぶりをかけ、さらには多岐にわたる活動の中、美術、デザイン、音楽といった様々なジャンルで新しい才能を発見し、育てていったことも特筆すべき業績の一つと言えるだろう。

1960~70年代はいわゆるアングラ文化が全盛の時代だった。高度成長によって近代化が急速に進む一方、社会的な構造と人間の精神との間に様々な歪みが生じ、そうした近代資本主義社

会の矛盾を告発するかのよう権力や体制を批判、従来の価値観を否定していく活動が盛んとなっていった。特に寺山は大衆の興味や関心をひきつける術に特異な才能を発揮した。演劇や実験映画ではそれが顕著で、演劇、映画のあらゆる「約束事」が否定され、感情や欲望を刺激するイメージで覆い尽くされた寺山の斬新な作品は多くの人々を虜にしていったのである。

このコーナーでは、寺山が主宰したアングラ文化の象徴とも言うべき「演劇実験室◎天井桟敷」のポスター18点を紹介する。

展示室K 田澤茂 / 成田亨：鬼が来た

青森県の田舎館村に生まれた田澤茂は、仏教、神話、民話、妖怪や鬼などの日本的な題材や、化粧地藏など、故郷の津軽の風土に根ざした土着性を感じさせるような作品を数多く描いた。「鬼」は特に好んだ主題の一つで、《鬼の門》と題された作品では、さまざまな表情をもった鬼や異形の者たちが浮き彫りのように描かれ、《樹炎菩薩》《地の声》など、地藏や菩薩を描いた作品にも数多くの鬼の姿が描かれている。死んだ子供の回向のために作られたという金木の千体地藏に触発され、地藏を描くようになったという田澤は、「地藏とは閻魔の使で鬼の化身なり、この世の不幸な子を護る菩薩なり」と言われていると書いているが、田澤にとって善悪・明暗すべての要素を含む人間の様々な生や感情への関心を表現するための題材が「鬼」であり「仏」でもあったのかもしれない。そして、平安時代の「地獄草紙」などから想を得た、鬼や妖怪が跋扈する《魍魎魍魎》。「私の魍魎魍魎の絵も現世を描いている。欲とカネの腐敗した時代を見つめて表現するのが現代の画家だと思っている。」との言葉どおり、ここでは愚かな人間を見つめる画家の目は、菩薩のやさしさよりも鬼の苛烈さをもっているようでもある。

ウルトラ怪獣のデザインからはじまり、世界のモンスターを研究した成田亨は晩年、鬼をはじめとする日本のモンスターを研究し、作品を制作している。中でも、西洋のモンスターとは異なり、忌み嫌われる一方で守り神としてあがめられ、善悪二元論をこえた聖性をそなえた存在としての「鬼」に強い関心を持った成田は、鬼の伝承が残る大江山を訪れたことを契機に、同所に《鬼のモニュメント》の制作を依頼され、全身全霊をもって制作にあたった。さらに4年後には岩手県の北上市立鬼の館にも鬼のレリーフを制作している。

《鬼のモニュメント》には、大江山にたてこもったとされる、酒呑童子、茨城童子、星熊童子、黒船童子があらわされている。酒呑童子が指し示す方向には、彼ら「まつろわぬ者」たちを排除した貴族のすむ京の都。権力者の豪華な生活のために抑圧され搾取された民衆の怒りを表しているかのように、力強く生命力にみちたこのモニュメントの造形には、精神性を失った現代社会へむける成田の烈々たる批判精神がこめられているかのようなのである。

展示室L 馬場のぼるの鬼

青森県三戸町出身の漫画家、馬場のぼるは、絵本『11ぴきのねこ』（こぐま社）シリーズの作者として広く知られている。一冊目の『11ぴきのねこ』は1967（昭和42）年に出版され

ましたが、50年以上を経た現在もなお、多くの子どもたちに愛され続けている。

それゆえに「ねこ」の作品のイメージが強い作家であるが、じつは「おに」が登場する作品も少なくない。現在、当館で確認できる「おに」が登場する最初の作品は、1960（昭和35）年に発表された子ども漫画『どんぐり子とおに』だが、この作品に登場する「おに」も、その後の作品の中に登場する「おに」たちも、馬場作品において、多くの「おに」は、「いい鬼」として描かれている。

馬場のぼるは『らしょうもんのおに』（こぐま社、1994年）を出版した際の「作者のことば」のなかで、鬼について次のように語っている。

「人間たちを一段高いところから優しく見守っていて、一種の自由人というか、社会のしきりに縛られない存在なのです。つまりこの鬼は、私の中にある理想の姿といったものです」

怪力の持ち主ながら、のんびりとおおらかで、お人好しで騙されやすく、人間に恐れられ敵対心を抱かれながらも争いを好まない馬場のぼるの「おに」。

馬場のぼるは、古来より異界の存在として語られてきた「おに」の世界を想像しながら、一方で、生き馬の目を抜く現実世界に生きる人間という存在に思いをはせていたのかもしれない。今回は、「おに」をモチーフにした馬場のぼるの作品を展示した。理屈抜きで魅力的な、馬場のぼるの「おに」の世界をお楽しみいただければ幸いである。



田澤茂 魍魎魍魎 1997 194.0×259.0 油彩・キャンパス

コレクション展 2021-2:特集「ユーモアと祝祭」

2021年5月15日(土) - 8月31日(火)

令和3年度コレクション展の第2期は、特集「ユーモアと祝祭」の他、二つの小特集を中心に構成する。

特集は「ユーモアと祝祭」。美術や文学をはじめ、芸術において、ユーモアは大きな役割を果たしている。既存の価値観をひっくりかえすための起爆剤として。体制や権力への風刺として。何よりも、凝り固まってしまった精神を解きほぐし、生命力をよみがえらせるためのおおらかな笑いと。そしてユーモアにみちた芸術は、あたかも祝祭のように、観客の心をうきたたせ、生きる力を与えてくれる。今回の特集では、笑いを武器のひとつとしていた豊島弘尚や馬場彬など戦後の前衛作家たち、そして天衣無縫なパーソナリティから無限のエネルギーを生み出した棟方志功の芸術を紹介する。

また、昨年スタートした、青森県の5つの現代美術を扱う施設による青森5館連携。秋に八戸市新美術館の開館をひかえ、今年度は建築を共通テーマとして、それぞれの館で連携プログラムに取り組んでいる。今回、県立美術館は美術館の建築模型、鈴木理策による美術館の写真等を展示する。

そして、昨年から臨時休館している県立郷土館との連携展示。県立美術館の開館前は、県立郷土館が美術館の役割を担っており、多くの郷土作家のコレクションを持っている。今回はその中から、野沢如洋と松木満史の作品をピックアップ。美術館のコレクションとも組み合わせながら展示する。

棟方志功展示室

棟方志功のユーモア-動物画を中心に一構成：棟方志功記念館棟方志功の扱ったテーマは神仏・文学・女性像など多岐に渡るが、鳥や魚も含む動物もその一つである。

棟方の描く動物たちは、対象を忠実に再現するのではなく、実際とは少し違った姿をしているのが特徴である。例えば、鷹は脚が太く、鯉は緑や青やピンクなどで彩られ、鼻は顔の半分を占めるほど大きな目をしている。

「絵は絵空事」「自然では全く出来ない。立派なモノを改ためて、生まれるから〈絵〉である」(棟方志功『板画の道』、1956年、宝文館、126頁)という考えで制作に臨んでいた棟方。かつて佐渡の寺院の絵で見た、実際とは異なる姿で描かれた牡丹の花に、自然に咲く花よりも鮮やかに生きているかのような見事さを感じたと言う。そしてその絵の作者が咲かせた「絵の花」のように、動物たちも「絵の動物」として新たに絵の中で息づかせようとしたのである。先に挙げたような誇張あるいは簡略化された表現はその思いの表れなのかもしれないし、何より、そうした表現による絵の中ならではの動物たちはユーモアたっぷりで見ると惹きつけてやまない。

一方で、《御五位之鳥図》や《鳥の図》のように、墨の濃淡のみでモチーフ本来の姿を描いた伝統的な日本画の影響が窺える作品もある。ゴッホに憧れて画家を志した棟方は、21歳の頃上京し帝展入選を目指して繰り返し絵を描くが、落選が続き実力不足を痛感してからは、それまで以上に何度も何度も絵を描

いたと言う。こうした努力で培った画力が土台としてあったからこそ、アレンジを効かせることも写實的に描くことも自在だったのだろう。

本コーナーでは鮮やかに彩られ、愛らしくどこか滑稽さも感じられる、絵の中の動物たちを紹介する。

展示室 N

郷土館コレクションから～野澤如洋

現在休館中の県立郷土館のコレクションから、野澤如洋(1865-1937)の作品を紹介。

弘前市出身の日本画家・野澤如洋が活躍したのは、横山大観、菱田春草らがおしすすめた没骨法によって近世以前の絵画の特徴であった線描の伝統が急速に失われ、代わって、いわゆる「日本画」が成立した時代である。こうした状況の中、如洋は時代遅れになりつつあった伝統絵画の線描にこだわり続け、当時の朝鮮半島や中国、さらにはヨーロッパを旅し、それぞれの地域の風俗や自然を伝統的な技法で描くなど、独自の画業を切りひらいていく。ここでは、晩年の如洋の代表作である《春の海、秋の海》を展示する。波だけを描いてほしいという注文をうけ、筆一本でこの大作に挑んだ如洋は、近代の新たな感覚をとりこみながらも、水墨・淡彩で大海原の波の、生き物のようにうねりひろがる様子を見事に描いている。

如洋は、この屏風を描き終えた数日後突然倒れ、73歳の生涯を閉じた。棟方志功は著書『板勁』や『板極道』などで如洋に触れ、「真に日本画を描き卒えた画人として、唯一人の真実清溢なる描法への直截を為し得た画人として野澤如洋の画業は偉大だった」(『板勁』)と、高く評価している。「一本の筆で、濃淡、疎密、自由自在に万物を捉えていました」(『板極道』)と棟方が称賛した如洋の技量は、本作から十分に感じ取ることができるだろう。

展示室 M

郷土館コレクションから～松木満史

現在休館中の県立郷土館のコレクションから、松木満史(1906-1971)の作品を紹介。

近代日本の多くの美術家たちが当時の芸術の中心地であったフランスにあこがれ、渡仏してパリに学び、尊敬するフランスの画家達と同じ風景を描いた。青森の画家では、フランスに学ぶという夢を実現した最初期の画家が、つがる市(旧木造町)出身の松木満史である。若き日から白樺派に傾倒し、美術のみならず文学や演劇にも関心が深く、棟方志功の親友でもあったが、1938年にはかねてよりあこがれていたフランスへの渡航を果たす。家族の不幸や戦争の激化などにより、1年半で帰国を余儀なくされるが、帰国後の作品には印象派風の明るい光がとりいれられるようになっていく。

今回は、県立郷土館が2018年度に作家の遺族から寄贈をうけ、修復後初公開となる《マントメリー》《児と馬》の2点を展示。《マントメリー》は、パリ近郊の町マント・ラ・ジョリーの市庁舎(mairie)を描いている。《児と馬》は滞仏中の作品で、1939年の第2回パリ・日本美術展に出品され首席賞を受けた

作品。当時の様子を伝える雑誌『広告界』も展示する。
この他郷土館のコレクションからは晩年の代表作である『ラ・リュージュ』とその下絵、お気に入りの題材である馬を描いた『シュヴァル』。加えて県立美術館のコレクションからフランスのヴェトゥイユを描いた《風景》、帰国後の1940年、紀元2600年奉祝展に出品した《採集》を展示する。

展示室J ユーモアと祝祭

特集「ユーモアと祝祭」では、「笑い」や「諷刺」を作品の要素としてとりこみ、1960年代を中心に、戦後の高度成長期を経て、東京オリンピックや大阪万博など、社会が浮き立ち、華やかな祝祭感につつまれていた時代の問題に切り込んでいった戦後の前衛作家の作品を中心に展示する。

展示室Jで紹介する3人の作家は戦後、1950年代に社会的事件を取材・記録するという「ルポルタージュ絵画」をてがけたのち、それぞれ独自の表現に進んだ。

1960年代、立石紘一（タイガー立石）とともに「観光芸術研究所」を設立した中村宏（1932-）の《観光独裁》は、意識の奥底にあるフェッティッシュなモチーフ、「女学生」、「機関車」、「飛行機」、「眼鏡」などを組み合わせながら、1964年の東京オリンピック開催前後急速に国土の観光化が進んでいく時代を反映した作品。

高山良策（1917-1982）はシュルレアリスム的な表現に社会風刺を織り交ぜた土俗的なルポルタージュ絵画を制作し、後年は、異形の人間像や不可思議なオブジェなどが画面を支配する独自の幻想絵画へと到達した。成田亨のデザイン画をもとにウルトラ怪獣の立体の着ぐるみを制作したことで知られる高山良策の後年の作品には、こうした特撮映画との関係を反映するかのようなSF的な発想が見られる。

池田龍雄（1928-2020）は、ルポルタージュ絵画にはじまり、化け物の姿で権力者など表現するなど、諷刺や諧謔を交えた油彩やペン画を制作する一方、絵本、児童書の挿絵なども手掛けている。《賑やかな街》の空間に浮遊する建物から色鮮やかな化け物たちが首や手足をのびしているかのような画面には、こうした池田の特徴がよくあらわれている。

展示室I ユーモアと祝祭

展示室Iの作家のうち、豊島弘尚（1933-2013）、松本英一郎（1932-2001）、針生鎮郎（1931-1998）の三人は、豊島が軸となってたちあげたグループ新表現に参加していた。豊島弘尚の《複眼を持つ頭部 64-C》は、CTの断面図をおもわせる頭部の内外に、赤色や鉛筆で意味のあるもの、ないもの取り混ぜて、多くの文字が描かれている。様々な思いや欲望にとりつかれた現代人のあたまの中を覗き込んでいるかのような作品です。また、《例えば嘲笑いの中で変容した頭部》では、テレビの受像機のように変容してしまった頭部により、マス・コミュニケーションの洪水におぼれ始めた社会を鋭く諷刺している。針生鎮郎は代表作の「ぼうず」のシリーズから3点。赤を基調とした厚手のマチエールにかきこまれた緻密な表現が不気味な印象を与える。

松本英一郎は、高度成長期に商店街などによく見られたという紅白幕を背景に、白抜きで太った男がえがかれた1960年代の《平均的肥満体》シリーズの一点と、80年代後半～90年代の幻想的な風景画の一点である《さくら・うし》を展示。

この三人のほか、抽象化された形態とカラフルな色彩により、ポップでユーモラスな印象をあたえる岡本信治郎（1933-2020）の作品。2点の木版画は弘前大学の教授をつとめた美術家の村上善男の旧蔵作品である。

馬場彬（1932-2000）は、作家としての活動のほか、新表現の作家たちや岡本信治郎をはじめ戦後の多くの新進画家たちが展示を行い、戦後美術において大きな役割を果たしたサトウ画廊の運営に、1955年の開設時からかかわっており、1981年の閉廊まで企画に携わった。1989年からは秋田にアトリエを移していた。展示作品は、簡素な形態とグレーを基調とした抑えた色彩で描かれており、断片的で不規則な形態の連なりからは、どこか知的なおかしみが感じられる。

展示室H 成田亨：怪獣デザインの美学

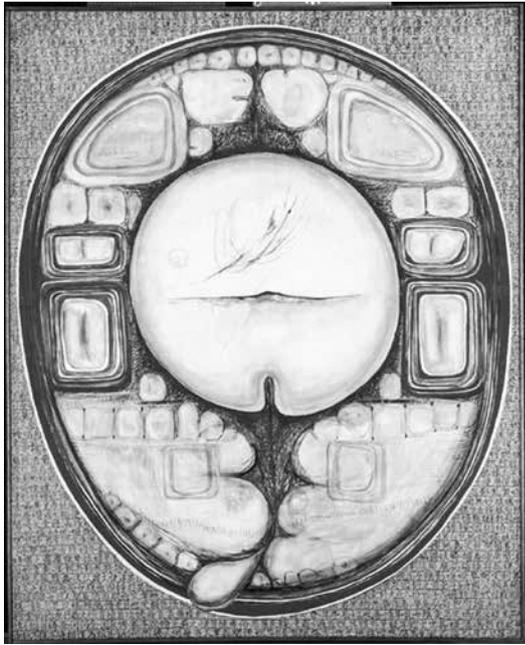
成田亨（1929-2002）は、「ウルトラマン」、「ウルトラセブン」という初期ウルトラシリーズのヒーロー、怪獣、宇宙人、メカをデザインし、日本の戦後文化に大きな影響を与えた彫刻家兼特撮美術監督である。

成田は神戸市に生まれ、直後に青森県へ移った。旧制青森中学（現青森高等学校）在学中に画家・阿部合成と出会い、絵を描く技術よりも「本質的な感動」を大切に考える方を、さらに彫刻家の小坂圭二から対象物の構造や組み立て方、ムーブマンを重視する方法論を学んだ後、武蔵野美術学校（現武蔵野美術大学）西洋画科へと進学。当初は油彩画を専攻していましたが、「地面から立ち上がるようなデッサンを求める」（成田）ため3年次に彫刻科へ転科。具象性を維持しつつもフォルムを自在に変容させ、動的かつ緊張感ある構成を作り上げていくという成田芸術の基礎がここで形づくられていった。

武蔵野美術学校研究科に在籍していた1954年、成田は人手の足りなかった「ゴジラ」の製作に参加、そこで円谷英二と出会い、以降特撮美術の仕事も数多く手がけるようになる。

1965年、東宝撮影所で円谷英二と再会し、「怪獣のデザインはすべて自分がやる」という条件のもと「ウルトラQ」の2クールから制作に参加、以降「ウルトラマン」、「ウルトラセブン」までのシリーズに登場するヒーロー、怪獣、宇宙人、メカニック等のデザインを手がけます。放映に際し、「これまでにないヒーローの形を」という脚本家・金城哲夫の依頼を受けた成田は、ウルトラマンのデザインを純粋化という「秩序」のもとに構築し、対する怪獣のデザインには変形や合成といった「混沌」の要素を盛り込んでいく。

美術家としての高い感性によってデザインされたヒーロー、怪獣は、モダンアートの成果をはじめ、文化遺産や自然界に存在する動植物を引用して生み出される形のおもしろさが特徴である。誰もが見覚えのあるモチーフを引用しつつ、そこから「フォルムの意外性」を打ち出していくというその一貫した手法からは成田の揺らぐことのない芸術的信念が読みとれるだろう。



豊島弘尚 複眼を持つ頭部 64-C 1964 キャンバス・油彩 162.0 × 130.3cm

コレクション展 2021-3: 縄文と現代

2021年10月1日(金) - 2022年1月23日(日)

青森県立美術館は縄文時代の巨大集落、三内丸山遺跡に隣接して建設されており、美術館のミッションには、三内丸山遺跡に埋蔵された縄文のエネルギーを芸術創造の源泉とし、青森県の芸術風土を世界に向けて発信するということがうたわれている。

今回のコレクション展では、現在休館中の青森県立郷土館所蔵の縄文資料と共に、縄文と関りが深い青森県のアーティストたちの作品を中心に展示する。中でも、棟方志功は、友人の医師、大高興氏の縄文遺物のコレクションをたびたび見せてもらって深く感銘を受け、そのコレクション収蔵庫を「風韻堂」と名付けている。本特集では、現在、寄贈されて県立郷土館の所蔵となっている風韻堂コレクションの縄文の遺物を、棟方志功の作品とともに展示し、しばしば「縄文的」と評される棟方志功の芸術との関連を考える。

また、棟方志功の友人で会った小野忠明はアーティストであるとともに考古学の研究者でもあり、青森県の縄文遺跡の発掘にも携わった。戦後青森北高等学校で教鞭をとった小野は、高校の考古学部を率いて県内の発掘調査に参加している。小野忠明の版画作品とあわせて、考古学部の調査資料などを展示する。

このほか、小野忠明の弟で、縄文を愛し、深く影響を受けた小野忠弘の作品、横浜町に生まれ、江戸で育った美術家、豊島弘尚の縄文の影響を受けた作品や、晩年の作品を展示し、青森県のアーティストたちに「縄文」があたえた影響を紹介する。

展示室 N、棟方志功展示室 棟方志功と縄文～風韻堂コレクション

今回の展示では、棟方志功の版画作品と縄文との関わりに焦点を当てる。

花木を模様のように表したり、人物の身体を模様で飾ったり、主役の周囲いっぱいには地模様を入れたり、模様を活かした装飾的な表現で唯一無二の版画世界を切り開いた棟方だが、1950年頃からは縄文を思わせる模様も取り入れ始める。1950年の《道祖土頌》や1951年の《両妃散華の柵》などがそれにあたるが、この頃は全身が黒い人物を白い刻線で飾る表現を試みている。これらに見られる破線や渦巻を組合わせた模様が、縄文土器や土偶の模様と非常に似ている。こうした人物表現が見られるのは3年間ほどで、次第に模様のない黒い胴体が主流になっていくが、縄文を思わせる模様はその後の作品でも、髪の毛や顔などの身体の一部で、また白い刻線とは違った描き方で用い続けている。

棟方は土偶のような顔の人物を描くこともあった。1953年に出会った縄文遺物の収集家・大高興氏に縄文土器や土偶のコレクションを見せてもらうことが度々あったが、大高氏の自伝によると、1961年には大高氏に宛てて「先年大頂戴の偶面を(中略)生かして、大板画をつくり世界各国展に表示し様と思ふてゐます。」(大高興『風韻堂雑録』1979年、269頁)という内容の手紙を送っている。土偶も作品に活かそうとしていたこと

がうかがえるが、1960年代に次々と手掛けた望郷をテーマとした作品の中にも土偶のような顔の人物が登場するものがある。豊穡や生命の誕生を祈願するために作られたという説もある土偶は、青森に幸多かれと願う棟方の強い思いと通ずるものがあったのだろうか。

このように、模様や顔の表情に縄文の要素を取り入れていた棟方。そのことがわかる作品を模様表現の変遷とともに紹介する。また、縄文と同じく棟方が想いを馳せていた、いにしえの時代に題材をとった作品も併せて展示する。

展示室 O,P,Q | [AOMORI GOKAN Program] 青木淳、鈴木理策:「原っぱ」に立つて

「AOMORI GOKAN」は青森県内にある5つの美術館、アートセンターが連携し、青森のアートの魅力を国内外に発信するプロジェクトである。昨年度末から始まった本プロジェクトでは今年度、共通テーマとして「建築」をきっかけ、共同ないしは各館独自に様々な取り組みを行っている。このプロジェクトの関連として、青森県立美術館では建築家・青木淳により県立美術館設計当時に制作された模型やアニメーションといった資料、写真家・鈴木理策氏が撮影したシリーズ《青森県立美術館》を展示する。

建築展ならまだしも、実際の建物の中で、その建物の模型や活用イメージを示すアニメーションを展示することからは、ともしれば間の抜けた印象を受けるかもしれない。実際の建物の中を歩きまわってその意匠や空間としての魅力を味わうことができればそれで充分ではないか、と。しかし青木が県立美術館に託した「使われることで『行われること』が生まれてくる空間—原っぱ」という特質を考えれば、青森県立美術館の魅力とは、訪れた人々によって美術館が「使われること」、そんな営みのあらゆる部分においても見出すことができるのではないだろうか。ならば「使うこと」の最たる手立てとしての「展示」を介して青森県立美術館に「原っぱ」を見出すことは、私たち一人ひとりが立つ、現実の空間への気づきを新たにしようとする行為へとつながっている。

青木の模型やアニメーション、美術館内外をめぐる撮り手自身の身体性を強く反映して撮影された鈴木の写真。それらを掘り込まれた土の空間と白い構造体の凹凸が噛みあいながら生まれる間隙の只中に展示する本セクションは、種々の要素が内部で結合すると同時にそれらが外へとひらいていくような、青森県立美術館の建築のもたらすその場所固有の体験を、鑑賞者一人ひとり「原っぱ」を体験することの導入として置き換えるものである。そうして建築に身を置き体験を私たちの生きる現実空間への意識を生き生きと拡充させることに接続することを試みる。

展示室 M 小野忠弘 縄文とジャンク・アート

弘前市出身の小野忠弘(1913-2001)は廃品を利用したジャンク・アートの第一人者として、ヴェネツィア・ビエンナーレに出品するなど、世界的にも高く評価された前衛美術家である。福井県の三国町に居を定め、教鞭をとるかたわら、古美術や考

古学にも造詣が深く、同地の文化財審議委員などもつとめた。前衛アーティストとして、南画廊など、中央で活躍していた時代の《作品》では、画面に様々なオブジェを貼りつつ、赤や黒の絵具を大胆に用いて、迫力のある画面を作り上げている。また、《アルプとオメガ》などの作品のマティエールは、縄文土器の複雑な文様、土の質感の反映が感じられる。

友人の詩人、宗左近とともに縄文を深く愛し、そこからインスピレーションを得ていた小野は、晩年にいたるまで、廃物を貼り込んでつくられた作品を制作し続けた。貼り付けられたオブジェの中には、様々な石や、貝殻、土器片などもあり、その画面からはまるで遺跡の発掘現場の断面のように、太古からの歴史を封じ込めたような重厚な質感が感じられる。

今回展示している《うらはれ》《ポストエスニック》などの作品では、無機質な物質と抒情性を結びつけるような独自の感性のもと、金属部品から木片、貝がらや仮面など、様々なオブジェ・廃物が貼り付けられ、その混沌とした構成の上に絵具のドリッピングや樹脂で塗りこめることにより統一感をもたせ、豊かな情感と宇宙的なひろがりを感じさせる画面をつくりあげている。

展示室J 小野忠明 考古学とアートのあいだに

小野忠明（おの・ただあきら）は弘前出身の美術家・考古学研究者。棟方志功の親友であり、若き日の志功に、ゴッホの《ひまわり》の図版の掲載された雑誌『白樺』を見せ、志功がゴッホを敬愛するきっかけを与えた人物でもある。小野は、戦前に当時日本の統治下にあった朝鮮半島にわたり、平壤府立博物館で高句麗古墳などの発掘に携わる傍ら、若者に版画を指導、彼らの結成した美術グループ「珠壺会」には崔榮林や朴壽根など、のちに韓国で名をなす画家たちがいました。また、展示室Mで紹介している小野忠弘は弟にあたる。

ここに展示された抽象版画は、拓本の技法によっている。板に石膏などをもりあげてつくった地の上に型でくぼみをつくり、絵の具をつけて摺り上げる独自の技法による抽象的な作品は、大地の肌触りのような重厚なマチエールをみせている。月や天体を思わせる円形のモチーフを用いた作品や、遙か上空からの鳥瞰図のようなイメージの作品には、壮大なヴィジョンが感じられる。また、頭を抱えた人物の葛藤する魂、静謐な孤独を感じさせる深海の貝殻など、具象の木版画も独自の魅力をたたえている。

小野は終戦後帰国し、現在の県立青森北高等学校や明の星高等学校に勤務し、考古学者として、青森県立美術館近辺の三内丸山遺跡や近野遺跡の発掘などにも携わった。青森北高等学校では、同校の考古学部の生徒たちを率いて、県内各所の遺跡の発掘に携わっている。ここでは、小野の版画作品とあわせ、青森北高校の考古学部が発掘した考古遺物、小野忠明、小野忠弘兄弟の兄であり、考古資料の収集家でもあった小野忠正（1899-1998）が所蔵していた貴重な考古資料を展示し、縄文と最も深く関わった美術家でもある小野忠明の、考古学研究者と版画家の二つの側面を紹介する。

展示室I 豊島弘尚 縄文の種子～時の彼方から

豊島弘尚は上北郡横浜町に生まれ、幼時に八戸に移住、八戸高校卒業後東京芸大で学び、50年代から前衛アーティストとして活動をはじめた。

初期から「墓獅子舞」など、生と死の交錯する神秘的なイメージを描き続けてきた豊島は、1974～5年の北欧滞在以降、くりかえしスウェーデンに赴き、北欧神話を思わせる雄大な宇宙論的イメージの作品を制作したが、彼の作品に、八戸の是川遺跡や、大規模集落が発掘・保存された三内丸山遺跡をはじめ、縄文文化の名残をとどめる故郷の風土の影響が見え始めるのは、1990年代後半からである。

1997年、秋田市大館市塚の下遺跡出土の、独特の吊り目が特徴的な土偶の写真を見て、アスファルトが充填された黒い大きな目に感銘をうけた豊島は、のちに新聞への寄稿で「その目は黒々として、右の目は横の地平、左目は斜めに北西を指し、明るい目尻、空走る未生のかたち、水晶光をもそこに秘めて、深く刻にしないで逆光の暗点、じいーっとこちらを見詰めている。」と書いている。この土偶の目の紡錘形の造形は、「縄文の種子」「縄文の卵」など、これ以降の作品に「種子」や「縄文石」、「卵」といったモチーフとして登場している。

また、晩年の作品には、墨の黒を基調とし、まるで「書」のような自在な筆致、色彩の躍動が認められるようになるとともに、自然の神秘的な力や、壮大な神話的なヴィジョンが表現されるようになっていく。

なかでも《もんでりうすべーげん》は、ストックホルムのこの名（モンテリウスベーゲン）の街路から、北欧神話エッダを思い起こさせるような、湖を隔てた市庁舎に沈む壮大な夕陽風景を目にした時の、感動をもとに描いた作品である。巨大な赤い自画像、画面下部、市庁舎が描かれた上空を飛行する戦闘機や雷鳴が轟くような荒天を思わせる宇宙空間など、終末的な世界観に彩られた晩年の代表作である。

展示室H 成田亨 怪獣と縄文

成田亨（1929-2002）は、「ウルトラマン」、「ウルトラセブン」という初期ウルトラシリーズのヒーロー、怪獣、宇宙人、メカをデザインし、日本の戦後文化に大きな影響を与えた彫刻家兼特撮美術監督である。

成田は神戸市に生まれ、直後に青森県へ移りました。旧制青森中学（現青森高等学校）在学中に画家・阿部合成に師事。武蔵野美術学校（現武蔵野美術大学）西洋画科へと進学し、3年次に彫刻科へ転科し、彫刻家として活動を始める。

1954年、成田は人手の足りなかった「ゴジラ」の製作に参加、そこで円谷英二と出会い、1965年、東宝撮影所で円谷英二と再会し、「怪獣のデザインはすべて自分がやる」という条件のもと「ウルトラQ」の2クールから制作に参加、以降「ウルトラマン」、「ウルトラセブン」までのシリーズに登場するヒーロー、怪獣、宇宙人、メカニック等のデザインを手がけた。今回は、成田の怪獣や宇宙人のデザインと、風韻堂コレクションの縄文土器や土偶などを一緒に展示している。成田が直接縄文遺物から影響を受けたということではないが、数千年前の

人々の大胆で自由な土器の造形や文様のデザイン、人間や生物などをモチーフに自由にデフォルメされた土偶などの造形と、モダンアートの成果をはじめ、文化遺産や自然界に存在する動植物を引用して生み出された成田のデザインは、どこかで響きあうものを感じさせる。規則的でありながら自由な生命感を失っていない文様、人体や顔につけられた抽象化された装飾物など、成田の怪獣デザインと縄文は意外なほどマッチしている。人間の原初的な芸術衝動に根差しているようなこうした造形感覚の類似は、発表以来長く愛されてきた成田の怪獣デザインの普遍性の一つのあかしといえるのではないだろうか。



棟方志功展示室展示風景



展示室 H 展示風景

アートプロジェクト

美術館堆肥化計画 2021

開催概要

一旅するケンピ 〈県立美術館プロモーション展示〉

2021年10月2日(土) - 11月3日(水・祝)

会場: ELM *会期中無休 **観覧無料

営業時間: 10:00 - 20:00

鑑賞者数: 841名

11月6日(土) - 12月12日(日)

会場: 中泊町博物館 *休館日: 毎週月曜日、第4木曜日、祝日 **要入館料

開館時間: 9:00 - 16:45 (入館は16:15まで)

鑑賞者数: 131名

一耕すケンピ 津軽編: みみずの足あと 〈地域に取材した現代アート展示等〉

2021年10月2日(土) - 12月12日(日)

会場: colere-ON (これるおん)

*会期中無休 **参加無料

鑑賞時間: 10:00 - 17:00

鑑賞者数: 309名

参加作家: アート・ユーザー・カンファレンス、小田香、弘前大学教育学部有志

※ colere-ON では新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から施設内部の鑑賞はできず、野外展開されたアート・ユーザー・カンファレンスの活動が体験可能だったほか、外から可能な範囲において施設内部での小田香作品や弘前大学教育学部有志の作品は鑑賞可能となった。

一成果展示

2022年4月11日(火) - 6月26日(日)

会場: 青森県立美術館

*休館日: 毎月第2、第4月曜日 **要入館料

開館時間: 9:30 - 17:00 (入館は16:30まで)

鑑賞者数:

※コレクション展 2021-4 内の特別展示として開催。本成果展示の会期は当初「2月5日(土) ~ 4月17日(日)」としていたが、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、4月10日まで臨時休館となり、会期を変更して行った。

主催: 青森県立美術館

特別協力: 社会福祉法人あーと

後援: 東奥日報社、陸奥新報社、五所川原市教育委員会、中泊町教育委員会

展示監修: 西澤徹夫建築事務所

企画HP: <https://www.aomori-museum.jp/schedule/4637/>

関連イベント

(1) オープニングトーク 五所川原市編

日時: 10月2日(土) ① 11:00 - 11:30 ② 14:00 - 15:30

会場: ① ELM ② colere-ON

講師: ①奥脇嵩大(事業担当学芸員) ②大橋一之(社会福祉法人あーと代表)、小田香(フィルムメーカー/アーティスト)、アート・ユーザー・カンファレンス(アートコレクティブ)

※現地で収録した後、美術館 YouTube チャンネル内で公開
[YouTube] https://youtu.be/MJaWCpq_TnM

(2) オープニングトーク 中泊町編

日時: 11月6日(土) 11:00 - 12:00

会場: 中泊町博物館

講師: 齋藤淳(中泊町博物館長)、奥脇嵩大

※現地で収録した後、美術館 YouTube チャンネル内で公開
[YouTube] <https://youtu.be/1c-iN6Quf-8>



事業ポスター



「旅するケンビ」 ELM での歴代企画展ポスター展示の様子



「旅するケンビ」 ELM ファッションフロアでの美術館制服やネオンサイン展示の様子



「旅するケンビ」 中泊町博物館での様子



「耕すケンビ」 colere-ON 外観



「耕すケンビ」 弘前大学教育学部有志が colere-ON の活動を主題に制作した作品のプレゼンテーション



「耕すケンビ」 弘前大学教育学部有志による colere-ON での展示の様子

(3) ワークショップ&トーク

『「糞土師」にまなぶミュージアムの未来』

日時：11月23日（火・祝）11:00 - 15:15 頃

11:00 - 12:00 [第1部] スライドトーク

「うんこはごちそう？ー糞土思想とは何か」

13:30 - 14:30 [第2部] ワークショップ

「お尻をふける葉っぱを見つけよう！」

14:30 - 15:15 [第3部] フン談

「糞土世界とミュージアム」

会場：colere-ON

講師：伊沢正名（糞土師）

参加者数：20名

(4) 座談会「開拓／写真は地域を現像する」

日時：11月23日（火・祝）11:00 - 15:15 頃

会場：中泊町博物館

講師：齋藤淳、竹内覚（開拓農家・竹内正一氏ご子息）、
外崎令子（農婦）

※会場で座談会収録後、事業記録集内で内容を公開

事業記録集

総ページ数：92頁

サイズ：A5判 ソフトカバー

編集：奥脇嵩大

執筆：アート・ユーザー・カンファレンス、伊沢正名、奥脇嵩大、

齋藤淳、竹内覚、外崎令子

デザイン：菊地敦己

印刷製本：株式会社山田写真製版所

発行：青森県立美術館

発行日：2022年3月30日

企画概要および所感

1. 企画概要

県立美術館が今年度「表現の堆肥化」を手がかりに津軽地域に飛び出し、地域と美術館それぞれの活動の新たな魅力を発掘・発信することを目指して行われた事業。五所川原市のショッピングモール ELM や中泊町博物館を会場に美術館の建築やデザイン、本事業のために美術館が地域をリサーチして得られた資料を紹介するプロモーション展示「旅するケンビ」と、五所川原市内で社会福祉法人あーどが経営する福祉作業所兼ゲストハウスの colere-ON を拠点に参加アーティストによる現代アート作品の制作展示、ワークショップ等を行うアートプロジェクト「耕すケンビ 津軽編：みみずの足あと」を二本立てで展開し、最後それらの成果を組み合わせた「成果展示」を県立美術館で開催した。

「旅するケンビ」では美術館要素として館の紹介パネルや外壁を彩るネオンサイン、監視員の制服、館発行の書籍を紹介したほか、地域資料として五所川原市金木に伝わる「偽石器」を美術館で現地採取し展示したほか、戦後の十三湖干拓事業に携わった中泊の農家・竹内正一氏の「開拓記録写真」などを紹介した。また「耕すケンビ」では障がい者を基点にした街づくりを見据え、利用者のケアや就労支援、芸術制作など多角的なプログラムを展開する「社会福祉法人あーど」との協働のもと、参加アーティストらとともに「表現の堆肥化」をテーマとした



「耕すケンビ」アート・ユーザー・カンファレンス
「ジェネラル・ミュージアム | 墓」展開
(五所川原市漆川鍋懸付近)



「耕すケンビ」アート・ユーザー・カンファレンスにより
colere-ON 利用者を対象に行われた「墓」を考える
ワークショップの様子



「耕すケンビ」colere-ON での小田香による立体作品
《離合集散》(2021) 展示の様子



「耕すケンビ」colere-ON での小田香による
映像作品制作の様子



「耕すケンビ」10月2日に colere-ON で行われた
オープニングトークの様子



「成果展示」の様子

プロジェクト「耕すケンビ 津軽編：みみずの足あと」を展開。参加作家は colere-ON を会場にそれぞれ自作を展示し、colere-ON 利用者を主な対象としたワークショップや成果展示に向けた作品制作に取り組んだ。年度末に予定していた事業成果展示は新型コロナウイルス感染症の流行にともなう休館措置により会期が変更となったが、開催時は現地で展開していた作品や資料、レクチャーの記録映像のほか、現地で制作した小田香氏による新作映像作品やアート・ユーザー・カンファレンスによる現地での経験をもとにした新作インスタレーション（空間全体を作品化する芸術形式）作品を紹介。そのほか新たな地域要素として県立郷土館が所蔵する「みみず博士」畑井新喜司氏ゆかりの資料や中泊の現在を写真で記録し続ける農婦・外崎令子の生活写真を紹介した。

2. 担当者所感

新型コロナウイルス感染症の世界的流行による美術館来館者数の回復を図るとともに、県内来館者数の将来的な増加を目的として美術館が地域に飛び出し、地域における美術館やアート需要の発掘発信に取り組んだのが「美術館堆肥化計画 2021」である。今年津軽地域での展開をつくるにあたり、美術館やアート関連施設は少ないながらも民間の商業活動や文化活動が活発な五所川原市と、地域文化の紹介に精力的に取り組む郷土博物館のある中泊町に会場をつくることとした。「旅するケンビ」「耕すケンビ」ともに地域の中で好意的に迎えられ、特に五所川原市のショッピングモール ELM で展開した「旅するケンビ」においては近年施設の取り組み地域コミュニティや来場者の生活全体の向上に寄与する時間や体験を提供する「ライフスタイル

センター」たらんとすることが目指されており、そうした施設全体の方向性と、美術館の主にデザイン要素を紹介する展示構成の親和性が高く、施設スタッフならびに来場者に好評であり、同施設ならびに他施設での開催を希望する声を多くいただいた。今回開発した美術館活動と展開場所の親和性の高いポイントを見つけ、その要素を引き出していく手法は他地域での美術館 PR 展示に応用できる手法であり、今後も様々な場面で応用・展開していきたいと考える。

今年度の「耕すケンビ」は展開場所の福祉作業所という施設性格上、展開期間中に内部を開放することは叶わなかったものの、外から鑑賞できる部分を確保し、施設利用者を主な対象とした作家によるワークショップは作品制作のあり方やアーティストの制作思考を紹介する質の高いものを提供することができ、利用者を中心に好評を博した。総じて地域の人々、アーティスト、美術館それぞれの活動の間で、「つくること」「表現すること」「受け取ること」のプロセスをまさに「みみずの足あと」のごとく紹介することになった今回の「耕すケンビ」は、「表現の堆肥化」をもとに地域と美術館の文化の成長に際して多角的な視野を養う機会となった。また、その過程でなされたコミュニケーションは事業終了後も、各作家と施設間において継続してなされており、アートと福祉の有機的な連関による施設運営がなされていると聞く。引き続き美術館もつなぎ手として彼らの活動を注視していきたい。

上記の事業内容を総覧する美術館での「成果展示」においては、津軽地域の人びと、アーティスト、美術館が協働で計画した、人が地域と生き生きと関係するための術（アート）のありようを美術館と地域の日常をつなぐ形で示すことになった。アート

としての価値を当たり前のものでせず、地域の現実の中で日々生まれるアート未満の表現のあり方をも価値として発掘・発信してゆくための、美術館なりの手法の開発に努めた本成果展示のあり方は、鑑賞しに訪れた津軽地域の人々やその他の鑑賞者にとって好意的に受け入れられ、他地域での事業展開を望む声が多く聞かれた。

総じて「美術館堆肥化計画 2021」は、美術館活動を地域の日常に対して積極的にひらくことを介して、美術館の可能性を拡張し、地域に根ざした文化的な生活の向上を同時に図る機会として機能していたとすることができる。



「成果展示」外崎令子氏による写真展示の様子



「成果展示」アート・ユーザー・カンファレンス
「ジェネラル・ミュージアム | 墓」展開の様子（美術館内）



「成果展示」小田香が制作した映像作品《これらおん 27 sep - 5 oct, 2021》を中心とした展示の様子



「成果展示」アート・ユーザー・カンファレンス
「ジェネラル・ミュージアム | 墓」展開の様子（美術館野外）

5館連携プロジェクト

5館連携の推進

事業概要

2020年の弘前れんが倉庫美術館の開館と2021年の八戸市美術館の開館を機に、青森県立美術館、青森公立大学国際芸術センター青森、十和田市現代美術館の3館を加えた5つの公立の美術施設による連携の取組を推進するための組織として2020年7月に「青森アートミュージアム5館連携協議会」（事務局：青森県立美術館）が設立された。

県民及び観光客の県内周遊を促進し、美術館への入館者数の増加につなげるため、5館連携の基盤を活用して、青森のアートの魅力を国内外への情報発信及び周遊促進に係る事業を行っている。



5館連携ロゴ・キャッチコピー

主な事業内容

(1) 5館共通ウェブサイトを活用した情報発信

(URL : <https://aomorigokan.com>)

- ①各館の基本情報、展覧会スケジュール
- ②5館以外のアートコンテンツ情報
- ③アクセス情報

(2) 「建築」を共通テーマとするプログラムの実施

① 5館共同企画

「建築」をテーマとするコンテンツを作成し、5館共通ウェブサイトで公開した。

(2021年度公開内容)

- ・5館の建築概要及び建築家プロフィール
- ・八戸市美術館建築家へのインタビュー動画（※他4館の動画は2022年度公開予定）

②各館の独自企画

- ・各館独自に建築に係る展示や建築ツアー等を実施

(3) トークイベントの開催

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、関係者のみの開催とし、YouTube ライブ配信を行った。

①タイトル

アート県「青森」の挑戦!! 第二弾 アートと地域との連携から考える魅力ある青森とアートプログラムのこれから

②開催日時

2022年3月6日（日）13:30 - 15:30

③会場

旧弘前偕行社（配信会場）

④概要

ア 八戸市美術館紹介

八戸市美術館副館長 高森大輔

イ 青森アートプログラムについて

青森県立美術館館長 杉本康雄

ウ アートフォーラム

金島隆弘（アートプロデューサー / 京都芸術大学客員教授）

鴻池朋子（アーティスト）

小林恵里（株式会社風景屋）

鷲田めるろ（十和田市現代美術館館長）

⑤主催

青森県、青森アートミュージアム5館連携協議会



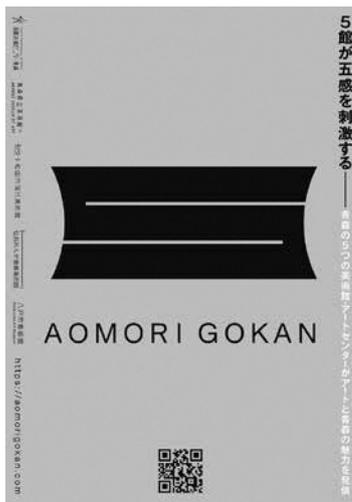
トークイベントちらし（表）



トークイベントの様子

(4) 5館連携PRチラシの作成

A4両面カラー6000部作成(5館、行政機関、県内観光施設、美術関係施設等へ配布)



5館連携PRちらし(表)



5館連携PRちらし(裏)

(5) プレスリリース・パブリシティ

プレスリリース等により、情報発信を行った。

○雑誌等掲載実績(主なもの、順不同)

- ・オズマガジン
- ・北海道生活
- ・おとなのOFF
- ・あおもりのき
- ・ノジュール
- ・ウェブマガジン COLOCAL
- ・青い日記帳ブログ
- ・ウェブ版美術手帖
- ・YouTube 津田大介のアート探訪 ほか

(6) 連携促進に係る協議・検討

①周遊チケットの発行に向けた検討

・次年度試行に向けて、継続協議を行うこととした。

②5館アートプロジェクト(仮称)の実施に向けた検討

- ・5館連携協議会において、2024年4~8月頃に5館で共同企画展を行うことを決定
- ・共同企画展を中心として県内の周遊促進を図るための体制や開催方法等について、次年度引き続き協議を行うこととした。

各種イベント

ナイトミュージアム

開館時間を延長し、夜の美術館で、多くの方にゆったりとした時間を楽しんでいただくための「ナイトミュージアム」を開催した。

概要

日程：2021年8月14日（土）、15日（日）、20日（金）
11月26日（金）、27日（土）
12月18日（土）

※他4日間の開催日を設けるも、新型コロナウイルス感染症の影響による休館のため中止

時間：17:00 - 20:00（最終入館 19:30）

広報活動

宣伝物作成枚数：チラシ（A4版／カラー）8,000枚

広報：

- ・青森市内の文化施設、観光施設、ホテル、飲食店を中心にチラシを配布し、配置を依頼。
- ・青森県立美術館のホームページ・Facebook等、ウェブ上での情報発信。
- ・青森ケーブルテレビでの定期的なお知らせ、県広報（ラジオ）での情報発信。



ナイトミュージアムチラシ

イベント

(1) アレコホール無料開放（全日実施）

「アレコホール」をナイトミュージアム限定で無料開放。入館者には青森県立美術館のロゴマークが入ったシールを確認しやすい位置に貼付。

(2) 館内鑑賞ツアー（全日実施）

- ・普段聞くことが出来ない青森県立美術館の建築や作品につ

いて、学芸員が解説するツアーを実施。

- ・ホームページでの先着・予約制とし、10名限定で実施。すべて定員上限の申込。
- ・コレクション展チケットの購入が参加条件。



館内鑑賞ツアーの様子

(3) ピアノ演奏会

実施日：2021年8月20日（金）
11月26日（金）、27日（土）
12月18日（土）

- ・「アレコホール」にて、ピアノを学ぶ学生等によるピアノ演奏会を開催。（詳細は P56 参照）

(4) ミュージアムコンサート

実施日：2021年8月20日（金）
11月26日（金）、27日（土）
12月18日（土）

- ・「アレコホール」にて、様々な音楽ジャンルのミニコンサートを開催。（詳細は P59 参照）

(5) カフェ「4匹の猫」

ナイトミュージアム限定のコースメニューを各日10人限定、予約制で提供。



ナイトミュージアム限定コース

学芸

美術資料収集

「美術資料収集」における作品データは、作家名、作品名、制作年、寸法（高さ×縦×横、cm）、技法、収集区分の順に記した。

令和3年度収集美術資料

佐々木宏子 青のあいだ 2011-150- II 2011 各 145.0 × 227.0cm 油彩・キャンバス	阿部合成 キリスト 45.4 × 38.2 キャンバス・油彩 阿部由利子夫人遺贈	阿部合成 裸婦 20.2 × 49.5 油彩・板 阿部由利子夫人遺贈	阿部合成 男（未完） 41.0 × 31.8 油彩・キャンバス 阿部由利子夫人遺贈
佐々木宏子 青のあいだ 祈りの空間IV 2009 各 227.0 × 145.0cm 油彩・キャンバス	阿部合成 野地蔵 1965 40.6 × 30.8 油彩・板 阿部由利子夫人遺贈	阿部合成 馬 24.5 × 33.3 油彩・板 阿部由利子夫人遺贈	阿部合成 スケッチ（裸婦） 37.8 × 27/0 パステル・紙 阿部由利子夫人遺贈
小野忠明 風蝕 39.7 × 54.2 拓版・紙	阿部合成 サマルカンドの市場 1968 年頃 38.0 × 46.0 油彩・板 阿部由利子夫人遺贈	阿部合成 あざみ 1952 33.0 × 24.2 油彩・板 阿部由利子夫人遺贈	阿部合成 スケッチ（裸婦） 38.0 × 26.7 パステル、水彩・紙 阿部由利子夫人遺贈
小野忠明 題不詳 1977 44.0 × 56.5 拓版・紙	阿部合成 シルクロード 32.2 × 41.5 油彩・板 阿部由利子夫人遺贈	阿部合成 ピエロ 1969 22.0 × 15.7 油彩・板 阿部由利子夫人遺贈	阿部合成 スケッチ（女性） 38.0 × 22.0 パステル、水彩・紙 阿部由利子夫人遺贈
小野忠明 題不詳 27.0 × 24.0 パステル・紙	阿部合成 黎明 31.3 × 41.0 油彩・板 阿部由利子夫人遺贈	阿部合成 ピエロ 1970 23.0 × 15.3 油彩・板 阿部由利子夫人遺贈	阿部合成 スケッチブック断片 22.2 × 26.8 鉛筆、油彩・紙 阿部由利子夫人遺贈
小野忠明 題不詳 27.2 × 24.0 パステル・紙	阿部合成 メキシコの旗売り 33.6 × 24.6 油彩・板 阿部由利子夫人遺贈	阿部合成 ピエロ 1972 22.0 × 15.7 油彩・板 阿部由利子夫人遺贈	阿部合成 スケッチブック断片（老人） 22.2 × 26.8 油彩・紙 阿部由利子夫人遺贈
阿部合成 牛の骨 1970 40.5 × 52.5 油彩・板 阿部由利子夫人遺贈	阿部合成 メキシコの旗売り 33.5 × 24.3 油彩・板 阿部由利子夫人遺贈	阿部合成 ピエロ 16.7 × 12.5 油彩・板 阿部由利子夫人遺贈	阿部合成 スケッチブック 1940 頃 18.0 × 11.1 鉛筆等・紙 阿部由利子夫人遺贈
阿部合成 メキシコ土偶 1959 年頃 41.2 × 32.0 油彩・板 阿部由利子夫人遺贈	阿部合成 道端のマリア（メキシコ） 40.5 × 25.6 油彩・板 阿部由利子夫人遺贈	阿部合成 バイオリン弾き 22.8 × 16.3 油彩・板 阿部由利子夫人遺贈	阿部合成 スケッチブック 1940 頃 18.4 × 11.0 鉛筆等・紙 阿部由利子夫人遺贈
阿部合成 花 45.1 × 27.0 油彩・板 阿部由利子夫人遺贈	阿部合成 女の人 33.7 × 24.2 油彩・板 阿部由利子夫人遺贈	阿部合成 キリスト 1970 22.8 × 16.0 油彩・板 阿部由利子夫人遺贈	阿部合成 スケッチブック 1940 頃 17.8 × 11.0 鉛筆等・紙 阿部由利子夫人遺贈

阿部合成 スケッチブック 1940頃 18.5×12.7 鉛筆等・紙 阿部由利子夫人遺贈	多田友充 無題（わたしはルークをナイト6へ）04 2022 41.0×32.2 墨・紙	中野渡 尉隆 星・雪・水蒸気 G7 2011 194.0×162.0 キャンバス、混合技法（油絵具・合成樹脂エ ナメル・タルク、天然白亜、胡粉、他数種の 体質顔料） 青森県立美術館サポートシップ倶楽部より寄贈
阿部合成 スケッチブック 1940頃 18.8×12.7 鉛筆等・紙 阿部由利子夫人遺贈	多田友充 無題（わたしはルークをナイト6へ）05 2022 40.8×31.6 墨・紙	中野渡 尉隆 星・雪・水蒸気 B12 2011 162.0×130.3 キャンバス、混合技法（油絵具・合成樹脂エ ナメル・タルク、天然白亜、胡粉、他数種の 体質顔料）
阿部合成 スケッチブック 1940頃 12.5×19.0 鉛筆等・紙 阿部由利子夫人遺贈	多田友充 無題（わたしはルークをナイト6へ）06 2022 40.7×31.6 墨・紙	中野渡 尉隆 星・雪・水蒸気 C15 2011 162.0×130.3 キャンバス、混合技法（油絵具・合成樹脂エ ナメル・タルク、天然白亜、胡粉、他数種の 体質顔料）
阿部合成 スケッチブック 1940頃 18.7×11.1 鉛筆等・紙 阿部由利子夫人遺贈	多田友充 無題（わたしはルークをナイト6へ）07 2022 32.0×41.2 墨・紙	中野渡 尉隆 星・雪・水蒸気 E11 2011 162.0×130.3 キャンバス、混合技法（油絵具・合成樹脂エ ナメル・タルク、天然白亜、胡粉、他数種の 体質顔料）
阿部合成 スケッチブック 1940頃 14.6×18.9 鉛筆等・紙 阿部由利子夫人遺贈	多田友充 無題（わたしはルークをナイト6へ）08 2022 40.8×31.7 墨・紙	中野渡 尉隆 星・雪・水蒸気 E11 2011 162.0×130.3 キャンバス、混合技法（油絵具・合成樹脂エ ナメル・タルク、天然白亜、胡粉、他数種の 体質顔料）
阿部合成 牛 24.0×27.0 墨、水彩・紙	多田友充 無題（わたしはルークをナイト6へ）09 2022 41.2×32.2 墨・紙	中野渡 尉隆 無題 2010 53.0×45.5 キャンバス、混合技法（油絵具・合成樹脂エ ナメル・タルク、天然白亜、胡粉、他数種の 体質顔料）
多田友充 存在するということ（祝福と永遠の瞬間） 2019 227.3×363.6×5.0 アクリル・キャンバス	多田友充 無題（わたしはルークをナイト6へ）10 2022 40.7×31.5 墨・紙	
多田友充 無題（わたしはルークをナイト6へ）01 2022 32.2×41.5 墨・紙	多田友充 存在するということ（キングをルーク1へ） 2020 70.0×136.0 墨・紙	
多田友充 無題（わたしはルークをナイト6へ）02 2022 40.7×31.7 墨・紙	野見山 暁治 岳の花 1948頃 65.7×50.5 キャンバス・油彩	
多田友充 無題（わたしはルークをナイト6へ）03 2022 41.0×32.2 墨・紙	野見山 暁治 青い風景 1961頃 60.0×73.0 キャンバス・油彩	

学芸

美術資料貸出状況

「美術資料貸出状況」における作品データは、作家名、作品の順に記した。

Yoshitomo Nara

貸出先

- ・LACMA (Los Angeles County Museum of Art)、余徳耀美術館 (Yuz Museum Shanghai)

展示施設 (会期)

- ・LACMA (Los Angeles County Museum of Art)、余徳耀美術館 (Yuz Museum Shanghai)

【LACMA】(ー 2022/1/2)

【余徳耀美術館】(2022/3/5ー 2023/1/2)

貸出点数：11 (※)

作品名

- ・奈良美智「港のあの娘」
- ・奈良美智「Sleepless Night、先生の夢」
- ・奈良美智「アラビアの船」
- ・奈良美智「ゼロ戦、空中戦」
- ・奈良美智「ゼロ戦のゆめ」
- ・奈良美智「自分がかめないよ」
- ・奈良美智「西と東、2わの兎」
- ・奈良美智「続いてゆく道に」
- ・奈良美智「The Last Match」
- ・奈良美智「Mumps」
- ・奈良美智「Heads」

※余徳耀美術館へはこの11点の中から下記3点を貸出。

「続いてゆく道に」

「The Last Match」

「Mumps」

- ・棟方志功「虎猫図」
- ・棟方志功「御三尊像図」
- ・棟方志功「御巨銘薫樹圖」
- ・棟方志功「矢間戸大計留之美古都」
- ・棟方志功「angeles (A)」
- ・棟方志功「Angeles (B)」
- ・棟方志功「鍵盤画柵 全59柵」
- ・棟方志功「貴理寿波の柵」
- ・棟方志功「コスモス自画像の柵」
- ・棟方志功「鶯囀の柵」
- ・棟方志功「花矢の柵」
- ・棟方志功「瘋癲老人日記板画柵屏風」
- ・棟方志功「赤富士の柵」
- ・棟方志功「円融無碍頌女人觀世音圖」
- ・棟方志功「御吉祥大辨財天御妃尊像圖」
- ・棟方志功「富獄頌無題の柵」
- ・棟方志功「ロートレックと自画像」
- ・棟方志功「夜鳥共の柵」
- ・棟方志功「驚栖図」
- ・棟方志功「大印度の花の柵」
- ・棟方志功「富嶽大観々圖」
- ・棟方志功「青森山之神圖」
- ・棟方志功「秋の柵」
- ・棟方志功「無尽蔵」

りんご前線

ー Hirosaki Encounters

貸出先

- ・弘前れんが倉庫美術館

展示施設 (会期)

- ・弘前れんが倉庫美術館
(2021/9/18ー 2022/1/30)

貸出点数：14

作品名

- ・佐野ぬい「かくは入口」
- ・佐野ぬい「自画像」
- ・佐野ぬい「赤い三つの瓶」
- ・佐野ぬい「くるまの唄」
- ・佐野ぬい「青の裳」
- ・佐野ぬい「青の歴」
- ・佐野ぬい「青の季」
- ・佐野ぬい「ペーパーガン・Z」
- ・佐野ぬい「ブルーノートの構図」
- ・佐野ぬい「余白のテーマ」
- ・佐野ぬい「左手のための序曲」
- ・佐野ぬい「日記のテーマ」
- ・佐野ぬい「青の時間」
- ・佐野ぬい「青の様式」

棟方志功展

貸出先

- ・一関市博物館

展示施設 (会期)

- ・一関市博物館
(2021/9/18ー 12/5)

貸出点数：41

作品名

- ・棟方志功「雪国風景図」
- ・棟方志功「八甲田山麓図」
- ・棟方志功「シラノ版画帝劇二月興業」
- ・棟方志功「歌舞伎版画勸進帳」
- ・棟方志功「桃真盛り」
- ・棟方志功「十銭版画 木葉づく」
- ・棟方志功「華厳譜 (日出の柵)」
- ・棟方志功「華厳譜 (日没の柵)」
- ・棟方志功「華厳譜 (日神の柵)」
- ・棟方志功「大和し美し2巻」
- ・棟方志功「奥入瀬溪流図」
- ・棟方志功「山間風景図」
- ・棟方志功「勝鬘譜善知鳥版画曼陀羅」
- ・棟方志功「美魅寿玖図」
- ・棟方志功「群鯉図」
- ・棟方志功「大旭日山」
- ・棟方志功「雑華山房主人像図」

学芸

作品保存修復

保存管理

展示・保管している美術資料の公開と保存を両立させるため、温湿度等の空調や照度の調整、粉塵・有害ガス・虫菌害等の定期的な環境調査の実施などにより展示・収蔵環境を管理している。また、日常的な点検に基づき、必要に応じて収蔵作品等のマット装や表装・額装の改善、保存箱の作成、専門家による調査・保存処置等を行った。さらに、基本データの整理、写真撮影による画像データの記録をおこなった。

教育普及

普及プログラム

※本年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、普及プログラムを休止とした。

教育普及

スクールプログラム

概要

未来の青森県を担う感性豊かな人材を育成するためには、多くの子どもたちに対して、優れた美術作品に出会い本物が持つ素晴らしさを体験し、ふるさと青森の芸術文化や先人を学ぶ機会を提供することで、郷土に対する誇りが持てる鑑賞指導を行うことが極めて重要である。

このため、子どもたちが居住地や家庭環境の違いの影響を受けずに、級友と語り合いながら発達段階に応じた深さで等しく学ぶ機会を提供する学校教育の場を活用して、児童・生徒、教育関係者を対象に、鑑賞指導、研修会等の多様な事業を行うスクールプログラムを実施する。

学校団体の来館受入れ

多くの子どもたちが優れた美術作品に接し、豊かな感性や能力を伸ばす機会として、学校団体の来館を積極的に受け入れている。特に、作品を見て子どもたちが感じたことや考えたことを大切に、言葉で伝え合うことを通して、主体的に鑑賞する能力を育むことを重視した対話型鑑賞に力を入れている。

メニュー：

鑑賞プログラム（自由鑑賞、対話型鑑賞）、オリジナルプログラム（創作体験、他）

※令和3年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、対話型鑑賞プログラムを休止とした。

月	学校団体		団体数					計
	展示会毎		小	中	高	特		
	常設展 (人数)	企画展 (人数)						
4月	149	35	2	2	0	0	4	
5月	148	0	2	0	0	0	2	
6月	1,031	310	12	2	3	0	17	
7月	566	46	14	2	1	6	23	
8月	59	0	0	1	0	0	1	
9月	0	0	0	0	0	0	0	
10月	1,093	86	7	9	0	0	16	
11月	1,228	337	4	5	4	2	15	
12月	1,026	228	1	0	8	1	10	
1月	0	0	0	0	0	0	0	
2月	0	0	0	0	0	0	0	
3月	0	0	0	0	0	0	0	
合計	5,300	1,042	42	21	16	9	88	

出前講座

学校の要望等に応じ、学校での出前形式による講座（創作体験や職業講話等）を実施することがある。

※令和3年度は実施実績なし

職場体験

美術館の教育普及活動、学校連携、キャリア教育推進等の観点から、各学校の要望を踏まえながら、中学校・高等学校等からの職場体験、見学等を受け入れ、美術館の公共施設・観光施設としての役割や仕事の体験を通じて学ぶ機会を提供する。

※令和3年度は実施実績なし

アートカード

図工・美術の授業及びクラブ活動などの学校教育活動で気軽に使用できる鑑賞教材として、棟方志功、奈良美智、鷹山宇一、豊島弘尚等、本県ゆかりの作家の作品や三内丸山遺跡出土遺物などを50点にまとめた「アートカード」を制作し、平成19年度から県内9施設において学校への貸出しを行っている。

貸出実績：3件

貸出施設一覧

施設・機関名
青森県立美術館
青森県総合学校教育センター
青森市教育研修センター
つがる市生涯学習交流センター「松の館」（つがる市教育委員会指導課）
五所川原市立図書館
弘前市教育センター
十和田市現代美術館
むつ市立図書館
八戸市美術館建設準備室

教員研修

美術館と連携した鑑賞教育について教員の理解を深めるため、当館のコレクションや鑑賞指導法（アートカードの活用、ギャラリートーク演習等）などをテーマに、県総合学校教育センター、市町村教育委員会図工及び美術等教科研究会との連携講座を実施している。

※令和3年度は実施実績なし

鑑賞サポーターの育成

学校団体鑑賞ツアーで来館した児童・生徒の鑑賞指導にあたる鑑賞サポーター（平成22年度までの「ファシリテーター」を呼称変更。）を配置・養成し、多くの学校団体の受入・指導を行っている。

令和3年度3月末現在：19人

※令和3年度は新型コロナウイルス感染症拡大状況を鑑み、活動休止とした。

教育普及

サポートスタッフ

概要

青森県立美術館では、県民が美術館の活動に積極的に参加できるように工夫し、「県民とともに活動する」ことを目指している。その取り組みの一つとして、美術館の様々な事業等の運営に参加、協力するボランティアを「サポートスタッフ」として募集し、各種イベント運営や、管理事務の補助、環境安全整備等、幅広いボランティア活動の展開を図っている。

募集概要

募集期間：2021年2月1日（月）－3月5日（金）

応募要件：

- ・満18歳以上（2021年4月1日現在）。
- ・美術館活動に関心があり、積極的に学び活動する意欲のあること。

登録者数：73人（令和3年度末現在）

活動内容

1 研修

※令和3年度はサポートスタッフ研修を全て中止し、資料送付をもって研修に代えた。

2 サポート活動

(1) 舞台芸術（広報物発送作業等）

活動日数：1日

参加人数：7人

(2) 運営管理（資料整理等）

活動日数：6日

参加人数：72人

パフォーミングアーツ

演劇

総合芸術空間魅力体感推進事業

1 事業概要

舞台芸術部門については、当館開館時に掲げた当館のミッションである「優れた芸術を体感できる」機会を提供するため、演劇・音楽・ダンス等を多岐にわたり実施しており、また「県民とともに活動する」ミッションのもと、県民参加型演劇を制作してきた。

その会場としては、特に、シャガール作バレエ「アレコ」舞台背景画を展示し、芸術の融合を象徴する場であるアレコホールにおいて多く展開してきたところである。

本事業は、総合芸術空間としてのアレコホールの魅力を発信するため、絵画・演劇・音楽・ダンスの全ての要素が融合した芸術公演を上演したものである。

2 出演俳優向けワークショップ

オーディションで出演俳優として選考された3名を対象に、演劇の基礎を学ぶワークショップを実施（全6回）。

日時：2021年4月18日（日）、4月24日（土）、5月15日（土）、5月23日（日）、6月5日（土）、6月13日（日）
各日 13:30 -

会場：青森県立美術館スタジオ

講師：長谷川孝治（劇作家、演出家）

3 アトリエ公演

俳優として選考された3名の演劇スキルアップを目的に、アトリエ公演を実施。

(1) 公演概要

公演名：音楽劇出演俳優によるアトリエ公演
「夜のプラタナス」

脚本／演出：長谷川孝治（演出家、劇作家）

日時：2021年7月10日（土）14:00 開演

会場：青森県立美術館シアター

観客動員：計20人

※一般公開はせず、参集者は出演者の知人、県立美術館ドラマリーディングクラブ員等に限定して行った。

入場料：無料

出演：木村英雄、蛭名みどり、上林有紀

主催：青森県立美術館パフォーミングアーツ推進実行委員会、
青森県立美術館

助成：一般財団法人地域創造

(2) 広報活動

宣材物作成枚数：チラシ（A4版／カラー、白黒）60枚

(3) 予約

Eメール又はFAXで予約を受け付けた。

(4) 稽古

日程：2021年6月26日（土）、6月27日（日）、7月4日（日）
各日 13:30 - / 2021年6月30日（水）、7月2日（金）、
7月7日（水）、7月9日（金） 各日 18:30 -

場所：青森県立美術館シアター

(5) リハーサル

日時：2021年7月10日（土）10:00 -

場所：青森県立美術館シアター

4 アレコホール舞台芸術公演2022「CROSS」

(1) 公演概要

公演名：アレコホール舞台芸術公演2022「CROSS」

日時：2022年2月23日（水・祝）17:00 -

※無観客、ライブ配信（ライブ配信後、2022年2月28日（月）
23:59までアーカイブ配信）

会場：青森県立美術館アレコホール

チケット販売数：101枚

延べ視聴数：311回

料金：1,500円

出演者：

- ・高実希子（ピアノ）
- ・石上真由子（ヴァイオリン）
- ・金子鈴木太郎（チェロ）
- ・棟方翔也、古山七斗、熊沢藍
（以上、豊田児童センター一輪車クラブ）
- ・木村英雄、蛭名みどり、上林有紀
（以上、県民オーディション選出俳優）

スタッフ：

- ・制作：中村昭一郎
- ・構成／美術：三浦孝治
- ・演出：清水司
- ・一輪車指導：木村笑子
- ・朗読詩構成：鹿内由美子
- ・照明：佐藤牧人、神照一
- ・音響：本多大公

- ・映像：三浦孝治
- ・VJ：野村眞仁、駒井澤
- ・配信：成田裕彦
- ・撮影監督：齋藤耕平
- ・撮影：石川雄英、石川和也、松橋徹
- ・音声：工藤敢司
- ・舞台監督：寺山紀幸

主催：青森県立美術館パフォーミングアーツ推進実行委員会、
青森県立美術館
助成：一般財団法人地域創造

(2) 広報活動

宣材物作成枚数：チラシ (A4 版/カラー、白黒) 80,000 枚

(3) 配信チケット販売

チケットサイト「カンフェティ」

(4) 稽古

日程：2022年1月15日(土)、1月22日(土)、1月29日(土)、
2月5日(土)、2月6日(日)、2月12日(土)、2月
13日(日)、2月17日(木)、2月18日(金)、2月19
日(土)、2月21日(月)、2月22日(火) (計12回開催)

※土・日曜日は13:30 -、平日は19:00 -

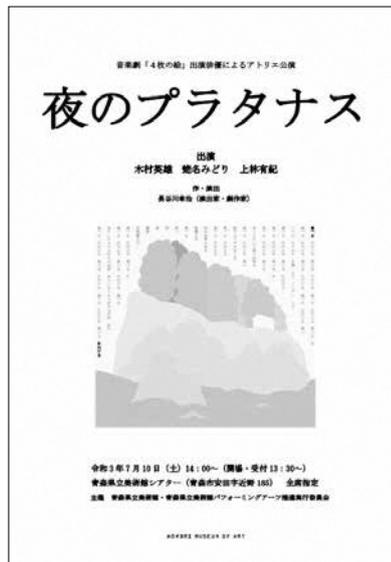
場所：青森県立美術館スタジオ、アレコホール

※2月21日(月)以降、アレコホールで全出演者による稽古

(5) リハーサル

日時：2022年2月23日(水・祝) 11:00 -

場所：青森県立美術館アレコホール



アトリエ公演チラシ (オモテ)



アトリエ公演チラシ (ウラ)



俳優ワークショップの様子



アトリエ公演の様子



CROSS 公演チラシ (オモテ)



CROSS 稽古の様子



CROSS 公演チラシ (ウラ)



CROSS 公演の様子 1



CROSS 公演の様子 2

ドラマリーディングクラブ事業

1 ドラマリーディングクラブ

県立美術館に県民が積極的に参加できる環境を舞台芸術企画部門からアプローチする。

「青森県立美術館ドラマリーディングクラブ(2009年設立)」は、経験や技術の枠にとらわれない幅広い年齢層の県内在住者を参加対象に、オリジナルの戯曲や詩・小説、その他の文章を用いた朗読形式による公演を実施している。

令和2年度は、青森県立美術館ドラマリーディングクラブ員の人数が年々減少していること等を受け、新規クラブ員の募集についての積極的な広報を行ったところ新規加入者が16名増え、クラブ員総数は25名となる。令和3年度は、県外転出で24名。

設立：平成21年度

参加条件：

- ・青森県立美術館での稽古に参加できること
- ・年齢・経験不問(未成年者は保護者の同意が必要)
- ・年間に最低1公演には参加できる
- ・交通費や食費など、活動に際して個人に係るものは全て自己負担

活動場所：青森県立美術館施設内を基本とする。

募集期間：募集定員に達するまで随時募集

定員：50名(欠員が出た場合は補充)

参加料：無料(交通費、食費等の個人に係るものは全て自己負担となる。)

選考方法：書類選考とし、書類受理後に随時面談を行う。

稽古内容：

- ・青森県立美術館パフォーミングアーツ専門スタッフの指導のもと、オリジナルの戯曲や既成の詩・小説、その他の文章を使い、空間を意識しつつ朗読する。
- ・定期公演に向けた稽古を実施する。
- ・青森県立美術館企画サポート公演に向けた稽古を実施する。
- ・その他公演に向けた稽古を実施する。

2 定期公演

(1) 定期公演概要

演目：青森県立美術館ドラマリーディングクラブ定期公演
「あらしのよるに」

日時：2021年6月19日(土)、20日(日)
各日14:00開演(13:30開場、受付開始)
途中休憩あり

会場：青森県立美術館シアター

席数：54席(全席指定)

料金：一般800円、高校生以下300円

構成：演出：長谷川孝治(劇作家、演出家)

引用：きむらゆういち作／あべ弘士絵『あらしのよるに』、『あ
るはれたひに』、『きりのなかで』、『どしゃぶりのひに』、
『ふぶきのあした』、『まんげつによるに』(講談社刊)

音響：映像：寺山紀幸

照明：デザイン：三浦孝治

出演：6月19日(土)

山内省吾、寺山映夢、田中昌子、福田寿枝、菊地泰子、
三上由美子、須藤真由美、須藤哲也、石岡博之(計9名)
6月20日(日)

今ゆき子、佐藤水月、金恵美子、小野寺圭子、古川史生、
菊地菜美、永澤恵里、須藤哲也、井上美雪(計9名)

観客動員数：108名(2公演合計)

広報活動

①宣材物：

- ・チラシ(A4版/カラー、白黒)9,000枚
- ・ポスター(B2版/カラー)150枚

②広報：

- ・5月中旬から宣材物の配布開始。
- ・県内新聞、各市町村広報誌において公演告知。
- ・青森市内小学校へチラシ送付。
- ・県内大学、図書館、文化施設、商業施設等を中心に宣材物を配布し、掲示を依頼。
- ・パフォーミングアーツ推進実行委員会顧客へのダイレクトメールの送付。
- ・美術館ホームページ、Facebook、Twitter、Instagramに掲載。
- ・ラジオ番組での告知。

(2) チケット予約/販売

インターネット外部サイト「GETTIIS」で行い、コンビニエンスストア(セブンイレブン)での発券とした。当該サイトでの予約ができない方には、事務局が電話で受け付けるチケット代行予約を行った。

(3) 新型コロナウイルス感染症対策

- ・来場者の氏名、連絡先の把握のため座席は全席指定とし、チケットの販売方法はインターネット(外部サイトGETTIIS)に限り、当日券の販売は無しとした。
- ・感染者が発生した場合など必要に応じて保健所等の公的機関へ氏名及び緊急連絡先が提供され得ること、来場を控えてもらう場合等をチラシ、ホームページで周知。
- ・検温の実施(37.5℃以上の場合に入場不可)。
- ・館内での咳エチケット、マスク着用、手洗い、手指消毒、社会的距離の確保の要請。
- ・接触確認アプリ(COCOA)の導入要請。
- ・会場内の消毒。
- ・空調稼働時間の延長等による換気の徹底。
- ・出演者、スタッフの氏名及び緊急連絡先を名簿化。
- ・託児サービスは行わない。
- ・パンフレット、チラシ、アンケート、ブランケットは客席に予め設置し、手渡しはしない。
- ・チケットのもぎりは来場者自身が行う。
- ・出演者への面会、お花、贈り物のご遠慮いただく。
- ・座席はステージに近い前2列は空席とし、前後左右も1席ず

つ空けた配置とする。

- ・ステージ上及びステージと客席の間にアクリル板を設置。
- ・出演者控室を2か所に設置。

(4) 稽古

日時：2021年6月6日(日)、9日(水)、16日(水)、18日(金)

※6日は13:00 - 、その他は18:30 -

場所：青森県立美術館シアター

参加人数：62名(累計)



定期公演の様子



定期公演チラシ (オモテ)



定期公演チラシ (ウラ)

パフォーミングアーツ

音楽

総合芸術空間魅力体感推進事業

1 事業概要

舞台芸術部門については、当館開館時に掲げた当館のミッションである「優れた芸術を体感できる」機会を提供するため、演劇・音楽・ダンス等を多岐にわたり実施しており、また「県民とともに活動する」ミッションのもと、県民参加型演劇を制作してきた。その会場としては、特に、シャガール作バレエ「アレコ」舞台背景画を展示し、芸術の融合を象徴する場であるアレコホールにおいて多く展開してきたところである。

本事業は、未来を担う中高生等が高度な芸術に親しむ機会を創出するため、アレコホールでピアノに触れられる「アレコホールピアノ演奏体験会」を開催したものである。

2 アレコホールピアノ演奏体験会

(1) 募集概要

日時：2021年8月20日(金)、8月21日(土)、9月17日(金)、9月18日(土)、9月19日(日)、11月26日(金)、11月27日(土) 各日 17:15 - 17:45

(ナイトミュージアムのプログラムの1つとして実施。)

会場：青森県立美術館アレコホール

演奏時間：1人10分以内

定員：各日、最大3人(3人×7日間=最大21人)

参加料：無料

募集期間：2021年6月9日(水) - 7月9日(金)

応募資格：

以下の全てを満たす者を対象とする。

- ・ソナチネ以上の教本を勉強中であること。
- ・青森県内の小学校、中学校、高等学校、大学等の学生であること。

選考方法：書類審査

主催：青森県立美術館パフォーミングアーツ推進実行委員会、青森県立美術館

助成：一般財団法人地域創造

(2) 広報活動

宣材物作成枚数：チラシ(A4版/カラー、白黒)5,000枚

広報：

- ・青森県内の高校・大学、文化施設、教育機関、道の駅、音楽教室等を中心に宣材物を配布。
- ・青森県立美術館のホームページ、Facebook等、ウェブ上での公演情報の発信。

(3) 実施概要

応募者数：15名

選定者数：15名

参加者数：2021年8月20日(金)2名、11月26日(金)2名、11月27日(土)3名、12月18日(土)1名

※新型コロナウイルス感染症拡大により、実施予定日が休館となるなど、実施日が予定より少なくなった。演奏できなかった者には、令和4年度に演奏いただくこととした。



体験会募集チラシ (オモテ)



体験会募集チラシ (ウラ)



体験会の様子

音楽事業

1 事業概要

当館では開館以来、舞台芸術事業のひとつとしてアレコホールでの定期演奏会を開催しており、毎年好評をいただいているところである。

令和3年度は当館初の試みとして、バリトン歌手と2人のピアニストによる歌をメインとしたコンサートを開催したものであるが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で当初の8月28日(土)開催予定を中止とし、日程を振り替えて開催することとしたものである。

また、新しい取組として、アレコホールの県民利用を促進するため、ナイトミュージアムのプログラムの1つとして、アレコホールでの県民によるミュージアムコンサートを開催した。

2 定期演奏会

(1) 公演概要

公演名：アレコホール定期演奏会 2021 「今、心の歌を。」
～一つの声と二つのピアノで紡ぐ～

日時：2021年11月23日(火・祝)

開場 17:30 開演 18:00

会場：青森県立美術館アレコホール

席数：94席(全席指定)

入場料金：一般2,000円、高校生以下1,000円

※税込、前売りのみ。

主催：青森県立美術館パフォーミングアーツ推進実行委員会、
青森県立美術館

(2) 広報活動

宣材物作成枚数：

・チラシ(A4版/カラー、白黒)10,000枚

・ポスター(B2版/カラー)200枚

※当初予定の日付のもの。振替公演は日付等修正し、簡易印刷版として使用した。

広報：

・PA顧客へダイレクトメールを送付。

・青森県内の大学、文化施設、教育機関、道の駅、音楽教室、各商店街等を中心に広報物を配布し、掲示を依頼。

・青森県立美術館のホームページ、Twitter、Instagram、Facebook等ウェブ上での公演情報の発信。

・青森県の広報枠を使用したラジオ番組や新聞広告での公演情報の発信。

(3) チケット予約/販売

チケットサイト「カンフェティ」のWEBまたは電話で予約(WEBは販売有)、コンビニエンスストア(セブンイレブン)での発券(販売)とした。

(4) 公演詳細

出演者：

・星野淳(バリトン)

・高実希子(ピアノ)

・佐藤慎悟(ピアノ)

演奏曲目：

・W.A.モーツァルト/歌劇「フィガロの結婚」K.492より
序曲

演奏：高実希子、佐藤慎悟

もう飛ぶまいぞこの蝶々

演奏：星野淳、高実希子

・G.ビゼー/歌劇「カルメン」より

闘牛士の歌

演奏：星野淳、佐藤慎悟

Carmen Fantasy (G.アンダーソン編曲)

演奏：高実希子、佐藤慎悟

・W.R.ワーグナー/歌劇「さまよえるオランダ人」より

期限は切れた

演奏：星野淳、高実希子

休憩(20分)

・F.P.シューベルト/魔王

演奏：星野淳、高実希子、佐藤慎悟

・梁田貞、山田耕筰/城ヶ島の雨

演奏：星野淳、高実希子

・山田耕筰、中山晋平(岩河智子編曲)/砂山

演奏：星野淳、高実希子

・滝廉太郎(畑中良輔、林光、本居長世、山田耕作(伴奏編曲))
/箱根八里

演奏：星野淳、高実希子

・S.ラフマニノフ/ヴォカリーズ 作品34-14

【1台4手】演奏：高実希子、佐藤慎悟

・美輪明宏/ヨイトマケの唄

演奏：星野淳、高実希子

【アンコール】

・三善晃/唱歌の四季より

紅葉

演奏：高実希子、佐藤慎悟

・L.V.ベートーヴェン/交響曲第9番 第4楽章より(リスト編)

演奏：高実希子、佐藤慎悟

・ララ/グラナダ

演奏：星野淳、高実希子、佐藤慎悟

観客動員：83人(88%)

(5) 演奏家プロフィール

星野淳(バリトン)：

北海道大学理Iを経て、北海道教育大学札幌分校特設音楽科を卒業。二期会オペラスタジオ第34期研究生修了、優秀賞を受賞。

バロックから現代までの幅広いコンサートソロレパートリーを持つ。新国立劇場、東京二期会オペラ等に多数出演。特に『メリー・ウィドー』では、「故立川清登氏を彷彿させるダニロ」と絶賛される。二期会会員。

高実希子（ピアノ）：

北海道函館市出身。桐朋女子高等学校音楽科、桐朋学園大学首席。パリ国立高等音楽院卒業。ショパン国際ピアノコンクールinASIA 大学生部門最高位他、国内外での受賞歴多数。ソリスト、室内楽奏者としてフランス・ベルギー・イタリア・ロシア等海外から招聘他、国内外の著名演奏家と共演を重ねる。令和2年度函館市文化団体協議会青麒麟章受章。

佐藤慎悟（ピアノ）：

八戸市生まれ。昭和音楽大学ピアノ演奏家コース首席卒業。国立ローマ・サンタ・チェチリア音楽院アカデミアに入学後、数々の国際コンクールで第1位受賞。インターナショナル・アーツ・アカデミーピアノ演奏家コース満場一致で首席修了。帰国後は自宅でピアノ教室を主宰。ソロ活動や合唱団、室内楽、声楽や器楽の各ソリストとの共演にも力を入れ活動中。

(6) 新型コロナウイルス感染症対策

- ・ 来場者の氏名、連絡先把握のため、チケット販売をインターネット（カンフェティ）で行い、座席は全席指定制、当日券の販売は無し。
- ・ 感染者が発生した場合など必要に応じて保健所等の公的機関へ氏名及び緊急連絡先が提供され得ること、来場を控えてもらうケース等をチラシ、ホームページで周知。
- ・ 検温の実施（37.5℃以上の場合に入場不可）。
- ・ 館内での咳エチケット、マスク着用、手洗い、手指消毒、社会的距離の確保の要請。
- ・ 接触確認アプリ（COCOA）の導入要請。
- ・ 会場内の消毒。
- ・ 空調稼働による換気の徹底。
- ・ 出演者、スタッフの氏名及び緊急連絡先を名簿化。
- ・ 託児サービスは行わない。
- ・ 休憩時の飲料販売は行わない。
- ・ パンフレット、チラシ、アンケート、ブランケットは、客席に予め設置し、手渡ししない。
- ・ チケットのもぎりは、来場者自身が行う。
- ・ 出演者への面会、お花、贈り物をご遠慮いただく。
- ・ 通常より前後左右の間隔をあけた観客席の設置（200席→94席）。
- ・ 物販、出演者による見送りは行わない。



定期演奏会チラシ（オモテ）



定期演奏会チラシ（ウラ）



定期演奏会の様子

3 県民によるミュージアムコンサート

(1) 募集概要

日時：2021年8月20日(金)、8月21日(土)、9月17日(金)、
9月18日(土)、9月19日(日)、11月26日(金)、11
月27日(土)、12月18日(土)
各日 18:50 - 19:20
(ナイトミュージアムのプログラムの1つとして実施。)

会場：青森県立美術館アレコホール

募集人数：各日1組(全8組)

※個人または5人以内のグループ

演奏時間：1組30分以内

経費：出演料、旅費、食費等の支給はしない

募集期間：2021年6月9日(水) - 7月9日(金)

応募条件：

以下の全てを満たす者を対象とする。

- ・青森県内に居住している者、または青森県内の事業所に所属する者
- ・これまで公演実績があること
- ・30分程度の演奏を行うことができること
- ・アレコホールの雰囲気損なうような大音量となる演奏をしないこと
- ・政治的な目的を有しないこと
- ・自己の営業宣伝を目的としないこと
- ・床や壁等の設備の破損・損壊や美術館の運営に支障をきたすおそれのあることをしないこと

選考方法：書類審査

主催：青森県立美術館

(2) 広報活動

宣材物作成枚数：チラシ(A4版/カラー、白黒)5,000枚

広報：

- ・青森県内の高校・大学、文化施設、教育機関、道の駅、音楽教室等を中心に宣材物を配布。
- ・青森県立美術館のホームページ、Facebook等、ウェブ上での公演情報の発信。

(3) 実施概要

応募者数：38組 選定者数：8組

出演者：アコースティックギター2名(8/20)

ピアノ1名(11/26)

ピアノ2名(12/18)

※新型コロナウイルス感染症拡大により、実施予定日が休館となるなど、実施日が予定より少なくなった。演奏できなかった者には、令和4年度に演奏いただくこととした。



コンサート募集チラシ(オモテ)



コンサート募集チラシ(ウラ)



コンサートの様子

パフォーミングアーツ

映画

映画事業

1 事業概要

当館では平成26年度より、文化庁及び国立映画アーカイブが実施する「優秀映画鑑賞推進事業」の制度を活用し、所蔵フィルムの無償貸与を受け上映会を開催してきたところである。令和3年度も同制度を活用し上映会を行ったものであるが、当初9月3日（金）、4日（土）、5日（日）の3日間で4本の映画を合計6回上映予定だったが新型コロナウイルス感染症拡大の影響で中止とし、日程を振り替えて開催することとしたものである。

2 青森県立美術館映画上映会「昭和・銀幕のスタアたち」

(1) 公演概要

日時：2022年1月10日（月・祝）

10:30 開演（10:00 開場、受付開始）

会場：青森県立美術館シアター

席数：109席（全席指定）

料金：一日券 800円

上映作品：「座頭市物語」（1962年、三隅研次監督）

「隠し砦の三悪人」（1958年、黒澤明監督）

観客動員数：44名（2回合計）

広報活動

① 宣材物：チラシ：（A4版／白黒）3,500枚

② 広報：

- ・12月中旬から宣材物の配布開始。
- ・県内新聞、各市町村広報誌において公演告知。
- ・美術館ホームページ、Facebook、Twitter、Instagramに掲載。
- ・青森ケーブルテレビでの告知。

(2) チケット予約／販売

チケットサイト「カンフェティ」のWEBまたは電話で予約（WEBは販売有）、コンビニエンスストア（セブンイレブン）での発券（販売）とした。

(3) 新型コロナウイルス感染症対策

- ・チケットは、全てWEBまたは電話での予約（カンフェティ）による事前購入とし、座席は全席指定、当日券の販売は無しとした。
- ・感染者が発生した場合など必要に応じて保健所等の公的機関へ氏名・緊急連絡先が提供され得ること、来場を控えてもらうケース等をチラシ、ホームページで周知。
- ・検温の実施（37.5℃以上の場合に入場不可）。
- ・館内での咳エチケット、マスク着用、手洗い、手指消毒、社会的距離の確保の要請。接触確認アプリ（COCOA）の導入要請。
- ・会場内の消毒。

- ・空調稼働時間の延長等による換気の徹底。
- ・出演者、スタッフの氏名及び緊急連絡先を名簿化。
- ・託児サービスは行わない。
- ・パンフレット、チラシ、アンケート、ブランケットは、客席に予め設置し、手渡ししない。
- ・チケットのもぎりは、会場入口で来場者自身が行う。



映画上映会チラシ（オモテ）



映画上映会チラシ（ウラ）



映画上映会の様子

サービス等

貸館

使用施設について

(1) 使用目的

展覧会や作品の創作活動、映像、演劇及び音楽などの芸術活動の発表、練習の場として本県の芸術振興に資する使用であること。

(2) 使用料

① 展示施設を使用する場合

■ コミュニティギャラリー

室名 (面積)	使用料 (入場料等を徴収しない場合)		
	9:30 - 12:00	13:00 - 17:00	左記以外の時間帯
A (148.76㎡)	2,200 円	3,520 円	1 時間 880 円
B (60.47㎡)	900 円	1,440 円	1 時間 360 円
C (131.30㎡)	1,950 円	3,120 円	1 時間 780 円

- * 1 入場料等を徴収する場合 (使用期間内に有料配信する場合を含む) は、上記使用料の2倍とします。
- * 2 コミュニティギャラリーの1室が使用されている場合、他のコミュニティギャラリーは使用できません。

■ 企画展示室

室名 (面積)	使用料 (入場料等を徴収しない場合)		
	9:30 - 12:00	13:00 - 17:00	左記以外の時間帯
A (182.70㎡)	2,580 円	4,120 円	1 時間 1,030 円
B (140.39㎡)	2,080 円	3,320 円	1 時間 830 円
C (389.51㎡)	5,750 円	9,200 円	1 時間 2,300 円
D (228.06㎡)	3,380 円	5,400 円	1 時間 1,350 円
E (105.91㎡)	1,550 円	2,480 円	1 時間 620 円
映像室 (70.38㎡)	1,030 円	1,640 円	1 時間 410 円

- * 1 入場料等を徴収する場合 (使用期間内に有料配信する場合を含む) は、上記使用料の2倍とします。
- * 2 企画展示室の使用については、原則として県立美術館との共催事業に限ります。

② シアター等を使用する場合

室名 (面積)	使用料 (入場料等を徴収しない場合)
シアター (220 席) (348.20㎡)	1 時間 2,500 円
映写室 (36.36㎡)	1 時間 260 円
アナウンスブース (6.35㎡)	1 時間 50 円
ワークショップ A (124.38㎡)	1 時間 930 円
ワークショップ B (185.28㎡)	1 時間 1,350 円
暗室 (22.45㎡)	1 時間 160 円
スタジオ (100.98㎡)	1 時間 750 円
映像編集室 (24.77㎡)	1 時間 180 円
スタジオ映写室 (28.88㎡)	1 時間 210 円

- * 1 入場料等を徴収する場合 (使用期間内に有料配信する場合を含む) は、上記使用料の2倍とします。
- * 2 ワークショップ、暗室 (写真現像用途には適していません)、スタジオ、映像編集室及びスタジオ映写室は、当面の間貸出を停止します。
- * 3 映写室、アナウンスブースは、シアターを利用する場合、使用できます。
- * 4 シアター借用時は、映写室も併せて借用いただけます。

(3) 使用期間

① 展示施設

- ・コミュニティギャラリーは、原則として、月曜日始まり、日曜日終わりの1週間単位での使用期間とし、同一の利用者について引き続き5週間を超えることはできません。
- ・企画展示室については、原則として、1週間単位での使用期間とし、同一の利用者について引き続き5週間を超えることはできません。

② シアター等

- ・1時間単位での使用期間とし、同一の利用者について原則として引き続き10日を超えることはできません。

* 美術館のすべての施設において

- ・美術館の休館日は、原則として使用できません。(準備、撤去作業の場合は除く。)
- ・毎年度日数を定めて開催している展覧会や上記使用期間では開催目的が達成されない場合において必要と認められるときは、使用期間を変更できるものとします。

(4) 使用時間

① 美術館の施設使用時間は、美術館の開館時間〔9時30分から17時まで〕とします。なお、施設使用上やむを得ない理由があると認められる場合には、閉館後、1時間単位で20時まで延長することができます。開館時間前の使用については、御相談ください。

② 施設使用時間には、展覧会等の準備の時間及び撤収の時間も含まれます。(延長した場合であっても20時には撤収が完了していなければなりません。)

③ 展示施設は、9時30分から12時、13時から17時の使用区分とし、それ以外は1時間単位での使用とします。

④ シアター等は、1時間単位での使用とします。

■コミュニティギャラリー、企画展示室、シアターほか

(単位：人)

使用期間	使用者	催事名	使用施設	入場者数
5/17 - 7/6	青森放送	誕生65周年記念 ミッフィー展	企画展示室	37,822
6/17 - 6/20	奥崎 文一	フォトグループ3g写真展	コミュニティギャラリーC	171
7/15 - 8/16	青函文化経済研究所	佐々木宏子 青のあいだ 無から有	コミュニティギャラリーABC	869
8/17 - 8/29	アウトブット展実行委員会	アウトブット展2021	コミュニティギャラリーABC	1,088
10/23 - 10/24	平舘福祉会	エコル作品展	コミュニティギャラリーA	65
10/29 - 10/31	MOA美術館青森児童作品展実行委員会	MOA美術館青森児童作品展	コミュニティギャラリーABC、シアター、映写室	559
11/5 - 11/7	津軽裂織さくり会 村上あさ子	津軽裂織教室作品展 - 在るが儘 -	コミュニティギャラリーC	114
11/10 - 11/15	青森県高等学校文化連盟美術部	第42回青森県高等学校総合文化祭	コミュニティギャラリーABC	529
11/19 - 11/23	伊藤 寛	津軽三十六景と絵画教室展	コミュニティギャラリーABC	507
11/27 - 11/28	有限会社サンサンサン	伊藤ゴロー「AMOROZSOFIA」 青森県立美術館シアター室内楽コンサート	シアター、映写室	99

合計 41,823人

サービス等

図書室

概要

図書室は、館の美術情報センターとしての機能を担い、その機能のうち美術に関する図書資料情報を収集、整理、保存、提供することで美術の普及を図ることを目的として、一般開放している。

具体的には、美術に関する専門ライブラリとして、来館者に対し、当館所蔵作品・作家に関するものをはじめ、美術に関する知識を深める図書資料情報の提供、閲覧、美術及び図書資料に関する相談受付（レファレンス）、他美術館等の展覧会情報の提供等を行っている。

設備：図書閲覧席 20席

開館日・開室時間：美術館開館日の10:00 - 16:00

図書資料の収集方針

「青森県立美術館作品収蔵基本方針」に準じ、1) 近・現代の青森県出身作家及びゆかりのある作家に関するもの、2) 青森県以外の近・現代の美術状況に対応するために必要な優れた美術作品に関するもの、3) 今に生きる県民の心の原点に関わり、未来に資するもの、4) 1 - 3を理解するために必要なもの、を購入および寄贈により収集した。

蔵書数（令和3年度3月末現在）

- ・美術図書 5,845冊
 - ・デザイン・建築関係図書 495冊
 - ・写真関係図書 662冊
 - ・絵本・イラスト関係図書 1,258冊
 - ・民俗・歴史関係図書 610冊
 - ・音楽・映画・舞台関係図書 1,023冊
 - ・展覧会カタログ 15,955冊
 - ・その他（自然科学、文学など） 2,705冊
 - ・雑誌（約60タイトル） 12,455冊
- ※継続購入は14タイトル
- 計 41,008冊

サービス

図書資料閲覧

美術に関する映像ソフトの鑑賞

美術に関する図書資料に係る相談受付（レファレンス）

当館に関する情報の掲載誌の閲覧

実績

開室日数：245日

利用者数：1,529人

レファレンス利用件数：6件

令和3年度図書室利用実績

	開室日数(日)		入室者数(人)		レファレンス	
	月計	月計	1日平均	月計	1日平均	
4月	28	160	5.7	1	0.04	
5月	25	150	6.0	1	0.04	
6月	29	250	8.6	0	0.00	
7月	29	215	7.4	0	0.00	
8月	30	244	8.1	2	1.00	
9月	休館	—	—	—	—	
10月	29	134	4.6	0	0.00	
11月	29	242	8.3	1	0.03	
12月	25	95	3.8	0	0.00	
1月	21	39	1.9	1	0.05	
2月	休館	—	—	—	—	
3月	休館	—	—	—	—	
計	245	1,529	6.2	6	0.02	

事業

1 美術館事業への支援・事業との連携

当館で行う常設展示及び企画展示と連携し、開催期間中、所蔵図書資料のうち展示に関連する資料を展示用書架にて紹介した。

2 他の美術館・関係団体等との連携

「新着カタログコーナー」にて、新しく受け入れた他美術館の展覧会カタログを継続的に紹介した。

サービス等

キッズルーム

概要

絵本やお絵かき、積み木などを親子で楽しむことを通じて、子どもたちの美術への関心を高めることを目的として、地下1階「キッズルーム」を、来館者の多い土日祝日と企画展開催時の平日に無料で開放している。

「キッズルーム」は、約600冊の絵本をはじめとして、スイスのnaef（ネフ）社製やおもり木製玩具研究会「わらはんど」製作の色や形の美しい積み木やお絵かきを自由に楽しめる空間となっている。

利用実績

令和2年度より新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、キッズルームを閉室している。

(令和2年3月までの閉室時間は、土日祝日及び企画展開催時の平日10:00 - 15:00)

サービス等

博物館実習

概要

博物館法施行規則第1条に定められた学芸員資格取得に関する博物館実習を実施した。

実施内容：美術館における諸活動（展示・収蔵・教育普及等）

期間：2021年8月23日（月）－27日（金）

実習指導：青森県立美術館職員他

実習生：5大学6名

弘前学院大学（1名）、宮城学院女子大学（1名）、女子美術大学（2名）、立正大学（1名）、八洲学園大学（1名）

プログラム

令和3年度 博物館（美術館）学芸員実習日程

第1日目 8月23日（月）

- ・オリエンテーション
- ・施設見学（バックヤードおよび作業動線含む）
- ・青森県立美術館の概要について
- ・学芸員の仕事について
- ・美術館のコレクション形成について
- ・地域に根ざした美術館活動について
- ・実習日誌作成

第2日目 8月24日（火）

- ・作品の保存・管理について（空調設備見学含む）
- ・作品の取扱いおよび調書作成（日本画、油彩画、立体、紙作品）
- ・美術館の施設およびサイン計画について（サイン等掲示物の作成実技含む）
- ・来館者対応と美術館のホスピタリティーについて～アテンダントの仕事～監視・受付
（新型コロナウイルスへの対応を含む）
- ・実習日誌作成

第3日目 8月25日（水）

- ・美術館の教育普及活動について
- ・美術館のパフォーミングアーツ活動
- ・展覧会の作り方（タイガー立石展見学、及び梱包・展示器具取扱い等実技含む）
- ・ディスカッション「文化財の保存と活用」
- ・実習日誌作成

第4日目 8月26日（木）

- ・展覧会の企画と実施の前に 1「収集と展示の練習」
- ・展覧会の企画と実施の前に 2「解説と広報の練習」
- ・[演習] 展覧会を企画してみよう1 テーマ設定、作品リストの完成
- ・[演習] 展覧会を企画してみよう2 普及活動の検討
- ・実習日誌作成

第5日目 8月27日（金）

- ・[演習] 展覧会を企画してみよう3 展示プラン作成
- ・[演習] 展覧会を企画してみよう4 展示上の留意点
- ・[演習] 企画した展覧会を発表してみよう（発表＋講評）
- ・実習日誌作成

サービス等

サポートシップ倶楽部

概要

青森県立美術館の活動に協力するとともに広く県民の美術その他の芸術文化の向上に寄与するために平成27年度（平成28年3月）に発足した任意団体。

会員の区分と年会費

一般会員

成人会員：3,000円、学生会員（高校生以上）：2,000円、
法人会員：30,000円

特別会員（総会出席）

法人会員：一口100,000円

会員数（令和4年3月31日現在）

一般会員：成人会員72名、学生会員1名、法人会員6団体
特別会員：15法人（36口）

特典

会員への情報提供

一般会員

常設展観覧料無料観覧（法人会員は3名まで同時観覧可能）
企画展観覧料無料招待券配布のほか、いつでも団体料金で観覧可
ミュージアムショップ割引
カフェ割引
等

特別会員

企画展内覧会・レセプション招待
等

令和3年度事業報告

1 美術館活動への支援事業

(1) 美術品購入及び寄贈

中野渡尉隆作品を購入し、青森県立美術館へ寄贈した。

(2) 美術資料の充実

美術品寄付のための積み立て。

(3) 美術館ファンの拡大

一般会員の会員特典（観覧料無料）をアピールし、観覧者数の増加を図った。延べ観覧者数243名。

2 県民の美術その他の芸術文化の向上に寄与するための事業

(1) 展覧会関連の講演会・ワークショップ等への協賛等

企画展「東日本大震災10年あかし testaments」関連事業への協賛

○「サポートシップ倶楽部特別会員によるナイトミュージアム無料招待イベント」

令和3年12月18日（土）17:00 - 20:00 /

青森県立美術館

ナイトミュージアム来館者を企画展へ無料招待するイベントを実施。

(2) 視察研修

新型コロナウイルス感染症対策の影響により中止

3 理事会及び総会の開催について

新型コロナウイルス感染症対策の影響により、会議は開催せず、書面にて必要な議決等を行った。

(1) 第1回理事会

①議決日 令和3年6月28日（月）

②議決方法 書面にて表決

③議事

第1号議案 令和2年度事業報告の件

第2号議案 令和2年度収支決算の件

第3号議案 令和3年度事業計画（案）の件

第4号議案 令和3年度収支予算（案）の件

第5号議案 役員辞任の件

④結果

すべての議案について、全役員賛成をもって可決

(2) 第1回総会

①議決日 令和3年7月9日（金）

②議決方法 書面にて表決

③議事

第1号議案 令和2年度事業報告の件

第2号議案 令和2年度収支決算の件

第3号議案 令和3年度事業計画(案)の件

第4号議案 令和3年度収支予算(案)の件

第5号議案 役員の辞任の件

④結果

すべての議案について、全特別会員の賛成をもって可決

資料

広報

県の広報媒体を活用した広報活動や、Twitter・Facebook等のソーシャルメディアネットワークによる活動を展開した。

(1) 県広報による実績

- ・青森放送（RAB テレビ）「LINK/青森県」1件
- ・青森朝日放送（ABA テレビ）「メッセージ」1件
- ・青森放送（RAB ラジオ）「県広報タイム」14件
- ・エフエム青森「あおもり・ふぁん」15件
- ・東奥日報、デーリー東北、陸奥新報「広報あおもりけん」7件
- ・広報広聴課 Facebook「県政トピックス」6件
- ・コンビニ等から県政情報の発信！6件

(2) ソーシャルメディア

- ・Twitter
アカウント：aomori_museum_of_art@aomorikenbi
フォロワー：66,129人（2022年3月末時点）
- ・Facebook
アカウント：https://www.facebook.com/aomori.museum
フォロワー：8,702人（2022年3月末時点）
- ・instagram
アカウント：aomorikenbi
フォロワー：14,783人（2022年3月末時点）

(3) ホームページ

URL：https://www.aomori-museum.jp

年間アクセス数（2021.4 - 2022.3）：368,706件

(4) 雑誌等掲載実績（主なもの、順不同）

- ・ウェブ版美術手帖
- ・美術の窓
- ・和楽
- ・美術展びあ
- ・arch
- ・月刊美術
- ・芸術新潮
- ・美術屋・百兵衛
- ・アートアジェンダ
- ・アートコレクターズ
- ・インターネットミュージアム
- ・ウォーカープラス
- ・まっぶる
- ・るるぶ

- ・ことりっぶ
 - ・じゃらんニュース
 - ・大人の休日倶楽部
 - ・旅の手帖
 - ・rakra
 - ・あおもりのき
 - ・CasaBRUTUS
 - ・月刊MOE
 - ・ART iT
- ほか多数

資料

広聴

青森県立美術館アドバイザー・ボード

青森県立美術館のより良い運営を推進するため、青森県立美術館の運営に関して専門的及び県民の立場から必要な助言等を行う第三者委員会を設置。

アドバイザー（順不同 2022年3月31日現在）

座長 建島 哲（全国美術館会議会長・多摩美術大学学長・
埼玉県立近代美術館館長）

三上 満良（東北芸術工科大学講師、宮城県美術館
元副館長）

山田 泰子（八戸市新美術館建設推進室室長）

蜷川 有紀（美術家・女優）

三澤 一実（武蔵野美術大学教授）

奈良 秀則（青森観光コンベンション協会会長）

花田 玲子（県民代表）

第7回

開催日：2022年3月30日（水）

会場：青森県立美術館（オンライン開催）

会議開催状況

第1回

開催日：2016年3月19日（土）

会場：青森県立美術館

第2回

開催日：2017年2月9日（木）

会場：青森県立美術館

第3回

開催日：2018年3月12日（月）

会場：青森県立美術館

第4回

開催日：2019年2月28日（木）

会場：青森県立美術館

第5回

開催日：2020年3月19日（木）

会場：青森県立美術館

第6回

資料送付日：2021年3月23日（火）（書面開催）

資料

入館者数

(単位：人)

	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度 ①	R3年度 ②	増減 (②-①)	
常設展	一般観覧者	193,501	89,229	109,609	190,672	233,192	141,904	177,266	179,793	73,541	137,198	92,714	125,342	134,453	92,807	39,216	38,421	△ 795
	スクール免除	12,685	6,968	6,668	9,098	11,574	6,777	5,798	3,712	3,845	3,530	3,295	2,448	2,612	1,898	2,868	3,249	381
	常設展計	206,186	96,197	116,277	199,770	244,766	148,681	183,064	183,505	77,386	140,728	96,009	127,790	137,065	94,705	42,084	41,670	△ 414
企画展	シャガール展	192,918																
	縄文と現代展	14,894																
	工藤甲人展	1,680	10,950															
	旅順博物館展		30,065															
	舞台芸術の世界展		6,282															
	棟方志功・崔榮林展		4,156															
	寺山修司展			9,533														
	大ナボレオン展			46,609														
	小島一郎展			8,660														
	ウィーン展				36,884													
	(特別展 太宰治と美術展)				(23,191)													
	馬場のぼる展				25,464													
	ラブラブショー				5,160													
	ローマ展					45,622												
	ロボット展					25,076												
	芸術の青森展					3,530												
	印象派展						105,758											
	今和次郎展						4,807											
	フィンランド展							31,876										
	Art and Air 展							18,267										
	奈良美智展							80,275										
	種差展								16,807									
	横尾忠則展								10,516									
	日本の民家展								5,115									
	工藤哲巳展									5,056								
	美少女展									33,866								
	関野準一郎展									8,158								
	成田亨展										18,257							
	化け物展										32,984							
	「青森EARTH2015 みちの奥へ」展示											3,022						
	棟方志功展												17,427					
	日展												19,094					
	青森EARTH2016 根と路												11,190					
	澤田教一展												10,195					
	ラブラブショー2展													10,962				
	遙かなるルネサンス展													40,188				
	近代洋画展													6,762				
	シャガール-三次元の世界展													4,057	14,665			
	フランスと日本展														31,543			
	めがねと旅する美術展														16,867			
	アルヴァ・アアルト展														12,858			
	子どものための建築と空間展														13,431			
	青森EARTH2019:いのち耕す場所														5,944			
	阿部合成展														5,354			
	富野由悠季の世界展														6,079	10,474		
	大・タイガー立石展																7,549	
	あかし testaments 展																6,246	
企画展計	209,492	51,453	64,802	67,508	74,228	110,565	130,418	32,438	47,080	54,263	57,906	61,969	63,075	32,233	11,433	24,269	12,836	
教育普及	スクールプログラム	18,775	9,905	9,242	7,087	7,272	7,368	6,310	5,792	3,974	4,065	4,158	2,687	3,762	2,265	3,840	5,305	1,465
	普及プログラム	2,300	2,148	2,873	886	718	11,763	2,565	2,744	1,575	557	96	851	1,692	568	331	0	△ 331
	お出かけ講座	1,196	1,587	1,122	1,119	537	1,250	1,022	1,245	383						0	0	0
	展示関係プログラム			625	1,526	7,546	930	909	1,738	932	757	1,688	482	549	541	0	143	143
	その他	500		464	266	399	387	351	136	440	393	411	1,161	285	281	5	6	1
教育普及計	22,771	13,640	14,326	10,884	16,472	21,698	11,157	11,655	7,304	5,772	6,353	5,181	6,288	3,655	4,176	5,454	1,278	
アーツ・オンライン・シグ	演劇	2,170	1,821	1,516	1,333	1,085	2,962	3,468	5,255	2,258	2,140	2,163	3,054	835	2,101	326	486	160
	ダンス			1,419	1,089	520			339	699	662	490	632	602			0	0
	音楽	1,559	471	1,583	1,959	970	979	1,133	810	469	479	469	428	573	629	303	125	△ 178
	映画	975	1,954	1,584	685				240	991	503	1,024	818	1,993	446		44	44
	パフォーミングアーツ計	4,704	4,246	6,102	5,066	2,575	3,941	4,601	6,644	4,417	3,784	4,146	4,932	4,003	3,176	629	655	26
貸館	10,268	26,481	194,807	104,625	144,520	20,735	33,410	126,284	26,192	71,045	58,931	28,185	47,790	11,421	4,154	42,308	38,154	
図書館	2,552	7,727	12,910	10,012	7,864	6,561	10,688	6,818	4,662	4,307	6,557	3,467	4,474	3,542	1,961	1,529	△ 432	
キッズルーム		2,850	3,690	3,127	3,555	20,501	15,889	4,267	2,602	3,118	3,545	2,738	3,015	1,799	15	0	△ 15	
合計	455,973	202,594	412,914	400,992	493,980	332,682	389,227	371,611	169,643	283,017	233,447	234,262	265,710	150,531	64,452	115,885	51,433	

※ キッズルームは平成19年4月28日からオープン
 ※ 特別展太宰治と美術展入館者数は常設展入館者数に含む

資料

運営予算・決算

令和3年度

一般会計予算額

(単位：千円)

事業名	科目	細目	収入	支出	説明
美術館費	使用料及び手数料	職員費	42,253	160,795	人件費
		国庫支出金	4,820	521,042	管理運営費、調査研究費、美術資料収集費、美術資料保存管理費、展示費、教育普及費、情報事業費、パフォーミングアーツ事業費 他
	財産収入	公園管理費	87	967	青森県総合運動公園管理費
	繰入金		36,588		
	諸収入		81,181		
	県債		99,000		
	一般財源		418,875		
合計			682,804	682,804	

令和3年度

一般会計決算額

(単位：千円)

事業名	科目	細目	収入	支出	説明
美術館費	使用料及び手数料	職員費	23,470	150,931	人件費
		国庫支出金	0	449,920	管理運営費、調査研究費、美術資料収集費、美術資料保存管理費、展示費、教育普及費、情報事業費、パフォーミングアーツ事業費 他
	財産収入	公園管理費	53	575	青森県総合運動公園管理費
	繰入金		46,537		
	諸収入		46,347		
	県債		49,000		
	一般財源		436,019		
合計			601,426	601,426	

資料

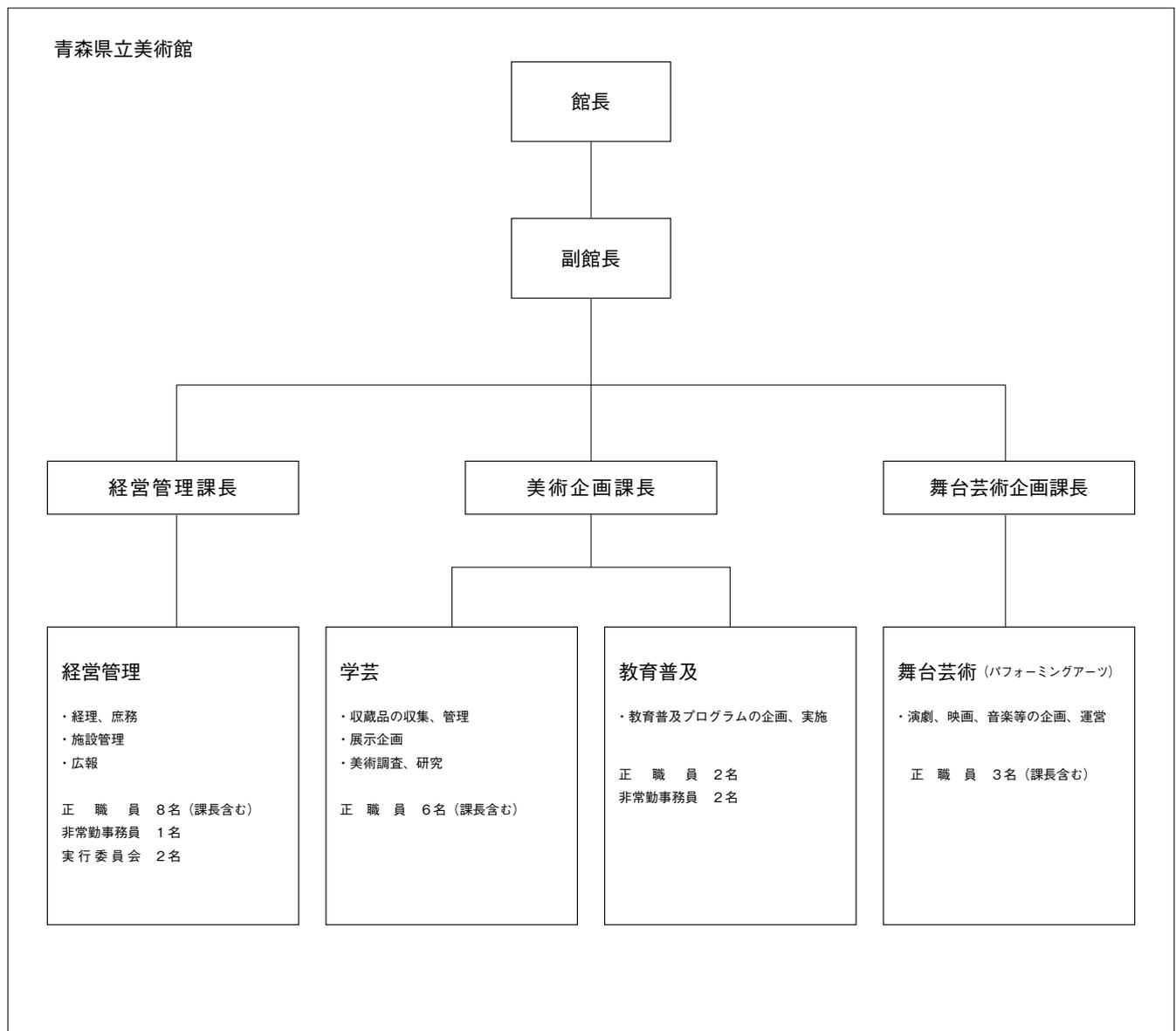
組織

□ 県立美術館の運営は、アドバイザー・ボードからの助言を得ながら行っている。

□ 館長及び県職員（非常勤含む）23名の計24名が美術館運営にあっている。

このほか、企画展実行委員会職員2名が配置されている。

（令和3年4月1日現在）



資料

関係規程等

青森県立美術館条例

(設置)

第一条 美術その他の芸術の鑑賞及び学習の機会並びに創作活動の場の提供を行うことにより、県民の芸術に関する活動への参画を支援し、もって文化の振興を図るため、青森市に青森県立美術館（以下「美術館」という。）を設置する。

(業務)

第二条 美術館は、次に掲げる業務を行う。

- 一 美術品その他の芸術に関する資料（以下「美術品等」という。）の収集、保管及び展示に関すること。
- 二 美術品等の利用に関し必要な説明、助言及び指導に関すること。
- 三 美術品等に関する専門的、技術的な調査研究に関すること。
- 四 美術品等に関する案内書、解説書、目録、図録、年報、調査研究の報告書等の作成及び配布に関すること。
- 五 美術その他の芸術に関する講演会、講習会、映写会、研究会、公演会等の開催に関すること。
- 六 美術その他の芸術に関する情報の収集及び提供に関すること。
- 七 美術その他の芸術に関する創作活動の場の提供に関すること。
- 八 その他県民の芸術に関する活動への参画を支援するために必要な業務

(使用の承認)

第三条 別表第二号又は第三号に掲げる場合において、美術館の施設を使用しようとする者は、知事の承認を受けなければならない。

(使用料)

第四条 美術館の施設を使用する者（以下「使用者」という。）は、別表に定める使用料を納入しなければならない。

2 知事は、特別の理由があると認めるときは、前項の使用料の全部又は一部を免除することができる。

(使用の制限等)

第五条 知事は、使用者が次の各号のいずれかに該当する場合は、当該使用者の美術館の使用を拒み、その使用の承認を取り消し、又はその使用を制限することができる。

- 一 他の使用者に迷惑をかけ、又はそのおそれがあるとき。
- 二 美術館の施設、設備等をき損し、若しくは汚損し、又はそれらのおそれがあるとき。
- 三 この条例又はこの条例に基づく規則に違反したとき。

2 知事は、前項に規定する場合のほか、美術館の管理運営上支障があると認めるときは、美術館の使用を制限することができる。

(委任)

第六条 この条例に定めるもののほか、美術館の管理に関し必要な事項は、規則で定める。

附則 この条例は、規則で定める日から施行する。

別表（第三条、第四条関係）

一 美術品等の観覧のための使用の場合

区分	金額（一回につき）
常設展の観覧	一人につき 千円を超えない範囲内で知事が定める額
企画展の観覧	知事がその都度定める額

二 展示施設の使用の場合

イ 入場料その他これに類する料金を徴収しないで使用する場合

区分	九時三十分から十二時まで	十三時から十七時まで	九時三十分以前、十二時から十三時まで及び十七時以降
コミュニティギャラリーA	二千三百十円	三千四百円	八百五十円
コミュニティギャラリーB	八百八十円	千四百円	三百五十円
コミュニティギャラリーC	千八百八十円	三千円	七百五十円
展示室A	二千五百円	四千円	千円
展示室B	二千円	三千二百円	八百円
展示室C	五千五百円	八千八百円	二千二百円
展示室D	三千二百五十円	五千二百円	千三百円
展示室E	千五百円	二千四百円	六百円
映像室	千円	千六百円	四百円

ロ 入場料その他これに類する料金を徴収して使用する場合は、この場合の使用料の額の二倍に相当する額

三 シアター等の使用の場合

イ 入場料その他これに類する料金を徴収しないで使用する場合

区分	金額（一時間につき）
シアター	二千四百円
映写室	二百六十円
アナウンスブース	五十円
ワークショップA	九百円
ワークショップB	千三百円
暗室	百六十円
スタジオ	七百二十円
映像編集室	百八十円
スタジオ映写室	二百十円

ロ 入場料その他これに類する料金を徴収して使用する場合は、この場合の使用料の額の二倍に相当する額

四 食堂施設又は売店施設の使用の場合

知事が定める額

青森県告示第 五百二十五 号

青森県立美術館条例（平成十七年十月青森県条例第六十九号）別表第四号の規定により、青森県立美術館の食堂施設及び売店施設の使用料の額を次のとおり定める。

平成十八年七月十二日

青森県知事 三村申吾

区分	金額（一年につき）
食堂施設	八十三万四千八百円
売店施設	六十六万五千六百円

備考 使用期間が一年に満たないとき、又は使用期間に一年に満たない端数があるときは、その全期間又は端数部分について日割で計算する。

青森県立美術館規則

（趣旨）

第一条 この規則は、青森県立美術館条例（平成十七年十月青森県条例第六十九号。以下「条例」という。）第六条の規定に基づき、青森県立美術館（以下「美術館」という。）の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

（開館時間）

第二条 美術館の開館時間は、午前九時三十分から午後五時まで（六月一日から九月三十日までの期間にあっては、午前九時から午後六時まで）とする。

2 美術館の副館長（以下「副館長」という。）は、必要があると認めるときは、前項の開館時間を変更することができる。

第三条 美術館の休館日は、次のとおりとする。

一 毎月第二月曜日及び第四月曜日（その日が国民の祝日に関する法律（昭和二十三年法律第七十八号）に規定する休日にあたるときは、その翌日）

二 十二月二十七日から同月三十一日までの日

2 副館長は、必要があると認めるときは、前項の休館日に開館し、又は同項の休館日以外の日に休館することができる。

（使用の承認の手続）

第四条 条例第三条の規定による使用の承認（以下「使用の承認」という。）を受けようとする者は、使用申込書を知事に提出しなければならない。

2 知事は、使用の承認をしたときは、当該使用の承認を受けた者に使用承認書を交付するものとする。

（使用料の免除の申請）

第五条 条例第四条第二項の規定による使用料の免除を受けようとする者は、免除申請書を知事に提出しなければならない。

（使用の承認の取消し等）

第六条 副館長は、美術館の施設を使用する者（以下「使用者」という。）が不正な手段により使用の承認を受けたと認めるときは、その使用の承認を取り消し、又はその使用を制限することができる。

（原状回復等）

第七条 使用者は、故意又は重大な過失により美術館の施設、設備、美術品その他の芸術に関する資料等をき損し、又は汚損したときは、原状に復し、又は現品若しくはそれに相当する代価をもって弁償しなければならない。

附則

この規則は、平成十八年七月十三日から施行する。

附則

この規則は、平成二十七年四月一日から施行する。

青森県立美術館管理規程

（趣旨）

第1条 この規程は、青森県立美術館条例（平成17年10月青森県条例第69号。以下「条例」という。）及び青森県立美術館規則（平成18年7月青森県規則第72号。以下「規則」という。）に定めるもののほか、青森県立美術館（以下「美術館」という。）の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

（観覧券の交付）

第2条 条例別表第1号に定める使用料を納入した者に対し、観覧券を交付するものとする。

（使用の承認）

第3条 規則第4条第1項に規定する使用申込書の様式は、第1号様式とする。

2 規則第4条第2項に規定する使用承認書の様式は、第2号様式とする。

3 規則第4条に規定する使用承認の手続きに関し必要な事項は、副館長が別に定める。

（使用料の納付）

第4条 使用の許可を受けた者は、納入通知書により指定する日までに使用料を納入しなければならない。

（使用料の還付）

第5条 納付された使用料は、還付しない。ただし、天災その他利用者の責めによらない理由により美術館を使用できなくなった場合は、この限りではない。

2 前項ただし書きにより使用料の還付を受けようとする者は、使用料還付請求書（第3号様式）を副館長に提出しなければならない。

（使用料等の免除）

第6条 副館長は、条例別表第1号に規定する常設展の観覧が次の各号のいずれかに該当するときは、規則第5条の規定により使用料の全部又は一部を免除するものとし、その免除の額は、当該各号に定める額とする。

一 教育課程に基づく学習活動として観覧する小学校、中学校、中等教育学校前期課程及び特別支援学校の児童、生徒及び引率する教職員が観覧するとき 使用料の全部の額

二 児童福祉法（昭和22年法律第164号）第7条に規定する児童福祉施設に入所している少年及び引率する当該施設の職員が観覧するとき 使用料の全部の額

三 身体障害者福祉法（昭和24年法律第283号）第15条

第4項の規定による身体障害者手帳の交付を受けている者及びその付添人が観覧するとき（ただし、免除する付添人は、当該障害者一人につき一人までとする。）使用料の全部の額

四 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（昭和25年法律123号）第45条第2項の規定による精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者、療育手帳の交付を受けている知的障害者及びこれらの付添人が観覧するとき（ただし、免除する付添人は、当該障害者一人につき一人までとする。）使用料の全部の額

五 前各号に掲げるもののほか、副館長が特別の理由があると認めるとき 使用料の全部の額又は一部の額

2 前項第1号、第2号及び第5号に規定する常設展の使用料の免除を受けようとする者は、常設展の観覧使用料免除申請書（第4号様式）を副館長に提出しなければならない。

3 副館長は、条例別表第2号又は第3号に掲げる施設の使用が美術館の目的にふさわしい資料展示、講習会、研究会等のためであり、かつ、次の各号のいずれかに該当するときは使用料の全部又は一部を免除するものとし、その免除の額は、当該各号に定める額とする。

一 学校教育法（昭和22年法律26号）第1条に規定する学校が教育課程に基づく学習活動として使用するとき 使用料の全部の額

二 児童福祉法（昭和22年法律第164号）第7条に規定する児童福祉施設に入所している少年を対象とする事業に使用するとき 使用料の全部の額

三 身体障害者福祉法（昭和24年法律第283号）第15条第4項の規定による身体障害者手帳の交付を受けている者及びその付添人を対象とする事業に使用するとき 使用料の全部の額

四 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（昭和25年法律123号）第45条第2項の規定による精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者及び療育手帳の交付を受けている知的障害者とこれらの付添人を対象とする事業に使用するとき 使用料の全部の額

五 美術館を構成員とする実行委員会等が主催して使用するとき 副館長が事案に即して相当と認める額又は使用料の全額

六 芸術の振興を目的として活動している団体が主体となって、美術館と共催し使用するとき 使用料の2分の1に相当する額を基本として副館長が事案に即して相当と認める額

七 前各号に掲げる場合のほか、副館長が特別の理由があると認めるとき 副館長が定める額

4 前項に規定する施設の使用料の免除を受けようとする者は、施設使用料免除申請書（第5号様式）を副館長に提出しなければならない。

（美術品等の貸出）

第7条 副館長は、別に定めるところにより美術館の資料を貸し出すことができる。

（美術品等の寄託又は寄贈）

第8条 副館長は、別に定めるところにより美術資料の寄託又

は寄贈を受けることができる。

（美術資料の特別観覧）

第9条 副館長は、美術館に収蔵されている美術資料について学術研究等のために必要があると認めるときは、当該美術資料の模写、模造、撮影等（以下「特別観覧」という。）をさせることができる。

2 前項に規定する特別観覧をしようとする者は、特別観覧承認申請書（第6号様式）を副館長に提出しなければならない。

附則

この規定は、平成18年7月13日から施行する。

この規程は、平成19年6月25日から施行する。

この規定は、平成21年1月19日から施行する。

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

青森県立美術館アドバイザー・ボード設置要綱

（設 置）

第1 青森県立美術館（以下「美術館」という。）のより良い運営を推進するため、青森県立美術館アドバイザー・ボード（以下「アドバイザー・ボード」という。）を設置する。

（所 掌）

第2 アドバイザー・ボードは、美術館の運営に関して必要な助言等を行う。

（構 成）

第3 アドバイザー・ボードは、8名以内のアドバイザーをもって組織する。

2 アドバイザーは、学識経験を有する者その他適当と認められる者から知事が委嘱する。

3 アドバイザー・ボードに座長を置き、アドバイザーの互選により選出する。

4 アドバイザーに欠員を生じた場合の補欠のアドバイザーの任期は、前任者の残任期間とする。

（任 期）

第4 アドバイザーの任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

（会 議）

第5 アドバイザー・ボードは、青森県立美術館長が招集する。

2 アドバイザー・ボードの議長は、座長が務める。

3 座長に事故があるときは、座長が指示するアドバイザーがその職務を代理する。

（庶 務）

第6 アドバイザー・ボードの庶務は、美術館において処理する。

（その他）

第7 この要綱に定めるもののほか、アドバイザー・ボードの運営に関し必要な事項は、美術館が別に定める。

附 則

この要綱は、平成27年8月20日から施行する。

資料

施設設備概要

建設概要

施設名称	青森県立美術館
所在地	青森市大字安田字近野 185
主用途	美術館
事業主体	青森県
設計期間	1999年12月 - 2002年3月
施工期間	2002年12月 - 2005年9月
設計監理	青木淳建築計画事務所 構造：金箱構造設計事務所 設備：森村設計 音響：永田音響設計 土系素材：I N A X
施 工	建築：竹中・西松・奥村・北斗特定建設工事共同企業体 強電：きんでん・五十嵐・野呂特定建設工事共同企業体 弱電：奈良・高田特定建設工事共同企業体 空調：高砂・青木・佐藤設備特定建設工事共同企業体 衛生：芝管・五戸特定建設工事共同企業体 昇降機：三菱電機株式会社
面 積	敷地面積：129,536.37㎡ 建築面積：7,223.07㎡ 延床面積：21,222.19㎡ 地下2階：4,736.15㎡ 地下1階：3,965.11㎡ 1階：5,339.02㎡ 2階：2,403.81㎡ 3階（機械エリア）：4,778.10㎡ 建ぺい率：5.58% 容積率：16.38%
階 数	地下2階 地上3階
寸 法	最高高：16,160 mm 軒高：15,150 mm 階高：地下2階 2,300 - 19,000 mm 地下1階 2,500 - 7,500 mm 1階 2,700 - 11,000 mm 2階 2,500 - 4,000 mm 主なスパン：3,000 mm × 3,000 mm
地域・地区	都市計画区域内 市街化区域
構 造	鉄骨鉄筋コンクリート造（地下1・2階）

鉄骨造（地上1 - 3階）	
杭・基礎：杭基礎（PHC-ST 杭）600φ・700φ、 （PHC 杭）600φ	
外部仕上げ	屋根：ウレタン塗膜防水 外壁：煉瓦 + アクリルシリコン塗装 外構：コンクリート舗装ほうき目仕上げ
内部仕上げ	【展示室（白）】 床：カラーモルタル金こて押え t=20mm + 防塵防汚塗装 壁：合板 t=15mm × 2 + プラスターボード t=12mm + 全面寒冷紗パテ処理 + EP 天井：合板 t=12mm + プラスターボード t=9mm + EP 【展示室（土）】 床：タタキ t=50mm 壁：版築 t=200mm 天井：合板 t=12mm + プラスターボード t=9mm + EP 【コミュニティホール】 床：クリフローリング t=15mm 壁：プラスターボード 12mm × 2 + スタッコ 天井：人工木材ローズウッド練り付け 【シアター】 床：フェルト t=8mm + カーペット t=7mm 壁：プラスターボード t=15mm + グラスウールボード + エキスパンドメタル t=6mm（樹脂コーティング処理） 天井：グラスウール + プラスターボード t=15mm + エキスパンドメタル t=6mm（樹脂コーティング処理） 【オフィス】 床：システム根太ユニット 600mm × 600mm + コンパネ t=12mm + クリフローリング t=15mm 壁：プラスターボード t=12mm × 2 + EP 天井：プラスターボード 12mm + 吸音板 t=12mm + EP
空調設備	A H U ・ 定風量単一ダクト方式、一部 F C U 、 空冷パッケージ方式、冷温水発生機、加湿用蒸気ボイラ、空冷チラー
照明設備	LED 照明、スポットライト及び蛍光灯（調光設備・紫外線カット付）

消火設備	<p>屋内消火栓、スプリンクラー、不活性ガス（窒素）消火、加圧式粉末 ABC 消火器</p> <p>設備項目：防排煙設備、屋内消火栓設備、スプリンクラー設備（開放型、予作動型）、窒素ガス消火設備（一部展示室、収蔵庫、熱源機械室）</p>
排煙設備	機械排煙設備（3系統）
防犯設備	常時警備員巡回。展覧会開催中は会場内に監視スタッフを配置。展示室等に監視カメラを設置。
衛生設備	<p>給水：受水槽（42 t）＋加圧給水ポンプユニット方式</p> <p>給湯：貯湯式電気温水器、ガス湯沸器（厨房）</p> <p>排水：下水道放流（汚水・雑排水）</p>
電気設備	<p>受電方式：高圧電力3φ3W 6,600 V（業務用電力＋融雪電力）</p> <p>設備容量：2,650 kVA</p> <p>契約電力：830 kW</p> <p>予備電源：非常用発電設備 500 kVA、直流電源設備（非常照明用）</p> <p>設備項目：受変電設備、自家発電設備、動力設備、電灯設備、展示調光設備、避雷設備、構内交換設備、情報通信設備、誘導支援設備、テレビ共同受信設備、監視カメラ設備、拡声設備、自動火災報知設備、演出照明設備（シアター、スタジオ）、演出音響設備、映写設備（シアター）</p>
昇降機	荷物用エレベータ 1 台 乗用エレベータ 8 台

アクセス

- J R新青森駅から車で約 10 分
- 青森駅から車で約 20 分
- 青森空港から車で約 20 分
- 東北縦貫自動車道青森 I.C. から車で約 5 分
- (八戸方面から) 青森自動車道青森中央 I.C. から車で約 10 分
- 市営バス 青森駅前 6 番バス停から三内丸山遺跡行き
「県立美術館前」下車 (所要時間約 20 分)
- ルートバスねぶたん号新青森駅東口バス停から乗車
「県立美術館前」下車 (所要時間約 10 分)



青森県立美術館年報

令和 3 年度

編集・発行：青森県立美術館

青森市安田字近野 185 038-0021

017-783-3000

表紙デザイン：菊地敦己

印刷：青森オフセット印刷株式会社

発行日：2023 年 3 月